

「統合型学生支援システムの構築による 女子高等教育機会の保証」事業 最終報告書



国立大学法人 お茶の水女子大学
学生・キャリア支援センター

平成26年3月

はじめに

本学は、文部科学省特別教育研究経費（幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実）を受け、平成 22 年度から 25 年度の 4 年間にわたって「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」事業に取り組んでまいりました。

本書は、本事業の最終報告書として、これまでの取り組みをまとめたものです。

諸々の教育格差の拡大が社会問題となり、高等教育機会の均等化があらためて社会的課題となっております。それに伴い、学生の生活基盤の実態をふまえ、個々の学生のニーズをきめ細かに把握し、そのために必要な学生支援策を講じることが、大学に対して強く求められるようになりました。

本事業では、支援する側である大学の視点から個別に展開されてきた学寮施策や独自奨学金施策といった経済・生活支援策を見直し、被支援者である個々の学生ごとに多様なニーズを把握し、きめ細やかで効果的な統合型学生支援システムを構築することを主たる目的としております。さらに、本事業の一環として実施した学生支援ニーズの調査の結果、極めて高いニーズが示されたキャリア支援策の充実にも力を入れることといたしました。

本報告書では、「学生支援ニーズの把握およびそれに基づく支援の提供」「学寮機能の整備および新寮の機能設計・運営」「大学独自奨学金制度の整備」「キャリア支援体制の整備」「学生による学生支援制度の設計・運営」を柱とし、学生支援室や学生・キャリア支援センターの教員と、学生・キャリア支援チームの職員を中心に、教職協働による全学的協力体制での取組の成果がつづられております。

本書以外にも、本事業における各種調査やシンポジウムの取組の一部に関しては、別途、報告書としてとりまとめております。そちらにつきましても、併せてご覧いただければ幸いです。

本事業の取組は、事業期間終了後も学内において継続して推し進めてまいります。今後とも皆様のご指導・お力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

平成 26 年 3 月吉日

国立大学法人お茶の水女子大学長 羽入佐和子

目次

はじめに

1. 「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」事業の概要	
(1) 事業の目的および取組内容	4
(2) 年度ごとの実施計画および実施状況	7
(3) ホームページによる情報発信	11
2. 学生支援ニーズの把握およびそれに基づく支援の提供	
(1) 各種調査の設計・実施・分析	13
1) 新入生の生活に関する調査	13
2) キャリア意識に関する調査	18
3) 留学生に対するヒアリング調査	22
(2) 学生モニター制度の試行	24
(3) 学生カルテシステムの設計および構築	30
3. 学寮機能の整理および新寮の機能設計・運営	
(1) 本学の学生寮の特徴	32
(2) 新寮の機能設計・運営	34
1) お茶大 SCC の初期構想・理念・概要	34
2) 学生支援プログラム	36
(3) 学生寮シンポジウム ～大学の戦略と教育可能性～	47
(4) 本学の学生寮調査 ―学生寮の生活環境及び人間関係に着目して―	55
(5) 海外の大学の学生寮視察調査	68
1) アメリカの学生寮	68
2) アジアの学生寮	75
4. 大学独自奨学金制度の整備	
(1) 本学の独自奨学金制度の整備状況	83
(2) シンポジウム「大学独自奨学金の行方 ―学生のニードと大学の戦略―」	84
(3) みがかずば奨学金制度に関する調査	88
1) 高等学校に対する調査	88
2) みがかずば奨学金受給（経験）者に対するヒアリング調査	100

5. キャリア支援体制の整備	
(1) 支援行事の充実	104
(2) 相談体制の拡充	107
(3) キャリア支援に関する広報活動	108
6. 学生による学生支援制度の設計・運営	
(1) 新寮レジデント・アシスタント (SCC-RA)	110
(2) 内定者によるキャリア支援サポーター	115
おわりに	122
統合型学生支援システム構築に係る運営会議メンバー	124

執筆担当者

羽入 佐和子 [学長]

担当：はじめに

耳塚 寛明 [理事・副学長 (教育機構長)、学生・キャリア支援センター長]

担当：おわりに

望月 由起 [学生・キャリア支援センター 特任准教授]

担当：1、2、3、4、5、6

桂 (赤坂) 瑠以 [学生支援センター 講師 (学寮アドバイザー) ～平成25年2月]

担当：2、3、6

北澤 泰子 [学生・キャリア支援センター 特任アソシエイトフェロー (学寮アドバイザー)
平成25年5月～]

担当：2、3、6

岸野 幸子 [学生・キャリア支援センター アソシエイトフェロー]

担当：5、6

1. 「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」事業の概要

(1) 事業の目的および取組内容

国立大学お茶の水女子大学（以下、「本学」という）では、特別教育研究経費（幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実）を受け、平成 22 年度から 25 年度の 4 年間にわたり、「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」事業を実施した。

本事業は、支援する側の視点から個別に展開されてきた、授業料減免施策、学寮施策、大学独自奨学金施策を見直し、被支援者である個々の学生ごとに、多様なニーズを把握し、きめ細やかで効果的な統合型学生支援システムを構築し、女子高等教育機会の均等化を図り、本学の教育機能の基盤を確保することを目的とするものである。

上記の目的を達成するために、学生支援室、学生支援センター（平成 25 年度より「学生・キャリア支援センター」に改名）を中心に、全学的協力体制のもとで、以下の取組みを実験的に運用しつつ、統合型学生支援制度を整備した。

学生支援カルテ（情報）システムの構築

学生モニターを公募し、学生の生活実態および支援へのニーズを的確に把握するための調査方法を開発し、それに基づいて、保護者を含む学生生活実態調査を実施する。学生の生活実態を踏まえ、学生支援カルテ（情報）システム（独立型サーバー上で現教務事務管理システムを拡張し、カルテを管理するソフトウェアを開発）を構築する。カルテを分析し適切な支援プランを提供するスペシャリストを雇用し、学生支援センターに配置する。プライバシーに格段の配慮をしつつ、心身の健康に関する支援と連動させる相談体制を築く。学生生活における様々なリスクの分析と支援を総合的に行うための学生支援スペシャリスト養成のためのマニュアル・テキストを作成する。留学生の生活実態については、その固有の課題を把握し対応するための方策を検討する。

新寮の建設と学寮機能の整理

既設の学寮の機能と対象等を再検討し、また、教育的機能を持った新寮を設計・建設（設計・建設経費は目的積立金により対応可能）して、3 タイプ程度に機能分化した学寮システムへと再編する。新寮は単なる安価なアパートではなく、プライバシーを確保しつつ他者との共生を通じて自主協同に必要な精神とコミュニケーション能力を培うことを目指す、教育的機能を持った寮とする。最終的に、共に生活し成長することを目指すキャンパス・ライフ・スタートアップ型（living-commons 型）寮（学部 1、2 年生対象の新寮）、国際交流型寮（学部 1～4 年生と留学生対象の既存寮）、キャリア発展期向け個室寮（大学院生対象の既存寮）からなる、多様なニーズに応え得る学生寮群を目指し、それらに必要な設備の改修を行う。これを、実験的に運用しながら修正を加える。

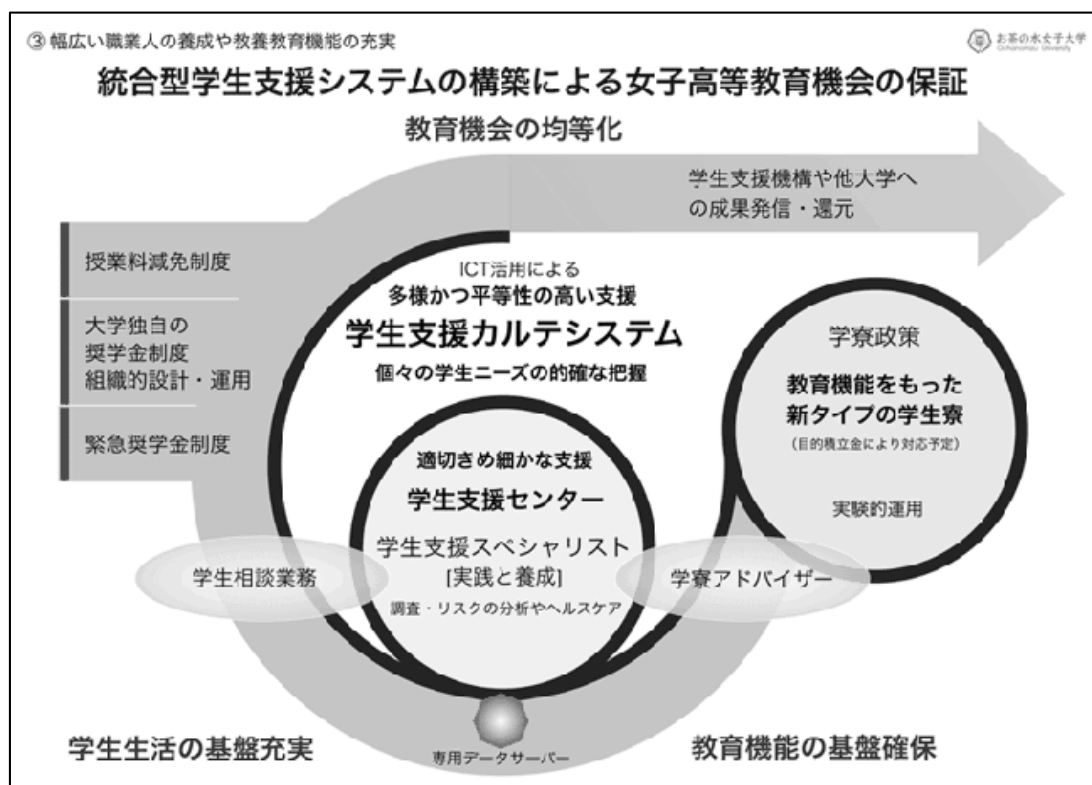
大学独自奨学金制度の設計

大学独自奨学金制度を、育英および奨学の双方の目的に即した形で設計する。また、留学生向けの奨学金制度の設計も行う。突然の経済的危機に対応可能な緊急奨学金制度も整備する。

統合型学生支援制度の構築と情報発信

以上により、(留学生を含む)個々の学生ごとに統合的にニーズが把握可能で、かつ、学寮、大学独自奨学金、授業料減免制度を統合的に運用可能な、二重の意味で統合的な学生支援システムを構築し、日本学生支援機構等に情報提供するとともに各大学へと発信する。

本事業により、学生のニーズにきめ細かに対応する諸学生支援策(学寮、授業料免除、大学独自奨学金)を統合的かつ効率的に実行できることが期待される。学寮、授業料免除、大学独自奨学金制度が、それぞればらばらに運用されていた状況と比較して、特定の学生への財源の集中が緩和され、学生の視点に立った、ニーズに適切な支援の提供が可能となる。これにより、高等教育機会の均等化を図り、本学の教育機能の基盤を確保することが期待できると共に、経済的格差が教育格差につながらないようにすることも、併せて期待できる。



「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」事業概念図

③ 幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実 統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証

【本事業が求められる背景①】

「諸々の教育格差の拡大」

⇒高等教育機会の均等化が
あらためて社会的課題として認識

【本事業が求められる背景②】

「国家政策としての留学生受け入れの増加」

⇒留学生の生活基盤を確実なものとする
諸支援策の実行が必要

【平成25年度 実施計画】

- ①学生支援カルテ(情報)システムを活用した統合型学生支援の実施
- ②学生支援スペシャリストのためのマニュアル・テキスト作成
- ③新卒での取り組みをふまえた各寮における教育的機能を高めるための方法の実施
- ④全学キャリア意識調査に対応した学生へのキャリア支援の実施



【本事業の目的・ねらい】 女子高等教育機会の均等化を図り、 教育機能の基盤を確保する

- ・支援する側の視点から個別に展開されてきた、授業料減免施策、学寮施策、大学独自奨学金施策を見直す
- ・被支援者である個々の学生ごとに、多様なニーズを把握し、きめ細やかに効果的な統合型学生支援システムを構築する
- ・留学生支援を拡充する



【本事業による効果】

留学生も含め、学生のニーズにきめ細かに対応する諸学生支援策を統合的、かつ効率的に実行できるようになることが期待される

「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」

事業概算要求説明資料(平成25年度の例)

(2) 年度ごとの実施計画および実施状況

[平成 22 年度]

実施計画

- ①学生モニターを募集し、学生生活実態調査を設計
- ②学生支援カルテ（情報）システム構築の準備
- ③既存寮の機能と対象等の再検討
- ④各寮の機能的特徴に適した、共用・交流スペースのあり方に関する実験（寮生自主交流プログラム）の実施

実施状況

本事業の業務を担当する准教授、講師、アカデミック・アシスタントを採用し、学生支援室および学生支援センターを中心とする全学的な実施体制のもと、当初計画のとおり、以下のように実施した。

- ①学生モニターの募集を行い、その協力の元に学生生活実態調査を設計し、平成 23 年度新入生およびその保護者を対象に調査を実施した。学部生・大学院生を含む 35 名の学生モニターを集め、生活実態に関する情報を毎月収集し、それをもとに学生生活実態調査の設計を行った。さらには、平成 23 年度入学生およびその保護者に対しても調査を実施し、学生 396 名（入学者のうち 81.8%）、保護者 382 名（同 79.6%）から回答を得ることができた。
- ②学生支援カルテ（情報）システムの構築にあたり、もととなる学内の既存システムの確認・分析を行うとともに、既存システムの必要な改修及び更新を実施した。学生個人をベースとしたカルテシステムの画面設計を進めた。学内の既存システムの確認・分析を行うとともに、他の先進的な例を参考にして、学生個人をベースとしたカルテシステムの画面案を複数作成することができた。全学的な情報システムの統合の中で、カルテシステム実現に必要な機器の更新、設置を行った。
- ③④既存寮及び新寮について、機能の再検討を行いつつ、交流スペースを活用した学生支援プログラムの開発を行った。具体的には、機能別に寮の対象学生を定め、各寮の交流スペース備品の整備を行った。また、学生支援プログラムを開発し、新寮生を対象としてプログラムを実施した。既存寮および新寮の機能の再検討を行い、国際学生宿舎を学部 1～4 年生、小石川寮を大学院生、お茶大 SCC（新寮）を学部 1～2 年生対象として整理を行った。各寮の機能的特徴を踏まえ、新寮において学生支援プログラムを開発し、(1)寮生の交流を活性化させる交流プログラム、(2)寮生自身が主体的に交流活動を行う自主企画、(3)寮生の学修を促進させる学修プログラムを用意することができた。そして、交流プログラムの一つとして、新寮オリエンテーションを実施した。

[平成 23 年度]

実施計画

- ①学生支援カルテ（情報）システム構築の為の既存システム改修とカルテ（情報）システムソフト開発を行う
- ②学生および保護者を対象とする学生生活実態調査の実施・分析・開発（第二次）
- ③新寮、既存寮に関するアンケート調査の実施・分析
- ④引き続き、各寮の機能的特徴に適した、共用・交流スペースのあり方を検討し、学生支援プログラムを実施する
- ⑤大学独自の奨学金の機能分析を目的とした調査方法の検討・調査

実施状況

本事業の業務を担当する准教授、講師、アカデミック・アシスタントを中心に、学生支援室および学生支援センター、学生・キャリア支援チームをはじめとした全学的な実施体制のもと、当初計画のとおり、以下のように実施した。

- ①次年度の試行にむけ、学生支援カルテ（情報）システムの設計・開発を進めるとともに、既存の学内統合データベース等より抽出する情報の収集・選定にあたった。学生支援カルテ（情報）システムの有効な活用方法を具体的に検討し、設計・開発を進めた。また、既存の学内統合データベースより抽出する情報の選定を具体的に行い、データ抽出方法の検討も行った。平成 23 年度の学部新生に関しては、学生生活実態調査（第一次）に基づき、学生の支援に係る個人情報も新たに収集した。
- ②学生および保護者を対象とする学生生活実態調査（第一次調査）の分析、学生モニターの募集等とおして、第二次調査の開発・実施にあたった。第一次調査の分析を行い、報告書としてまとめるとともに、リサーチレポートとして電子媒体により広く学内外に公表し、学生支援における喫緊の課題も提言した。第二次調査に向けて学生モニターを募集し（前期 144 名、後期 128 名）、調査の開発・実施にあたった。その結果、二次調査では学生 407 名（回答率 84%）、保護者 403 名（同 83%）から回収を得ることができ、第一次調査より高い回収状況となった。
- ③学生寮アンケート調査の実施、分析、報告を行った。三つの学生寮の寮生を対象として学生寮アンケート調査を実施し、183 名（小石川寮 24 名、国際学生宿舎 133 名、お茶大 SCC26 名）から回答が得られた。そして調査結果に基づき、寮生のニーズを踏まえた支援を検討した。
- ④お茶大 SCC において、年間計画に基づき、学生支援プログラムを実施した。さらに、ガイドブック及びリーフレットの作成、寮ホームページの管理・更新を継続して行った。また、寮生のニーズに基づき、国際学生宿舎でもガイドブックを作成した。お茶大 SCC のコンセプト及び寮の機能、年間計画に基づき、学内外の様々な関連機関と連携をとりながら、学生支援プログラムを実施した。また、寮生の心身の問題発生の予防に務めると同時に、問題が発生した際の相談窓口となり、専門機関との連携をとって対応にあたった。さらに、ガイドブック、リーフレット、ホームページを継続して作成・更新した。

⑤既存の大学院奨学金の見直しを含めた機能分析及び制度設計に基づき、予約採用型の奨学金制度の新設・拡充を提案し、次年度より予約採用の募集の実施を決定した。博士後期課程奨学金について、25年度からの制度開始を目指し、既存の大学院奨学金の見直しを含めた機能分析及び制度設計を行った。その結果、進路決定前の学生に有効であるとの観点から、予約採用型の奨学金制度を提案した。同時に博士前期課程学生への奨学金も予約型奨学金として制度を拡充することを提案した。以上の奨学金については平成24年度に予約採用の募集を行うことが決定した。

[平成24年度]

実施計画

- ①学生支援カルテ（情報）システムの構築、中間報告
- ②学生モニターを活用した、留学生等のニーズに適合した学生支援体制及び設備の整備
- ③新寮、既存寮に関するアンケート調査の分析結果に基づき、将来構想の明確化
- ④平成22年度、23年度に実施した実験結果を既存寮に取り入れる方法を検討する
- ⑤大学独自の奨学金の調査方法に基づき、奨学金の追跡調査の実施・分析

実施状況

本事業の業務を担当する准教授、講師、アカデミック・アシスタントを中心に、学生支援室および学生支援センター、学生・キャリア支援チームをはじめとした全学的な実施体制のもと、当初計画のとおり、以下のように実施した。

- ①学生支援カルテ（情報）システムの設計・構築を進め、全学的なデータベースから本システムに必要なデータの抽出を行うとともに、平成24年度新入生およびその保護者を対象とした調査により、別途、必要な個人情報を収集した。これにより、平成23年度及び24年度入学生に関しては、本システムに必要なすべての項目のデータを収集・蓄積することができた。
- ②平成24年度新入生およびその保護者を対象とした調査（第二次調査）の分析を行い、速報版としてまとめるとともに、学生支援における喫緊の課題を提言した。また、留学生を含めた140名をこえる学生モニターを募集し、学生の生の声を活かした学生支援体制の検討を行い、設備の整備も進めた。
- ③新寮、既存寮に関するアンケート調査の分析結果に基づき、各寮の機能分化を踏まえた整備を行い、各寮の充実を図った。
- ⑤寮での「学生支援プログラム」を基に、既存寮の機能を踏まえた取り組みを試行し、国際学生宿舎のガイドブックの作成、寮生間の交流を促すワークショップを試験的に実施した。
- ⑤既存の大学院奨学金を予約採用型として新たに設計・拡充した。ほか、平成24年度新入生およびその保護者を対象とした調査に基づき、本学の学生や保護者の奨学金に対する認知および受給希望についても分析を行った。

[平成 25 年度]

実施計画

- ①学生支援カルテ（情報）システムを活用した統合型学生支援の実施
学生カルテシステムを活用した個々の学生の支援状況に関する調査を行い、統合されたシステム上でより平等な学生支援が行われる制度を検討する
- ②学生支援スペシャリストのためのマニュアル・テキスト作成
- ③新寮での取り組みを踏まえた各寮における教育的機能を高めるための方法の実施
- ④全学キャリア意識調査に対応した学生へのキャリア支援の実施

実施状況

本事業の業務を担当する特任准教授、特任アソシエイトフェロー、アカデミック・アシスタントを中心に、学生支援室および学生・キャリア支援センター、学生・キャリア支援チームをはじめとした全学的な実施体制のもと、当初計画のとおり、以下のように実施した。

- ①学生支援カルテ（情報）システムへのデータの蓄積をすすめ、より平等な学生支援を行うために役立つ活用方法について検討を行った。
- ②学生支援スペシャリストとして、「新寮レジデント・アシスタント（SCC-RA）」制度を設け、その研修・育成を推し進めるためのマニュアルを作成した。
- ③新寮、既存寮に関するアンケート調査の分析結果に基づき、各寮の教育的機能を高める方法の検討を行った。既存寮での実施も視野に入れ、新寮での学修支援プログラムを発展させた。
- ④キャリア支援 행사를充実させるとともに、相談体制の拡充を図った。また、その広報活動にも力をいれ、多くの学生に認知されるよう努めた。

(3) ホームページによる情報発信

本事業に関する情報は、本学ホームページ内「教育改革の取り組みについて」および、学生・キャリア支援センター内、学生生活支援部門ホームページにおいて、随時、広く公表している。

本学ホームページ内「教育改革の取り組みについて」における情報発信

お茶の水女子大学 Ochanomizu University 統合型学生支援システム構築による女子高等教育機会の保障

教育機会の均等化

学生支援機構や他大学への成果発信・還元

ICT活用による多様かつ平等性の高い支援

学生支援カルテシステム 個々の学生ニーズの的確な把握

学察政策 教育機能をもった新タイプの学生寮 (目的意識により対応予定)

学察アドバイザー

学生相談業務

学生支援スペシャリスト 実践と養成 課題・リスクの分析やヘルプアップ

学生生活の基盤充実

教育機能の基盤確保

平成23年度 3月完成予定

卒業減免制度

大学独自の奨学金制度 組織的設計・運用

緊急奨学金制度

適切な期やかな支援 学生支援センター

学生支援システム構築

新寮の建設と学察機能の整理

大学独自奨学金制度の設計

学生支援カルテシステムの構築

- 学生モニターを公募し、学生の生活実態および支援へのニーズを的確に把握するための調査方法を開発し、それに基づいて、保護者を含む学生生活実態調査を実施する。
- 学生の生活実態を踏まえ、学生支援カルテ(情報)システムを構築する。
- カルテを分析し適切な支援プランを提供する。スペシャリストを雇用し、学生支援センターに配置する。
- アドバイザーに格別の配慮をしつつ、心身の健康に関する支援と運動させる相談体制を築く。
- 学生生活における様々なリスクの分析と支援を総合的に行うための学生支援スペシャリスト要請のためのマニュアル・テキストを作成する。

▲ ページトップへ戻る

新寮の建設と学察機能の整理

→ 新寮「お茶大SCC」ができるまで

- 既存の学察の機能と対象等を再検討し、また、教育的機能を持った新寮を設計・建設して、◎タイプ程度の機能分化した学察システムへと再構築する。
- 新寮は単なる安価なアパートではなく、プライバシーを確保しつつ他者との共生を通じて自主協同に必要な精神とコミュニケーション能力を培うことを目指す、教育的機能を持った寮とする。
- 最終的に、共に生活し成長することを目指す「シェアハウス・スタートアップ(living-commons)型寮、国際交流型寮、キャリア発展期向け個室寮」からなる、多様なニーズに応える学生寮群を目指し、それらに必要な設備の改修を行う。
- これらを、実態的に運用しながら修正を加える。
- 留学生の生活実態については、その固有の課題を把握し、対応するための方策を検討する。

▲ ページトップへ戻る

大学独自奨学金制度の設計

- 大学独自奨学金制度を、育英および奨学の双方の目的に即した形で設計する。
- 留学生向けの奨学金の設計も行う。
- 突然の経済的危機に対応可能な緊急奨学金制度も整備する。

▲ ページトップへ戻る



お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
学生生活支援部門

[サイトマップ](#)
[お茶の水女子大学ホームページへ](#)
[在学生コンデンソータルサイトへ](#)

奨学金制度・授業料免除
各種証明書
学生相談
施設・学習環境
課外活動
くらしの支援

女子大として万全のサポートを

本学では学生・キャリア支援センターが中心となり、多様な奨学金制度による経済面での支援、専門のカウンセラーが常駐する学生相談室を設置するなど、あらゆる点から皆さんを支援しています。

相談窓口案内はこちら

News ニュース

2014年01月10日	お知らせ	平成26年度 4月の学生生活費主要項目公開しました
2013年12月25日	イベント	4/27学生相談室 第15回WS 『コミュニケーションスキルを磨こう!!』
2013年12月25日	イベント	4/12学生相談室 第14回WS 『良女の戦力なスキルを磨こう!!』
2013年12月11日	お知らせ	平成26年度 国公立学生生活費 新3年生及び新4年生の在学期間更新申請の受付について
2013年11月27日	調査報告	平成26年度新入生の生活に関する調査

[ニュース一覧へ](#)

Closeup クローズアップ



Research 調査結果のご報告



調査結果のご報告

奨学金制度・授業料免除

奨学金支援制度について

- > 奨学金とは
- > 申請フロー
- > 奨学金制度一覧

奨学金の種類と概要

- > 全学独自の奨学金
- > 日大学生支援機構奨学金
- > 地方公共団体及び民間奨学金団等が取り扱う奨学金
- > 奨学金以外の奨学金

手続き・問い合わせ窓口

- > 提出書類について
- > よくあるご質問
- > 問い合わせ窓口・所属単位

対象者情報

- > 受験生の方へ
- > 学部生の方へ
- > 大学院生の方へ
- > 外国人留學生の方へ

> 入学料及び授業料免除・奨励金

> 奨学金貸付金

各種証明書

- > 各種証明書と取得方法
- > 証明書自動発行機について
- > 窓口・郵送での申請について

学生相談

- > 学生相談室
- > なんでも相談窓口
- > センタービル4Fの学生人格発達支援相談室
- > 障害相談窓口
- > 保健管理センター
- > 留学生相談室

施設・学習環境

学習環境のための施設

- > 図書館
- > 情報楽読センター (IT Center)
- > グローバル教育センター
- > パソコン実用室

課外活動施設

- > 学生会館
- > テニスコート

野外教育施設

- > 本館高層住居有線放送
- > 麓山野外教育施設
- > 八王子ゼミナールハウス
- > 草津ゼミナールハウス

課外活動

- > 学生センター
- 自治会・サークル活動
- > 自治会運動
- > ターキー活動

施設・設備の利用について

- > 貸出施設利用について
- > 貸出物品について

くらしの支援

- > 入寮手続き
- > お茶大S.C.C.
- > 国際学生宿舎(大山原)
- > 小石川寮
- > アルバイト情報
- > 学生教育相談実習室貸借
- > キャンパス周辺マップ



スタッフをご紹介します!

About us 学生支援部門について

- > 相談窓口案内
- > スタッフ紹介

Related contents 関連コンテンツ

- > 学生・キャリア支援センター カリヤ支援部門
- > 学生・キャリア支援センター カリヤ教育部門
- > グローバル教育センター
- > リーダーシップ養成教育研究センター

Site information サイトインフォメーション

- > プライバシーポリシー
- > 個人情報について
- > セキュリティポリシー

お茶の水女子大学学生・キャリア支援センター 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
☎ 03-5978-5147 ✉ qakusi@cc.ocha.ac.jp

このサイトはお茶の水女子大学 総合型学生支援システムホームページ運営委員会が管理しています。詳しくは「このサイト」をご覧ください。 | お問い合わせ

Copyright © 2014 Choshu University All Rights Reserved.

- 12 -

2. 学生支援ニーズの把握およびそれに基づく支援の提供

(1) 各種調査の設計・実施・分析

1) 新入生の生活に関する調査

調査の概要

平成 23 年度から 25 年度に本学への入学を予定している学生およびその保護者を対象に、有益な学生支援の検討および実施を行うことを主たる目的として「新入生の生活に関する調査」を実施した。

調査の概要は以下のとおりである。

・調査目的：

入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とする。

具体的には、下記 4 点を中心とする。

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

- ・調査時期：2011 年 3 月（平成 23 年度調査）、2012 年 3 月（平成 24 年度調査）、2013 年 3 月（平成 25 年度調査）

・調査方法：

郵送による送付・返送。一般入試合格者（および保護者）に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。

その他の方法での合格者（および保護者）に対しては、別途、調査時期に、調査票および調査返送用封筒を送付し、返送を求めた。

・調査分析対象：

返送者のうち分析許可を得ることができなかった者は分析対象から除外した結果、次のような有効回答数（有効回答率）となった。

「**新入生を対象とした調査（以降、新入生対象調査とする）**」

- ・平成 23 年度学部入学者 484 名。有効回答数 396 名（入学者のうち 81.8%）。
- ・平成 24 年度学部入学者 484 名。有効回答数 400 名（入学者のうち 82.7%）。
- ・平成 25 年度学部入学者 482 名。有効回答数 407 名（入学者のうち 84.4%）。

「**新入生の保護者を対象とした調査（以降、新入生保護者調査とする）**」

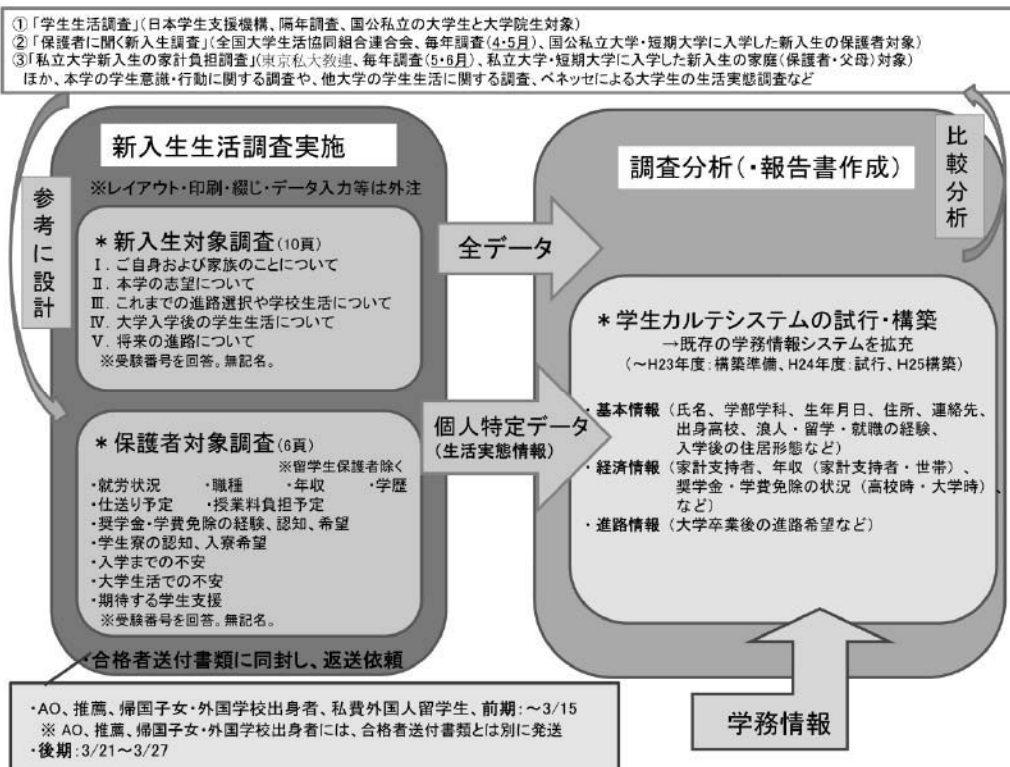
- ・平成 23 年度学部入学者のうち私費留学生を除いた 480 名。有効回答数 382 名（入学者のうち 79.6%）。
 - ・平成 24 年度学部入学者のうち私費留学生を除いた 483 名。有効回答数 398 名（入学者のうち 82.4%）。
 - ・平成 25 年度学部入学者 482 名。有効回答数 400 名（入学者のうち 82.3%）。
- ※平成 25 年度は私費留学生がいなかったため、すべての学部入学者の保護者を調査対象とした。

※個人情報について：

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めている（詳細は、http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html 参照）。調査票は、大学で付けた ID 番号で管理をし、回答者の氏名や住所などは記載せずに回答・返送を求めた。

調査内容は、出身高校、家族、志望動機、進路選択、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（以上は新入生自身への調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（以上は新入生の保護者への調査）など多岐にわたるもので、いずれも、大学生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としている。

こうした目的に加え、一部の調査項目については、回答者の許可を得た回答結果を学生カルテシステムに個人情報として登録することとしている。それにより、単なる調査にとどめず、必要とされている支援情報を、個々の学生に応じてダイレクトに提供することを可能にすることが期待できる。



「新入生の生活に関する調査」と「学生カルテシステム」の関連についての概念図

調査の結果

調査結果および調査票は、各年度で報告書としてまとめており、本学の学生・キャリア支援チームで冊子として入手できる。ほか、TeaPot（お茶の水女子大学 教育・研究成果コレクション）（<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>）からも PDF 形式でダウンロード可能としており、広く公開している。

さらに報告書の内容の一部は、「学生支援センターResearch Report」としてまとめ、学生・キャリア支援センター学生生活支援部門ホームページ内「調査結果のご報告」（http://www.ocha.ac.jp/gss/support_center/research/index.html）にて、以下のように公開している（以下は平成 25 年度調査の例）。

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
学生生活支援部門

英語会制度・授業料免除 各種証明書 学生相談 施設・学習環境 課外活動 ぐらしの支援

Home > 調査結果のご報告 > 平成25年度新入生の生活に関する調査

平成25年度新入生の生活に関する調査

2013年11月27日

学生・キャリア支援センターでは、文部科学省特別経費プロジェクト「統合型学生支援システムの構築による次世代等教育機会の保証」の一環として、平成25年度新入生（学部）ごとの保護者を対象に「新入生の生活に関する調査」を実施しました。

調査内容は、大学入学までの進路選択・決定、卒業後の進路希望、学生生活の経済的基盤、学生支援活動への期待（以上は新入生自身への調査）、親族・支援者の職業、仕事年数、学生支援活動への期待（以上は新入生の保護者への調査）など多岐にわたるもので、いずれも、大学生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としています。

平成25年度入学者のうち、新入生自身への調査では84.4%、新入生の保護者への調査では82.3%の方から、調査の返答および分析許可を得ることができました。

今回から毎回、「学生・キャリア支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介しています。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で電子入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。（<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10038/35312>）

- ◆【第1回】お茶の水女子大学を志望した時期や理由
 - 1. 早期からの奨励的決定
 - 2. 全体の85%が本学第一希望
 - 3. 高校卒業後、すぐに本学へ入学
- ◆【第2回】「サークル（部）」新入生調査（PDFファイル：179KB）
- ◆【第3回】お茶の水女子大学に入学後の学生生活
 - 1. 都内を中心に、「実家」「アパート・マンション」「学生寮」から通学
 - 2. アパートやマンションの家賃は「毎月5～9万円台」がおよそ8割
 - 3. この1年で経験したのは、「大学の授業」「友達との交流」「クラブ・サークル活動」
 - 4. 新入生は「授業や単位」「就職や将来」「人間関係」が、保護者は「就職や将来」「健康面」「人間関係」が不安
 - 5. 新入生・保護者ともに、就職支援活動をもっと期待
- ◆【第4回】「サークル（部）」新入生調査（PDFファイル：237KB）
- ◆【第5回】大学卒業後の進路希望と保護者の関与
 - 1. 「民間企業就職」「大学院などへの進学」希望者がおよそ半数
 - 2. 正規雇用で、最初の就職先は長くなる傾向
 - 3. 半数の父兄、2割の母親が、子どもの就職や将来の進路に関与
- ◆【第6回】「サークル（部）」新入生調査（PDFファイル：194KB）
- ◆【第7回】どのような新入生と保護者が、奨学金を認知・希望しているか
 - 1. 新入生の結果
 - 2. 保護者の結果
- ◆【第8回】「サークル（部）」新入生調査（PDFファイル：162KB）
- ◆【第9回】どのような新入生と保護者が、学生寮を認知・希望しているか
 - 1. 新入生の結果
 - 2. 保護者の結果
 - 3. まとめ
- ◆【第10回】「サークル（部）」新入生調査（PDFファイル：147KB）

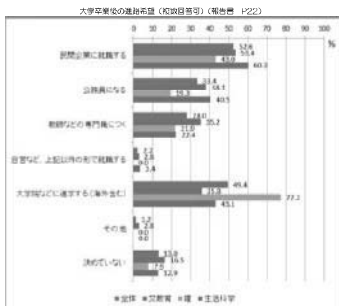
「学生・キャリア支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介しています。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で電子入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

Copyright © 2014 Ochanomizu University. All Rights Reserved.

第3回 「大学卒業後の進路展望と保護者の関与」

1. 「民間企業就職」「大学院などへの進学」希望者が約半数

本学の新入生は、大学卒業後の自身の進路について、どのような希望を持っているのでしょうか。



全体で見ると、「民間企業に就職する」が52.6%、「大学院などに進学する(海外含む)」が49.4%でした。ただし、「大学院などに進学する(海外含む)」は、理学部77.2%に対して、生活科学部が文数専攻学部は4割程度であり、学部による差もみられます。「公務員になる」「大学院などの専門系につく」が3割程度でそれに続いています。
また、「決まっていない」は全体の13.0%に過ぎないことから、本学の新入生は、大学入学時点で、卒業後の進路について、ある程度の希望を持っている学生が多数であることがわかります。この傾向は理学部で目立ちます。

2. 正規雇用で、最初の就職先に長く勤めたい

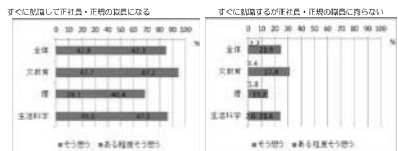
では、本学の新入生は、大学卒業後の就職について、どのような考えを持っているのでしょうか。「卒業後の就職」「就職後の勤務・進路」「卒業後・就職後の大学進学」といった観点から見ていきます。

①「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件まで尋ね、その結果②「そう思う」+「ある程度そう思う」を示した結果を報告しています。

(1) 「卒業後の就職」についての考え (報告書 P22-23)

「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」が全体の8割を超える一方で、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」「賞与特給・公務員特給などに合格するまで就職しない」「卒業後すぐには就職しなくてもよい」は2~3割にとどまっています。この傾向は昨年度も同様に表示されています。

学部別にみると、理学部では「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」が他学部比入って高く、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」が低い傾向がみられます。この傾向も昨年度も同様に表示されています。



(2) 「就職後の勤務・進路」についての考え (報告書 P23-24)

「最初の就職先で終るだけ長く勤める」は全体のおよそ9割に及んでいます。その一方で、「初年かして転職や独立をする」「結婚・出産したら仕事をやめる」は3~4割にとどまっています。「そう思う」との回答はいずれも極めて少数であることを示しています。これらの傾向は、昨年度も同様に表示されています。



最初の就職先で終るだけ長く勤める

初年かして転職や独立をする



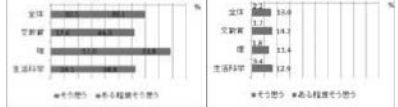
3. 半数の父親、2/3の母親が、子どもの就職や将来の進路に関与

さいに、本学の新入生の就職や将来の進路について、両親がどの程度関与しているのかについて見ていきます。

まず、父親の関与について尋ねたところ、62.6%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の父親の関与が目立ちます。

③「卒業後・就職後の大学進学」についての考え (報告書 P24)

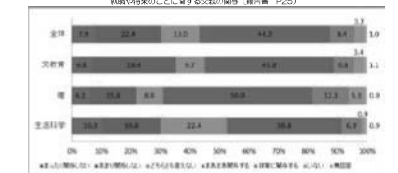
「すぐに大学院などに進学する」は、全体のおよそ7割ですが、理学部は他学部比比べて明らかに高い結果となっています。一方、「留學してから大学院への進学を希望する」は、学部による大きな差はみられず1割程度です。これらの傾向は、昨年度も同様に表示されています。



3. 半数の父親、2/3の母親が、子どもの就職や将来の進路に関与

さいに、本学の新入生の就職や将来の進路について、両親がどの程度関与しているのかについて見ていきます。

まず、父親の関与について尋ねたところ、62.6%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の父親の関与が目立ちます。



同様に母親の関与についても尋ねたところ、67.1%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は昨年度も同様に表示されています。ただし昨年度は学部による大きな差はみられませんが、今年度は理学部の新入生の母親の関与が目立ちます。



次回は、「どのような新入生と保護者が奨学金を認知・希望しているか」について、ご報告します。



「学生・キャリア支援センター-Support Base」としてその一部を紹介いたします報告書は、学生・キャリア支援チーム(内線2646, gakusei@ococha.ac.jp)で母子手帳に入ることができるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。
(http://teapot@ococha.ac.jp/ocha/handle/10083_53912)

2) キャリア意識に関する調査

調査の概要

「新入生の生活に関する調査」などの結果から、「就職・キャリア支援」に対する本学の学生および保護者のニーズが極めて高いことがわかった。その実施について検討することを主な目的として、学部 1 年生～4 年生および大学院前期課程生を対象に「キャリア意識に関する調査」を実施した。調査の概要は以下のとおりである。

・ 調査目的 :

学生の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とする。具体的には、下記 4 点を中心とする。

1. 本学の学生のキャリア意識・キャリア行動の特徴を把握し、キャリア意識を高めるためにどのような支援を行ったらよいか検討する。
2. 奨学金受給者、授業料免除者、寮生のキャリア意識・キャリア行動の特徴を把握し、どのような支援を行ったらよいか検討する。
3. 本学のキャリア関連授業がどの程度浸透しているかを明らかにし、今後どのように授業運営を行っていったらよいか検討する。
4. 大学生活および経済・生活支援とキャリア意識・キャリア行動との関連を把握し、大学生活の送り方や経済・生活支援の違いにより、キャリア意識、キャリア行動に違いが見られるかを検討する。

・ 調査時期 : 2011 年 10 月～11 月

・ 調査方法 : お茶の水女子大学学生ポータルサイトを用いたウェブ調査

・ 調査協力依頼 :

お茶の水女子大学ホームページ、学生支援センターホームページ、学内掲示版、OchaML、教員向け ML での告知、図書館および情報基盤センターの TV 画面への調査実施依頼の掲載、学内でのチラシ配布等により、学生への調査協力依頼を行った。

・ 調査分析対象 :

学部生 2,091 名および、大学院前期課程生 546 名。有効回答数 799 名 (30.2%)。内訳は、文教育学部 288 名 (30.2%)、理学部 176 名 (31.5%)、生活科学部 175 名 (30.2%)、大学院前期課程 156 名 (28.6%) (詳細は以下参照)。

	対象者数	回収数	回収率(%)
合計	2637	799	30.2
文教育学部	953	288	30.2
人文学科	259	93	35.9
言語文化学科	382	92	24.1
人間社会学科	196	74	37.8
芸術・表現行動学科	116	29	25.0
理学部	559	176	31.5
数学科	93	34	36.6
物理学科	99	29	29.3
化学科	88	27	30.7
生物学科	109	46	42.2
情報科学科	170	40	23.5
生活科学部	579	175	30.2
食物栄養学科	157	39	24.8
人間・環境科学科	107	37	34.6
人間生活学科	315	99	31.4
大学院前期課程	546	156	28.6
比較社会文化学	154	44	28.6
人間発達科学	70	18	25.7
ジェンダー社会科学	48	9	18.8
ライフサイエンス	116	39	33.6
理学	158	46	29.1
無回答	-	4	-

学部・学科別回収率

※個人情報について：

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めている（詳細は、http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html 参照）。

	対象者数	回収数	回収率(%)
1年生	484	173	35.7
2年生	480	130	27.1
3年生	519	203	39.1
4年生	608	127	20.9
大学院前期課程1年生	277	98	35.4
大学院前期課程2年生	269	64	23.8
無回答	-	4	-

学年別回収率

調査の結果

調査結果および調査票は報告書としてまとめており、本学の学生・キャリア支援チームで冊子として入手できる。ほか、TeaPot（お茶の水女子大学 教育・研究成果コレクション）（<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>）からもPDF形式でダウンロード可能としており、広く公開している。

報告書の一部は、「学生支援センターResearch Report」として以下のようにまとめ、学生・キャリア支援センター学生生活支援部門ホームページ内「調査結果のご報告」にて、以下の様に公開している（http://www.ocha.ac.jp/gss/support_center/research/index.html）。

お茶大生のキャリア行動とキャリア教育の活用状況の結果報告
2012年04月05日

学生支援センターでは、文部科学省特別調査プログラム「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会確保の促進」の一環として、本学学部生および博士前期課程生を対象に「キャリア意識調査」を実施しました。

調査内容は、就職・進学先の決定状況、進路に向けた準備・活動を始めた時期、本学のキャリア支援の利用状況、本学のキャリア支援の充実度、将来のキャリアに対する意識、希望する進路・産業、就業形態、企業採擇の志向、結婚と仕事への価値観など多岐にわたるもので、いずれも、学生の実情をふまえ、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としています。

調査は学生ポータルサイトを用いたWeb調査として行い、学部生では30.6%、博士前期課程生では28.6%の方々から、回答を得ることができました。

◆題目

1. 来年度卒業・修了予定者の7、8割が進路決定
2. 就職先では公務員の比率が高く、進学先ではお茶大の比率が高い
3. 学部生は3年生児、博士前期課程生は1年生児から準備する傾向
4. 学部生では、本学のキャリア支援を利用したことがない学生が多い
5. キャリア関連の授業の受講率は3割程度、受講者は満足と認識

▶【第1回リサーチレポート】キャリア意識調査 (PDFファイル 564KB)

「学生支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介していきます。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

お茶大生のキャリア意識の結果報告
2012年04月05日

◆題目

1. 学年に関わらず仕事について漠然と考えている学生が多い
2. 学部生では公務員、進学を希望する割合が高い
3. 希望する産業は、文教育学部ではマスコミ・広告・調査が多く、理学部、生活科学部、博士前期課程では、製造業・建設業が多い
4. 本学では総合職での就業を希望する学生が多い
5. 本学では「その他(教員・進学・公務員など)」を希望する割合が高い
6. 本学では結婚しても仕事を続けたい学生が多い

▶【第2回リサーチレポート】キャリア意識調査 (PDFファイル 363KB)

「学生支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介していきます。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

「経済・生活支援の利用とキャリア支援への評価
2012年04月09日

◆題目

1. 経済・生活支援の利用状況
2. 経済・生活支援の利用状況とキャリア支援への評価

▶【第3回リサーチレポート】キャリア意識調査 (PDFファイル 422KB)

「学生支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介していきます。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

キャリアデザインプログラム受講状況とキャリア意識について
2012年04月09日

◆題目

1. キャリア関連科目の受講状況
2. キャリア関連科目の履立率
3. キャリア関連授業の受講とキャリア意識

▶【第4回リサーチレポート】キャリア意識調査 (PDFファイル 488KB)

「学生支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介していきます。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

第4回 「キャリアデザインプログラム受講状況と
 キャリア意識について」

今回は、本年度より開講となったキャリアデザインプログラム基幹科目群の受講状況と、これらの授業の役立ち度、また、受講とキャリア意識の関連などに焦点を当ててまいります。

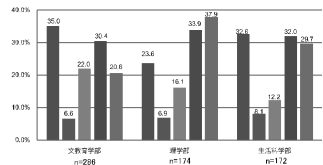
1. キャリア関連科目の受講状況

学部生を対象に、キャリアデザインプログラム基幹科目群の受講状況について尋ねました。まずは、その結果について、学部・学年ごとに着目して概観します。

(1) 学部別受講状況

文系学部、生活科学学部では90%以上が、理工学部では約23%が「受講した」と回答していますが、すべての学部で90%以上が「受講するつもりがない」とも答えています。また、理工学部では37%が「プログラムを知らない」と回答しており、今後、キャリアデザインプログラムの認知度を上げていく必要があると考えられます。

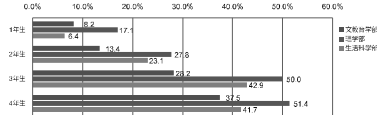
学部別受講状況



(2) プログラムの認知度

続いて、本調査において「プログラムを知らない」と答えた回答者について見ていきます。全体として、学年が上がるにつれ認知度が下がっていく傾向にあります。理工学部の3年生・4年生では半数が「プログラムを知らない」と回答していることが分かります。

「プログラムを知らない」(学部・学年別)



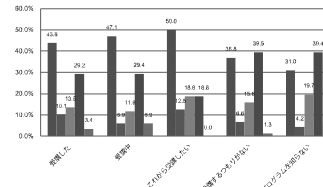
3. キャリア関連授業の受講とキャリア意識

キャリア関連授業の受講状況と、学生のキャリア意識について着目し、授業の受講と将来の進路希望とを概観していきます。

(1) 受講状況と希望する進路

キャリア関連授業を受講した・受講中・受講したいと回答した者は、民間企業への就職希望が4割から5割を占めています。また、受講した・受講中では進路希望者が9割強となっています。「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」回答者は、進路希望が4割弱と最も低くなっています。

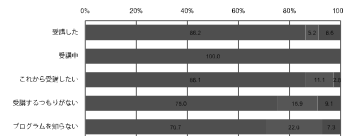
受講状況と希望する進路



(2) 受講状況と希望する就職形態

キャリア関連授業を受講した・受講中・受講したいと回答した者で正規・総合職希望は86%~100%となっています。対して「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」では、「正社員・総合職」への希望も15%~20%程度に留まります。また、「受講中」という回答者以外では1割強の「まだ決まっていない」が含まれています。本学では学部全体の傾向として「正規・総合職」希望者が割合と多い(第2回「お茶大生のキャリア意識の結果報告」より)結果となっていますが、キャリア関連科目の受講者・受講希望者には特にその傾向が強いようです。

受講状況と希望する就職形態

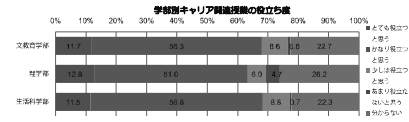


2. キャリア関連科目の役立ち度

次に、キャリア関連科目の役立ち度について尋ねました。「とても役に立つ」「かなり役に立つと思う」「少しは役に立つと思う」「あまり役に立たないと思う」「役に立たない」と回答した割合を、学部・学科別、受講状況別に概観します。

(1) 学部別にあるキャリア関連授業の「役立ち度」

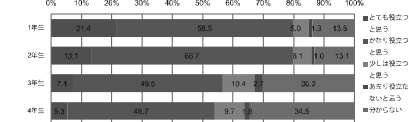
結果、どの学部においても60%~70%程度が「とても役に立つ」あるいは「かなり役に立つ」と回答していることが分かります。



(2) 学年別にあるキャリア関連授業の「役立ち度」

学年別では1年生・2年生の80%がキャリア関連授業に意義を感じていることが分かります。対して、3年生・4年生には「わからない」が増え、30%以上となっています。

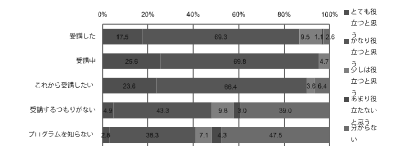
学年別キャリア関連科目役立ち度



(3) 受講状況とキャリア関連授業の「役立ち度」

受講経験がある回答者の内、85%~95%はキャリア関連授業を「役に立つ」と考えていることが分かります。

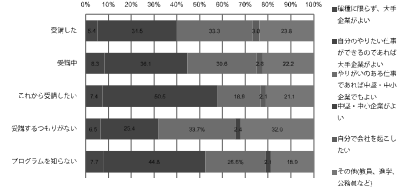
受講状況とキャリア関連授業の役立ち度



(3) 受講状況と企業志向

「受講したい」「受講中」「受講している」と回答する人は、少ない数ではありますが自ら起業したいと考えている人がいるようです(2%~3%程度)。また、キャリア関連科目を受講者・受講希望者には、中堅・中小企業が多いと回答がありました。「受講するつもりがない」との回答者は30%以上が「その他」を選択しています。「受講するつもりがない」回答者は受講者・受講希望者以上に教員・進修・公務員希望が多いようです。「キャリアデザインプログラム」は民間企業就職だけでなく、進学等にも必要なコンテンツへの育成を目的していますが、学生間ではキャリア＝民間企業就職という意識が強いのももしませせん。

受講状況と企業志向



これで、平成23年度「キャリア意識調査」についてのこの報告を終わります。
 「学生支援センターResearch Report」としてその一部を紹介いたします報告書は、学生・キャリア支援チーム(内線2548, 604426@ccocha.ac.jp)で電子を入手して頂けるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。
 (http://tespot.lib.cocha.ac.jp/cocha/handle/10083/51315)

3) 留学生に対するヒアリング調査

調査の概要

本学の留学生数は、多少の増減はあるものの、2005年度以降、230名前後でほぼ横ばいの状態にある。しかし留学生に対する学生支援のニーズについて、個人レベルのもの以上に捉え、十分に検討してきたとは言い難い。そこで、本学の留学支援の現状および課題を明らかにすることを主たる目的として、本調査を実施することとした。

なお本学の留学生数は、非正規生、大学院生が多く、調査用紙の一斉配布・回収が難しいと思われるため、本調査は半構造化ヒアリングによって行うこととした。

調査目的：留学生支援の現状、課題を明らかにし、今後どのような支援が必要かを検討する

調査日時：平成24年10月

調査対象：留学生の学生モニター

主な調査事項：様々な方面（教育、生活全般、キャリア、就職…等）での留学生支援の現状と課題

調査の結果

ヒアリング調査を行った結果、「留学生相談室」「教育関連」「キャリア関連」「生活支援」について以下のような声があがった。

・留学生相談室について

- ・留学生相談室はとてもよい。日本に来て何もわからないときに、どんなことでも相談できたり、教えてもらえるので、ありがたい。授業のレポートなども、チェックや相談に乗ってくれるので助かる。
- ・チューター制度がとてもよい。個人チューターがついてくれるので、相談しやすい。
- ・チューター制度はありがたいが、チューターによって、留学生との関わり方に違いがあり、よくしてくれる人も多いが、あまり関わってくれない人もいる。事前にチューター向けの研修や説明会を行って、チューターの質を向上させていくといいと思う。
- ・留学生相談室の備品をもっと充実させてもらえるとありがたい。（パソコンが古くて遅いので、新しいものを補充してほしい、本・DVDが借りられて日本語の勉強になるのでありがたいが、小説などの蔵書をもっと増やしてほしい）

・教育関連について

- ・履修について相談に行きにくい。留学生は教務課のどこで相談していいかわからない。
- ・授業で、日本語を学ぶ機会や、日本語試験対策、日本文化などを学ぶ機会があつて、ありがたい。

・キャリア関連について

- ・留学生向け就職説明会があるのはありがたいが、留学生を採用する企業や教育職(日本語学校など)、進学などの情報が全般的に少ないので、もっと増えるといいと思う。
- ・キャリアカウンセラーが、エントリーシートのチェックなどをしてくれるのがありがたい。
- ・他大学の留学生サークルに入っているが、そこではより多くの支援があり(常勤・非常勤の紹介、留学生同士の交流やOGのサポートなど)、お茶大にもそうした交流の場があるといい。

・生活支援について

- ・日本に来た当初は、区役所の手続きの仕方、銀行口座の作り方、携帯電話の契約の仕方など、分からないことが多かったが、チューターに聞いて、教えてもらえたのがよかった。
- ・アルバイトの探し方が分からなくて困ったことがある。大学のアルバイト情報サイトは、日本人と留学生の区別がなく、アルバイトの応募をしても留学生は断られることが多いので、留学生向けのアルバイト情報があるといい。
- ・研究生と正規生で、扱いがかなり違う感じがする。例えば、研究生では寮に入れない、ガイダンス等も少なく、どんな授業を取ればいいのか分からないなど、あまり支援が受けられないと感じる。
- ・寮の提供や留学生向けのイベント(国際交流の夕べ、茶道教室、生け花教室など)などがあって、日本文化を体験する機会があるのがいい。
- ・他大学でやっていたことだが、日本人の家庭での短期ホームステイなどができるといいと思う。
- ・日本人学生と留学生の交流の機会が少なく、残念。学内に気軽に行ける交流の場があるといいと思う。

ほか、「留学生の支援をしてもらえるのはありがたいが、支援の担当がばらばらで、困ったときにどこに相談に行ったらいいかが分かりにくい。国際交流チーム、グローバル教育センター、学生・キャリア支援チームなど、いろいろあるが、こんな問題があったらここに行けばいい、というような一覧があると便利だと思う。」といった声もあがっていた。

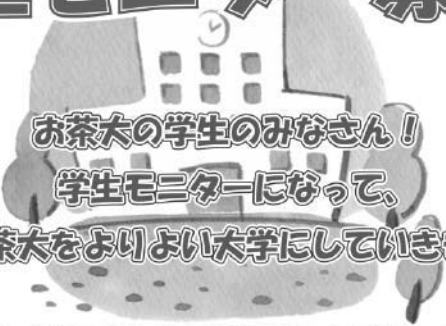
(2) 学生モニター制度の試行

学生モニター制度の概要

「生活支援（学生寮など）」「経済的支援（奨学金や授業料免除など）」「就職・キャリア支援」といった学生支援の実施について、学生自身の目線からみた意見・提案を求めることを目的とし、平成 22 年度前期に学生モニター制度についての検討を行い、平成 22 年度後期、23 年度、24 年度にわたって、その施行にあたった。

学内掲示や学生支援センターホームページを通して、以下のように本制度の告知や学生モニター募集説明会のアナウンスを行い、学生モニターに関心を持った学生に対しては、年 2 回程度（前期・後期）、説明会を実施した（告知は、ホームページ上にて常時実施）。

学生モニター募集!



お茶大の学生のみなさん!
学生モニターになって、
一緒にお茶大をよりよい大学にしていきませんか?

学生支援センターでは、学生のみなさんの生活実態や支援のニーズを把握し、よりよい学生支援を実現するために、学生モニターを募集しています。

募集要項

活動内容:「学校でどんな勉強をしているの?」「放課後はどんな活動をしているの?」など、学生の生活実態を理解するためのインタービューアーになってもらったり、「学校にこんなものがあたらいいな」「ここを改善して欲しい」など、みなさんの率直な意見も聞かせてもらいます。また、ミーティングに参加してもらい、大学のあり方や取り組みをよりよくする方法を、みなさんといっしょに考えていきます。

応募資格:お茶の水女子大学の学部生・大学院生なら、どなたでも応募できます。

応募方法:学生モニターの説明会（下記参照）に出席していただき、説明会を聞いて、学生モニターを希望する方には、登録カードを提出していただきます。説明会を聞いてみるだけでも、もちろん OK です。昼食の持ち込みも OK です。ふるってご参加ください。

応募締切:4月27日（水）17時まで

待遇:学生モニターに採用された方には、作業時間に応じて、謝金をお支払いいたします（学部生は時給 900 円、大学院生は時給 1100 円）。

採用期間:2011 年 4 月 1 日～2011 年 9 月 30 日


説明会日時・会場

日 時:4月25日（月）12:20～12:50（30分程度）
※4月25日に来られない方は、下記の連絡先までお問い合わせください。

会 場:共通講義棟 2号館 102室

連絡先

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援チーム 長澤 Tel : 03 - 5978 - 2646
Mail : gakusei@cc.ocha.ac.jp



学生モニター募集・説明会案内ポスター

説明会においては、以下の資料（平成 23 年度前期の例）などをもとに説明を行い、学生モニターの登録を希望する学生には、関連書類の提出を求めた。

学生モニターの役割・職務・待遇



○求める役割

- ・自己の生活実態情報の提供者
- ・周囲の学生の生活実態情報の提供者
- ・自己および周囲の学生の生活実態に基づき、不足かつニーズのある支援の意見者
- ・お茶の水女子大学に求める学生支援策の提案者

※「生活支援（学生寮など）」「経済的支援（奨学金や授業料免除など）」「就職・キャリア支援」についての意見・提案を、とくに期待しています

○職務例（平成 23 年度前期）

1. 自己の生活実態情報の提出 ※必須業務
 - ・月 1 回程度（提出期限厳守！） ※月により、お尋ねするテーマは異なります
 - ・自宅でも作業可能（こちらからメールで依頼→学生・キャリア支援チームへ作成書類を直接提出）
 - ・謝金は毎回 2 時間分相当

※個人名がわからないように「資料」として使用します。提出されたものは、学生支援センターにて責任をもって管理します
2. 自己および周囲の学生の生活実態情報、不足かつニーズのある支援などに関するヒアリング調査への協力
 - ・（人や時期にもよりますが）1・2 カ月に 1 回程度の予定
 - ・屋休みや各自の空き時間を中心に利用して、30 分程度
 - ・学生モニター交流室（仮）（学生会館 1 階）などで実施予定
 - ・ヒアリング調査回答の準備やメモ作成も含め、謝金は毎回 2 時間分相当
3. ミーティングへの参加
 - ・こちらの設定したテーマに応じて、それに対応する学生モニターグループ+教職員で意見交換
 - ・学生モニター交流室（仮）（学生会館 1 階）などで実施予定
 - ・謝金は参加時間に応じて（+準備やメモ作成成分も含めた α 分）
4. 学生生活実態調査の分析・それに基づく支援策の検討、次回調査の設計協力
 - ・学生モニター交流室（仮）（学生会館 1 階）などで実施予定
 - ・謝金は協力時間に応じて（+準備やメモ作成成分も含めた α 分）
5. その他、学生支援センターや学生・キャリア支援チームの依頼があれば、積極的な協力をお願いします

○任期・募集人数・謝金

- ・平成 23 年 4 月 1 日から平成 23 年 9 月 30 日（各年度の前期・後期ごとに募集予定）
- ・各時期 30~50 名程度を予定
- ・謝金として、大学院生は 1 時間 1,100 円、大学生は 1 時間 900 円お支払いします



その他、不明な点があれば、学生支援センター・望月までお問い合わせください

e-mail:mochizuki.yuki@ocha.ac.jp tel:03-5978-2039

学生モニター説明会資料の例

さらに、「留学生に対するヒアリング調査」を行うと同時に、留学生の学生支援ニーズにより着目することを目的として、平成 23 年度後期からは留学生を対象とした募集も以下のように別途実施した。

留学生 学生モニター募集!

お茶大の留学生のみなさん!

学生モニターになって、一緒にお茶大をよりよい大学にしていきませんか?

学生支援センターでは、お茶大生の生活実態や支援のニーズを把握し、よりよい学生支援を実現するために、学生モニター制度を運営しています。2011 年度後期からは留学生の皆さんにも学生モニターへ参加していただくことで、さらに踏み込んだ支援を検討していききたいと考えています。

募集要項

活動内容:「学校でどんな勉強をしているの?」「放課後はどんな活動をしているの?」など、学生の生活実態を理解するためのインタビューになってもらったり、「学校にこんなものがあつたらいいな」「ここを改善して欲しい」など、みなさんの率直な意見も聞かせてもらいます。また、ミーティングに参加してもらい、大学のあり方や取り組みをよりよくする方法を、みなさんといっしょに考えていきます。

応募資格: 今回の募集は、お茶の水女子大学の学部・大学院に在籍の『留学生』が対象となります。

応募方法: 留学生 学生モニターの説明会(下記参照)に出席していただき、説明会を聞いて、学生モニターを希望する方には、登録カードを提出していただけます。昼食の持込も可能です。説明会を聞いてみるだけでも、もちろん OK です。ふるってご参加ください。応募カードには捺印もしていただけますので、印鑑をご用意ください。

応募締切: 10月25日(火) 17時まで

待遇: 学生モニターに採用された方には、作業時間に応じて謝金をお支払いいたします(学部生は時給 900 円、大学院生は時給 1100 円)。

採用期間: 2011 年 10 月～2012 年 3 月末

説明会日時・会場

日 時: 10月21日(金) 12:30～(30分程度の予定です) ※10月21日に来られない方は、下記の連絡先までお問い合わせください。

会 場: 共通講義棟 2 号館 102 教室 (昼食持込可です)

連絡先

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援チーム 長澤 Tel : 03 - 5978 - 2646 / Mail : gakusei@cc.ocha.ac.jp

留学生モニター募集・説明会案内ポスター

その結果、以下のように多くの学生モニターを集めることができ、定期的な報告書の提出やグループでのミーティングなどとおして、学生にとって有益な学生支援を検討し、その実施を推し進める一助となっている。

学生モニター制度の試行状況の概要

時期別 モニター数	報告書の主な内容	その他
平成 22 年度後期 (35 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月（後期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、大学に求める支援など） ・ 11 月（キャンパスガイド改善提案など） ・ 12 月（大学卒業後の進路希望、就職活動内容、進路に関して大学に求める支援など） ・ 1 月（学生交流スペースの必要性、学生会館・食堂・図書館などの利用状況など） ・ 2 月（学生寮について） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路希望・内定の Web 登録モニター業務 ・ 新入生調査設計モニター業務
平成 23 年度前期 (144 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 月（前期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、大学に求める支援、モニター志望動機など） ・ 6 月（この 1 年の主な活動予定、アルバイト・ボランティアの予定など） 	
平成 23 年度後期 (128 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月（後期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、学生支援に関する情報収集方法など） ・ 1 月（この 1 年の主な活動の振り返り、長期休暇の予定など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア意識調査設計 モニター&回答促進業務
平成 24 年度前期 (141 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 月（前期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、大学に求める支援、モニター志望動機など） ・ 7 月（この 1 年の主な活動予定、アルバイト・ボランティアの予定など） 	
平成 24 年度後期 (106 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月（後期履修予定、昼休み・放課後・休日の過ごし方、学生支援に関する情報収集方法など） ・ 12 月（おいてほしい備品、学生寮での活動、交流活動の希望など）→学生寮モニター、留学生モニターのみ ・ 12 月（受給経験の有無、周知方法の提案、希望する奨学金のタイプなど）→奨学金・授業料免除モニター、留学生モニターのみ 	

学生モニターミーティング実施記録

担当テーマは、次の通り。

- ・ 学生モニター制度
- ・ キャリア意識調査・就活支援（キャリア意識調査終了後、「キャリア・就職」に改名）
- ・ 学生寮
- ・ 奨学金・授業料免除
- ・ 部活動・サークル活動
- ・ アルバイト
- ・ 学生・キャリア支援センターHP ※事業期間中、組織統合によりに学生支援センターより呼称変更
- ・ 学生・キャリア支援センターメールマガジン
- ・ 留学生（平成 23 年度後期からの留学生モニター枠設置後、基本的に全てのテーマについて参加）

以下は平成 23、24 年度学生モニターミーティング開催の記録です。

平成 23 年度

開催日	担当テーマ	内容
6 月 24 日	学生寮	寮生活の問題点や大学への要望について
7 月 1 日	キャリア意識調査・就活支援	キャリア意識調査項目協力
7 月 5 日	アルバイト	就労アルバイトについての聞き取り
7 月 6 日	学生モニター制度・ センターHP	学生モニターへの連絡方法について センターHP の閲覧者数向上に向けて
7 月 7 日	部活動・サークル活動	部活・サークル活動実態についての聞き取り
7 月 12 日	奨学金・授業料免除	各種支援の認知と要望について
10 月 28 日	キャリア意識調査・就活支援	実施中のキャリア意識調査回答率向上検討
11 月 25 日	奨学金・授業料免除 留学生	奨学金関連サイト作成の為の情報収集と検討
1 月 12 日	学生寮 留学生	次年度学生寮ガイドブック内容のチェック
1 月 13 日	センターHP アルバイト 部活動・サークル活動 留学生	次年度開始予定だったメールマガジンの 発刊準備

平成 24 年度

開催日	担当テーマ	検討内容
7月 3日	奨学金・授業料免除 センターHP 留学生	センターHPの奨学金・授業料免除ページの改善 検討
7月 4日	キャリア・就職 留学生	他大学のキャリア・就職支援情報収集と検討
7月 10日	学生寮 留学生	学生の暮らしに関する支援の検討
7月 11日	学生モニター制度 センターHP 留学生	他大学の学生による学生支援情報収集と検討
7月 17日	メールマガジン 留学生	メールマガジン配信内容検討
7月 31日	メールマガジン 留学生	メールマガジン発行に向けた意見交換
10月 10日	留学生	留学生支援の現状と課題、今後の支援検討
12月 3日	学生モニター制度 留学生	学生モニターミーティング参加の義務化を検討
12月 13日	キャリア・就職 留学生	内定者の後輩就活支援等、学生間相互支援の 強化について検討

(3) 学生カルテシステムの設計および構築

学生の生活実態を把握し、学生のニーズにきめ細かに対応する諸学生支援策（学生寮、授業料免除、大学独自奨学金）を統合的かつ効率的に実行するために、学生支援カルテ（情報）システム（独立型サーバー上で現教務事務管理システムを拡張し、カルテを管理するソフトウェアを開発）を設計・構築した。

本システム上には、個々の学生ごとに、諸学生支援策を受けている状況とともに、平成 23 年度以降実施している「新入生の生活に関する調査」（「2. 取組報告(1)学生支援ニーズの把握およびそれに基づく支援の提供 1)各種調査の設計・実施・分析」参照）の回答などの情報を蓄積している。

※「新入生の生活に関する調査」より得ている情報は、以下のとおりである。

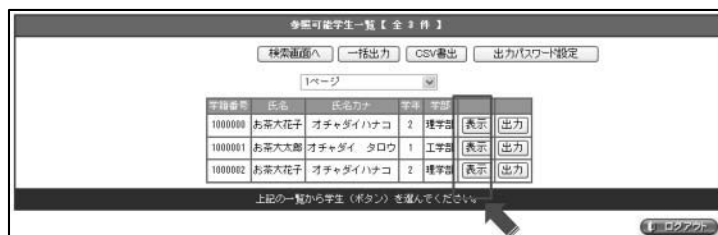
- **基本情報**（氏名、学部学科、生年月日、住所、連絡先、出身高校、浪人・留学・就職の経験、入学後の住居形態など）
- **経済情報**（家計支持者、年収（家計支持者・世帯）、奨学金・学費免除の状況（高校時・大学時）など）
- **進路情報**（大学卒業後の進路希望など）



ログイン画面

本システムには「検索機能」もあり、「学籍番号から学生を検索する」「項目を指定して学生を検索する」「項目を組み合わせて学生を検索する」ことも可能となっている。

検索した学生については、カルテを表示することも可能である。



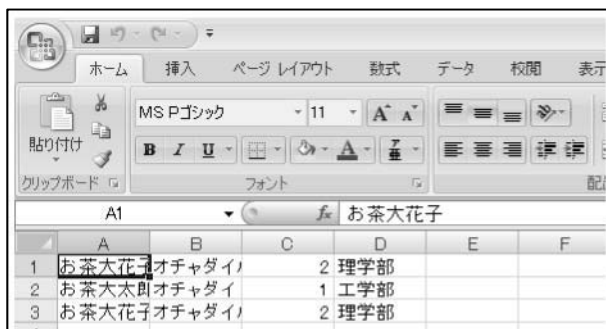
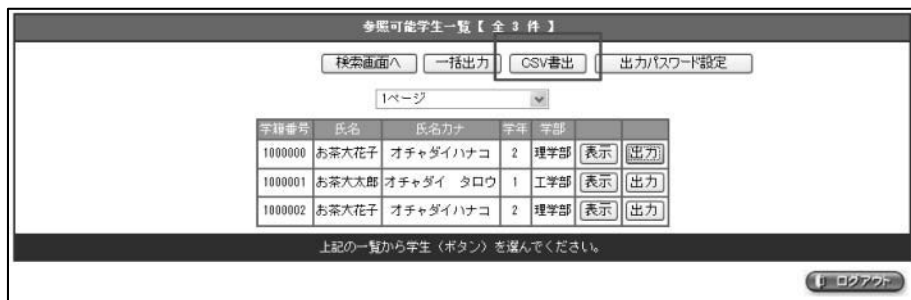
検索結果一覧画面（カルテを表示する場合）



学生カルテ画面の例（一部）

カルテ画面には、学生の特殊事情等の入力、修正、削除も可能である（権限付与者のみ）。

ほか、検索結果を CSV 出力機能も加えることで、個々の学生情報の蓄積のみならず、学生集団としての情報として分析することも可能としている。



CSV 出力の例

3. 学寮機能の整理および新寮の機能設計・運営

(1) 本学の学生寮の特徴

日本の大学の学生寮は、かつて主流だった「相部屋型」から「個室型」へと変化し、さらに近年では、「ルームシェア型」の学生寮も見られ、その機能は多様化している。このような学生寮の変化・多様化は、時代背景に伴い、学生寮に求められるものが変化しており、今日では経済的支援にあわせて、教育的支援も求められてきていることを反映している。こうしたニーズを踏まえ、お茶の水女子大学でも、新たな学生寮を建設し、既存寮との機能分化を行った。

お茶の水女子大学には、主として大学院生を対象とした小石川寮（定員 80 名、自治寮）と、学部生及び留学生を対象とした国際学生宿舎（定員 400 名、自治寮）という二つの既存寮がある。そして新たに平成 23 年度より、学部 1、2 年生を対象とした新寮「お茶大 SCC(Students Community Commons)」(定員 50 名)が開寮した。

これら三つの学生寮は、対象とする学年や寮の規模、立地等の違いの他、小石川寮、国際学生宿舎は個室型寮である一方、お茶大 SCC は、五人で一つの「ハウス」を形成し、ハウスでの共生・協働をするルームシェア型寮であり、コンセプトも異なっている（三つの寮の詳細については、赤坂(2010),鈴木・元岡・桂(2012)を参照。）。

小石川寮は、お茶大 SCC に隣接した学生寮で、大学院生が入寮している。また、寮は寮生の自治会により運営されている。各部屋は個室であり、補食室、風呂等は共有で利用し、エントランス、メールボックス、多目的ラウンジはお茶大 SCC と共同で利用する。小石川寮は、「研究」と「共同」、そして「社会性」を育む場であることを目指しており、共同生活を営みながら研究を進めると同時に、協調性、社会性を身につけることを目指している(図 1 参照)。



図 1：小石川寮の様子

国際学生宿舎は、日本人学生と留学生が入寮している。寮は寮生の自治会により運営されており、お茶の水女子大学以外の国立大学の留学生も入寮対象者となっていて、約 400 名が入居している（女性のみ）。国際学生宿舎は、日本人学生と留学生が共に生活する中で、国際交流を推進し、国際性を身につけることを目指している（図 2 参照）。



図 2：国際学生宿舎の様子

最後に、お茶大 SCC の概要を述べる。お茶大 SCC は、二つの既存寮と異なり、自治寮ではなく、大学が運営管理を行っている。また、「ハウス」制を採用しており、五人で一つの「ハウス」を形成する。これは、欧米などでは一般的に見られる学生寮の居住形態で、複数人で一つのコミュニティ（ハウス）を形成し、ハウス内やハウス間での協働やコミュニケーション活動を通じて、共に成長し合うことを目指している（図 3 参照）。



図 3：お茶大 SCC の様子

(2) 新寮の機能設計・運営

1) お茶大 SCC の初期構想・理念・概要

お茶大 SCC は、学内ワーキンググループにより、2年間に渡る検討・概念設計を経て、平成23年度より開寮した。この学内ワーキンググループには、プロジェクト責任者の学生支援センター長を始め、学内の教職員、学寮アドバイザーも参加し、コンセプトから議論を重ねた。また、同時期に、アメリカの学生寮の視察調査を行い、学生寮が単なる住居ではなく、教育的機能をあわせもった場として活用されている様子を見て、そこで行われていたアイデアをお茶大 SCC にも取り入れた。そして、お茶大 SCC の理念として、人間形成機能を担う教育寮としていくこととし、ここから、「共に住まい共に成長する学生寮」をコンセプトとした。これは、他者との共生を通じて、自立と協調に必要な精神とコミュニケーション能力を培うことを目指すものである。

また、このコンセプトに基づいて設計を行い、物理的な空間を形作った。具体的には、五人で一つのコミュニティ「ハウス」を構成し、各ハウスには共有キッチン、トイレ(二つ)、洗面所、浴室が設置され、これらの共有スペースの周囲に、鍵のかかるプライベートスペースを配置することとした。プライベートスペースには、ベッド、机、クローゼット、棚、エアコン等があり、インターネットにも接続できるが、あえて最低限のスペースに作られており、できるだけ共有スペースに出て過ごすように促すように設計した。

このような物理的特徴の他にも、学生支援プログラム、学寮ガイドブック、学寮アドバイザーの配置など、様々な教育的支援を提供している。

学生支援プログラムは、他者との交流やコミュニケーションを通して、豊かな人間関係をはぐくみ、共に学び合うことをコンセプトとするもので、具体的には、①寮生同士の交流を促進させるための「交流プログラム」、②寮生自身が主体的に企画・活動し、共に学び合うための「自主企画」、③大学とは異なる寮独自の学びの場である「学修プログラム」の三つを柱としている。そして、これらの様々な活動・交流を通して、他者と助け合いながら、主体性・自立性をもった人格を養うことを目指した支援を行っている。

また、学寮ガイドブックは、約90ページで、内容は、寮生活全般に関することを説明している。一例として、寮での暮らし方、学生支援プログラムの実施方法、地域との関わりについてなどが記載されている。このガイドブックは、全寮生に入寮時に配布し、4月の新寮生オリエンテーションで学寮アドバイザーが説明を行い、寮生活を円滑に送ることができるように促すことを目指している。学寮アドバイザーについては、次節で後述する。



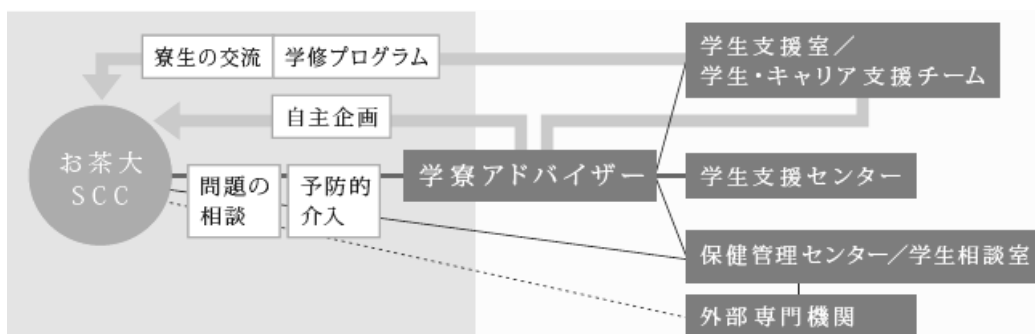
ハウスの概要



学寮ガイドブック

大学の管理運営組織としては、以下に示したように、学寮アドバイザーが寮生との窓口となり、学内外の関連機関と連携して、対応にあたる仕組みを作っている。

学寮アドバイザーは、本学の教員で、寮生の相談窓口やサポート、大学と寮生のパイプの役割をしており、寮生の身近な教員として、寮生の相談に乗ったり、寮生協議会の会議に参加して助言をするなどのサポートを行っている。また、学外の専門機関であり、寮生同士の交流を活性化させる「SCC サポーター」や、本学の学生支援を担当する学生・キャリア支援チーム等と連携して、対応を行っている。



大学の管理運営組織（平成 23 年度）

2) 学生支援プログラム

【平成 23 年度】

以下に、平成 23 年度の学生支援プログラムの一覧を示した。次に、これらの活動状況を時系列順に報告する。

平成 23 年度お茶大 SCC 年間行事一覧

日時	行事
4 月 10 日	新寮オリエンテーション、ハウス長オリエンテーション
4 月 10 日	ウェルカムパーティー
4 月 16 日	開寮式、第 1 回学修プログラム
4 月 22 日	チームワーク作りのためのワークショップ
5 月	ハウスの表札作り
6 月 4 日	第 1 回学修プログラム発表会
6 月 18 日	第 2 回学修プログラム
7 月 16 日	第 2 回学修プログラム発表会
9 月 23 日	コミュニケーションを円滑にするワークショップ
10 月 23 日	第 1 回お茶大 SCC 寮祭
11 月 19 日	第 3 回学修プログラム
12 月 17 日	第 3 回学修プログラム発表会
3 月 20 日	第 4 回学修プログラム（寮生による自主企画）
3 月 20 日	1 年の振り返りと来年度に向けたワークショップ
3 月 21 日	卒寮証書授与式

新寮オリエンテーション、ハウス長オリエンテーション（4 月 10 日）

新寮オリエンテーションは、寮での暮らし方を理解することを目的として、全新寮生を対象に、共有リビングを使用して行った。このオリエンテーションでは、寮に関わる教職員の紹介、寮生活全般の規則（掃除について、ゴミの分別や出し方について、居室・ハウスリビングの使い方について等）、ハウスでの過ごし方やハウスのルール、問題が発生した際の相談体制（相談窓口・相談機関の説明）等、寮生ガイドブックを用いて説明し、新寮生が寮生活に早く馴染めるよう、アドバイスを行った。

新寮オリエンテーションの後半では、引き続き共有リビングを使用して、ハウス長を対象としたハウス長オリエンテーションを行った。このオリエンテーションでは、ハウス長の役割について説明し、ハウス長が連携して担当する寮生協議会の委員を決め、それぞれの委員の活動内容を説明し、活動を進めていくよう指導を行った。



新寮オリエンテーション、ハウス長オリエンテーションの様子

ウェルカムパーティー（4月10日）

ウェルカムパーティーは、1年生を寮に迎え、寮生同士の親睦を深めることを目的としたイベントで、2年生全員で主催する自主企画である。本年度は、2年生がリビングの飾りつけ、イベントの準備等を行い、当日は、寮生全員の自己紹介、ハウス・寮全体での歓談、ビンゴ大会などが行われた。



ウェルカムパーティーの様子

開寮式、第1回学修プログラム（4月16日）

開寮式は、学内外の来賓、SCC 寮生、小石川寮生等を招いて、共有リビングで行われた。開寮式では、各来賓の挨拶、SCC 寮生協議会長の挨拶、SCC の概要、学生支援プログラムの説明などを行い、その後、来賓は各ハウスに分かれて、ハウスメンバーとの歓談を行った。

開寮式後は、引き続き共有リビングで、第1回学修プログラムを行った。学修プログラムは、年に4回実施し、お茶大の教員がお茶大 SCC に出向いて講演を行う。その後、講演内容に関するテーマについてハウスごとに学びを深め、ハウスで学修したことを寮生同士で発表する発表会を行う。このプログラムを通じて、自分たちで興味・関心をもって学ぶ楽しみや、ハウスメンバーと交流しながら学ぶ意義を体験することを目指している。

第1回学修プログラムは、羽入学長が「オープニングレクチャー」という表題で講演を行い、その講演について、6月4日（土）に五つのハウスが発表を行った。

チームワーク作りのためのワークショップ（4月22日）

チームワーク作りのためのワークショップは、外部の講師を招き、共有リビングを使用して行われた。このワークショップでは、ハウスメンバーや他のハウスの寮生と円滑なコミュニケーションをもつための方法や共同生活で気を付けることなどを、外部の専門講師に指導を受けて学んだ。ワークショップでは、ジェスチャーによる伝言ゲームや、ペアになって、与えられたテーマについて即興で話を創作していくお話作りゲームなど、様々なゲームを行い、それらを通じて、自分から積極的に他者と関わることや、自他の類似性、異質性を理解し、受け入れていくことを目指した。活動後の意見交換の場では、体を動かして自分から相手に関わっていくような様々な活動を通じて、他者との交流がより楽しく、積極的に行えるようになったという感想が多く挙がった。



ワークショップの様子

ハウスの表札作り

4月中旬から5月上旬にかけて、ハウスメンバー全員で、自分たちのハウスに名前をつけ、ハウスの表札を作る活動を行った。ハウス名を決めるため、ハウスメンバーで意見を出し合ったり、材料を使って表札を作り上げたりしていく過程を通じて、メンバーとの交流が促進し、全員で協力して一つのものを作り上げることで、楽しみながら仲間意識をより強くもつことを目指した。



各ハウスの表札

第1回学修プログラム発表会（6月4日）

第1回学修プログラム発表会では、全寮生と教職員が参加して、五つのハウスが、各ハウスで行った学修成果を発表した。発表担当のハウスは、講演テーマに関連のある学修をハウスで進め、スライドを作成し、発表を行った。発表では、歴史的観点から女性リーダーを考える発表や、様々な分野のリーダーを調べ、自分たちが考えるリーダー像をまとめる発表などが挙げられた。発表後には質疑応答を行い、参加者同士で学修をより深めることができた。



第1回学修プログラム発表会の様子

第2回学修プログラム（6月18日）、第2回学修プログラム発表会（7月16日）

第2回学修プログラムは、耳塚教育機構長が「大学生活で何を身につけるか」という表題で講演を行い、その講演について、7月16日（土）に五つのハウスが発表を行った。発表では、自分たちが SCC や大学生活で身につけたいことをまとめた発表や、講義内容についてハウスで話し合い、気がついたことなどが挙げられた。



第2回学修プログラムの様子

コミュニケーションを円滑にするワークショップ（9月23日）

コミュニケーションを円滑にするワークショップは、外部の講師を招き、共有リビングを使用して行われた。このワークショップでは、①寮祭に向けて、どのように取り組んでいけばいいかをみんなで考えること、②ワークショップで得た気づきをハウスでの活動に活かして、普段の寮生活をより円滑なものにすることを目標とした。

はじめに、学寮アドバイザーより、今回のワークショップの導入説明をした。その後、講師の指導により、グループ分けをし、グループごとになんらかの活動を行い、メンバーのよかったところや、これらの活動から気づいたことを寮祭にも活かしていくことなどを話し合った。その後、参加者全員で、寮祭についての話し合いを行い、出された意見や感想をハウスに持ち帰って検討し、寮祭の企画・準備を進めることとした。

第1回お茶大 SCC 寮祭 (10月23日)

お茶大 SCC 寮祭は、10月23日(日)10:00~14:30(10月22日は準備日)に、お茶大 SCC 共有ラウンジおよび各ハウスを使用して行った。来客数は、29名(お茶大教職員(11名)、寮生保護者(13名)、近隣の住民(2名)、お茶大の友人等(3名))であった。

寮祭当日は、ラウンジでの催し物と並行して、各ハウスに来客を招待する時間を設けた。ラウンジでは、10のハウスがハウスごとに催し物を行った。催し物は、パネルによる展示発表(7ハウス)、パワーポイントによるスライドの発表(2ハウス)、模擬店(1ハウス)であり、各ハウスから1~2名の説明員がラウンジに常駐して、来客への説明や物品販売等を行った。また、お茶大 SCC が平成23年度グッドデザイン賞を受賞した掲示物、お茶大グッズ販売スペース、休憩スペース等を設けた。

ハウスへの来客招待はハウスのラウンジに来客を招いて行われ、季節のデザートを出したり、たこ焼きパーティーをしたりするなど、ハウスごとに趣向を凝らして来客をもてなした。

来客からの感想として、「いつも電話で話は聞いているが、実際にみんなで楽しそうに暮らしている様子が見られて、とても安心した(寮生保護者)」「展示などを見て、寮の暮らしや様子がよく分かり、よかった(近隣の住民)」「普段はハウス内での交流はあるが、ハウス間ではあまり交流していなかった。でも、寮祭を通じて、ハウス間での交流の機会がもてたし、別のハウスの様子を知ることができたりして、寮での活動や人間関係が広がったと思う(寮生)」などの感想や意見が挙げられた。



ラウンジでの催し物の様子

第3回学修プログラム(11月19日)、第3回学修プログラム発表会(12月17日)

第3回学修プログラムは、元岡先生が「キャンパスに見るお茶の水女子大学の歴史」という表題で講演を行い、その講演について、12月17日(土)に五つのハウスが発表を行う。



第3回学修プログラムの様子

第4回学修プログラム（3月20日）（寮生による自主企画）

第4回学修プログラムは、寮生による自主企画で「内定者報告会」を行った。これは、今年度内定したお茶大OG4名をSCCに招き、それぞれの「大学生活の様子」「就職活動の流れ」「業界の選び方」などを聞き、後半はフリーディスカッションで、質問や意見交換を行った。



第4回学修プログラムの様子

修了証書授与式（3月21日）

修了証書授与式は、卒業する2年生がこれまでの寮での生活や活動を振り返り、その経験について大学が与えた機会を活用して成長してきたことを確認し、修了証書を受け取ることを目的としている。参列者として、学長、教育機構長・理事・副学長、お茶大SCC寮生1、2年生が参列し、はじめに学長より、お祝いの言葉をいただいた後、寮生協議会長がお礼の言葉を述べ、2年生全員に修了証書が授与された。また、2年生による文集「寮生活で学べたこと」を作成、配布した。修了証書授与式後は、1年生から2年生に送るさよならパーティーを実施した。



修了証書授与式
の様子

また、この他のハウスでの活動として、ハウス会議、ハウス長会議、調理教室を定期的
に実施している。

ハウス会議は、ハウスメンバー全員が参加して、ハウスごとに週に 1 回行っている。この
会議では、翌週のハウスの予定や当番の分担等を決めたり、ハウスで行う企画や活動につい
て話し合ったり、寮生活に関する意見・要望などを出し、ハウス会議録というファイルに記
録している。

ハウス長会議は、ハウス長が参加して、月に 1 回程度、ラウンジで行っている。この会議
では、ハウス長から議題を収集して、その時々ハウスの抱える問題や要望について話し合
ったり、SCC 全体の問題や改善点などの意見を出し合ったりして、ハウス長会議録というフ
ァイルに記録している。

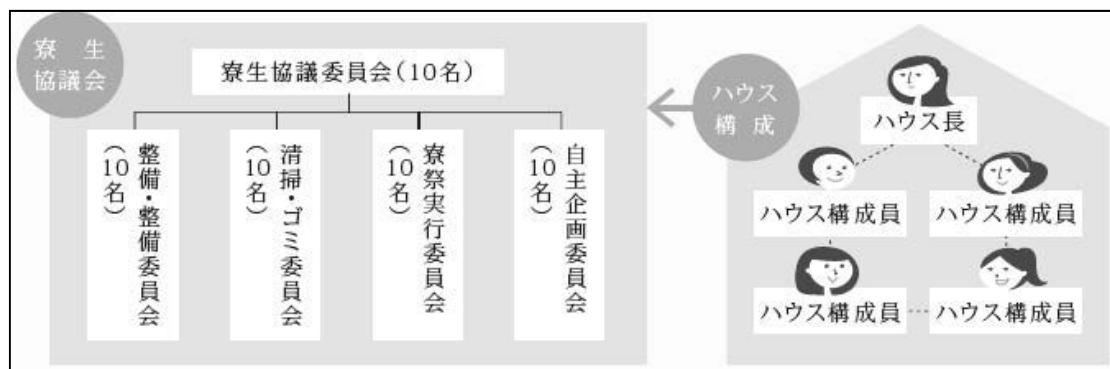
調理教室は、ハウスごとに毎月 1 回行い、事前にハウスで、調理教室の日時やメニューを
決めておく。そして、当日までに必要な食材等を揃え、当日は、ハウスメンバー全員で役割
を決めて調理を分担して行い、「Cooking レシピ」という記録用紙にメニューやレシピ、調理
のコツや気づいたこと、意見・感想などを記入して、ファイルを作成する。

【平成 24 年度】

平成 24 年度の活動のうち、平成 23 年度から変更があったものを抜粋して示す。初年度の
取り組みを見直し、寮生組織の変更、学修プログラムの形式の変更、清掃指導のワークショ
ップを行った。

寮生組織の変更

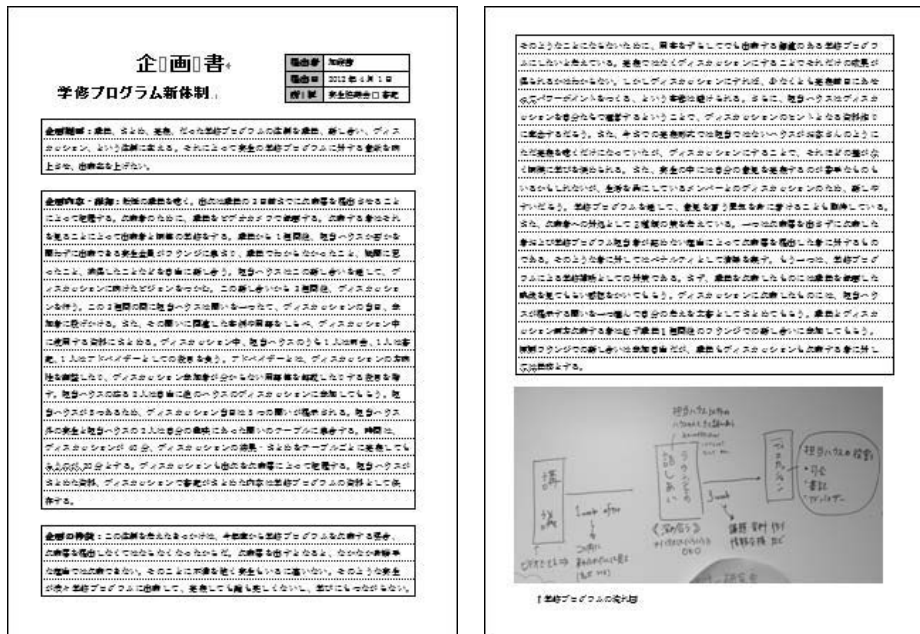
昨年度は、寮生組織である「寮生協議会」を 10 名のハウス長で編成していたが、ハウス長
の負担が大きいこと、協議事項がハウスメンバー全体に行きわたらず、動きにくいなどの問
題が寮生から挙げられた。そこで、今年度は、寮生との話し合いの結果、全員の寮生が寮生
協議会に所属して、何らかの役割を担い、ハウスの中に各委員が一人ずついることとした。
それにより、ハウス内での情報共有がしやすくなり、委員会ごとに月に 1 回定例会を開き、
問題点や解決策を検討するなど、活動が活性化した。



寮生組織の図 (平成 24 年度)

学修プログラムの形式の変更

昨年度は、講師による講演を行い、その後ハウスで学修を深め、1ヶ月後にハウスごとに学修成果を発表する形式で実施した。その結果、出席率が低く（各回 30～40%）、出席者が固定化してしまい、学修が深まらないハウスもあるといった問題が寮生から挙げられた。そこで、寮生による話し合いの結果、①講師による講義、②担当ハウスでの話し合い、③全体でのディスカッション、という体制に変え、それによって寮生の学修プログラムに対する意欲を向上させ、出席率を上げたいという提案があり、今年度は1, 2回目の学修プログラムを寮生の提案した形式に修正した。また、欠席の場合は欠席理由を書いた欠席届を提出し、無断欠席をしないように促した。さらに3, 4回目の学修プログラムは寮生による自主企画として、自分たちで学修テーマを決め、興味を深めるようにした。その結果、今年度は各回 75～90%の出席率となり、第3, 4回学修プログラムでは、企画書の作成、講師への依頼、事前勉強会、事後報告書の作成など、主体的に学修プログラムを進める様子が見られた。



学修プログラム企画書の例



第4回学修プログラム「カラーコーディネートについて知ろう」

清掃指導のワークショップ

昨年度の課題として、掃除の習慣がついていない寮生・ハウスが見られ、寮生からも掃除の仕方が分からない所があるので、年度始めに掃除の仕方を教えてほしいという意見が挙げられた。そこで、今年度より、清掃指導のワークショップを行うこととした。

清掃指導のワークショップでは、SCC の清掃をしている管理会社から講師を招き、ハウス内の清掃場所の説明、それぞれの清掃の仕方や留意点などを、実演を交えて指導した。



清掃指導のワークショップの様子

【平成 25 年度】

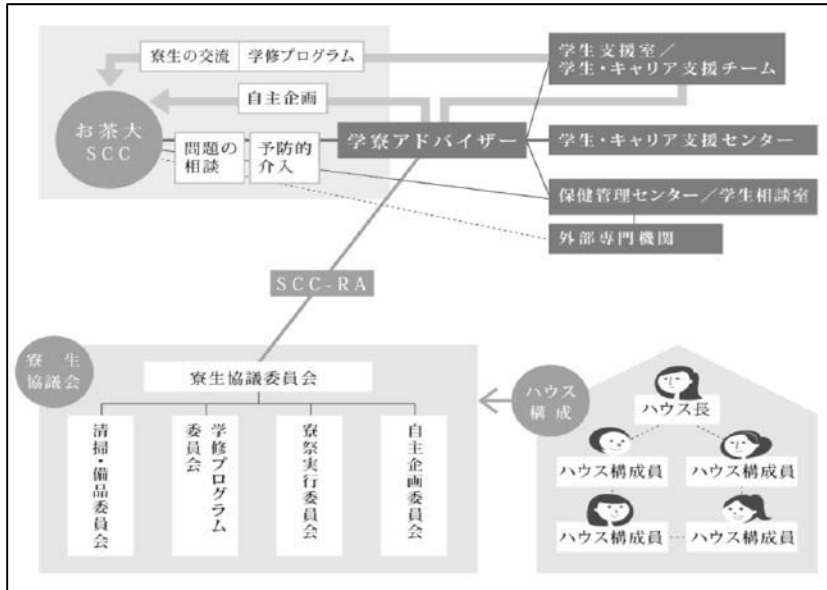
お茶大 SCC の 2 年間のプログラムを経験した寮生が卒寮する平成 25 年度より、「お茶大 SCC 新寮レジデント・アシスタント(SCC-RA) 制度」が開始した。詳しくは後述するが、SCC の理念である「共に住まい、共に成長する」ことを目指し、上級生（3 年生）4 名が寮に居住し、いつでも 1、2 年生の寮生をサポートできるようにする制度である。また平成 25 年度の活動のうち、平成 24 年度から変更があったものを抜粋して示す。

寮生協議会の委員会構成の変更

昨年度の変更により、寮生はハウス内で委員会の分担を決め、四つの委員会のいずれかに属することになった。昨年度の活動から、「清掃・ゴミ委員会」と「整備・備品委員会」を統合し「清掃・備品委員会」を設置することになった。これは清掃・ゴミ委員会と整備・備品委員会の仕事は、他の委員会と比べて相対的に仕事が少なく、活動実績が少ないこと、また、二つの委員会の活動内容が比較的近いものであり、重複する内容もあるためである。

また、今年度から「学修プログラム委員会」を新設した。昨年度までは、学修プログラムの担当が各ハウスにいなかったため、ハウス長や限られた者で企画・運営していたがと、各ハウスに委員が存在することで、寮生がより学修プログラムに意欲的に取り組むようになると考えたからである。

SCC-RA もそれぞれ担当委員会を持ち、委員会の会議にはオブザーバーとして出席した。RA は委員長のサポートをするとともに、学寮アドバイザーとの連携も深めることができた。



大学及び寮生組織の図（平成 25 年度）


学修プログラムについて

昨年度は学修プログラムの形式を、第 1 回、第 2 回は、①講師による講義、②担当ハウスでの話し合い、③全体でのディスカッション、という内容に変更をし、第 3 回、第 4 回は講演会のみとし、寮生の企画のもと行った。今年度は、各回の内容をハウスで深められるようにするため、回数を前期 2 回、後期 1 回の計 3 回に減らし、講演会と発表会を合わせて 1 回のプログラムとした。また講師は、寮生が学内の教員の中から、興味のある分野の教員に依頼をすることになった。さらに、発表会に向けて各ハウスで取り組む課題も、講師と共に寮生が考えたものを行った。

今年度第 1 回は、羽入学長の講演を聞いて、興味・関心のあるキーワードをもとに、ハウスごとに施設訪問又はインタビューを行った。第 2 回は、食物栄養学部の栄養教育学が専門の赤松利恵先生に講演を行い、課題は、「ハウスメンバーで協力して、旬の食材を使った栄養バランスのよい献立を考える」とした。最終的には SCC オリジナルの「レシピ集」を制作した。第 3 回は、文教育学部の身体運動科学が専門の水村真由美先生の講演を聞き、課題では「寮を起点とした、ウォーキングコース」の作成を行った。

発表の方法は、各ハウスでパワーポイントを使ってスライドを作成した。プレゼンテーションの技法やディスカッションの方法など、まだまだ改善の余地はあるが、反省点を次回に活かせるように取り組んでいた。出席率は年間を通して 70%前後であった。日程は土曜日の午前中を第一候補にしているが、授業や検定試験と重なることもあった。



主食		ハウス	
夏野菜のおもちゃ箱バスタ			
材料(5人分)	分量	作り方(所要時間 約 40分)	
めんつゆ	150cc	① Aを混ぜ合わせて、冷蔵庫に入れておく。	
卵	たまご3	② バスタを茹でて、水にさらす。	
ゴマ油	大さじ1	③ ナスとズッキーニを輪切りにして、レンジで火が通るまで加熱する。(約4分)	
白ゴマ	少々	④ オクラを茹でて、輪切りにする。	
ナス	1本	⑤ 豚肉を茹でる。	
ズッキーニ	1本	⑥ バスタを茹でて、野菜と肉を適量に盛り付け、レモンを絞って出汁上がり。	
オカラ	3本		
水菜	少量(バスタ半分)		
パセリ	1握		
塩(ふかす用)	100cc		
ピスタチ	600g		

第 2 回
学修プログラムで
作成した
SCC レシピ集

今後の課題

今後の課題として、寮内交流の活性化が挙げられる。シェアハウス方式により同じハウス内の交流は活発で、日常生活を共にすることで、自分とは異なる価値観を受け入れながら、人間関係の形成能力は育まれている。一方で、ハウス間の交流は、学修プログラムを含め SCC 全体での行事は行われているものの、ハウス内の交流に比べるとまだまだ改善の余地がある。これは寮生からも度々伝えられていることで、寮生自身からのアクションが期待される。また平成 25 年度末には、ハウスと居室の組み替え（居室替え）を行う。新たなメンバーと生活と共にしながらも、前のハウスメンバーとも交流が継続されることにより、寮内の交流はますます広がるのではないかとと思われる。

(3) 学生寮シンポジウム ～大学の戦略と教育可能性～

概要

開催日時：平成 24 年 8 月 31 日（金）13：00～16：00

開催場所：お茶の水女子大学 共通講義棟 2 号館 201 室

主催：お茶の水女子大学 学生支援センター

文部科学省 特別経費プロジェクト

『統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証』

後援：独立行政法人 日本学生支援機構

趣旨および内容

大学生の協調性や忍耐力の欠如が問題視される中、学生寮のもつリビングラーニングコミュニティ機能が着目されている。

本シンポジウムでは、先進的な取り組みをしている四つの大学（首都大学東京、京都産業大学、立命館アジア太平洋大学、お茶の水女子大学）の学生寮をとりあげ、そこでの事例について、実践課題を含めてご紹介いただくとともに、フロアディスカッションでの質疑応答も行った。



学生寮 ～大学の戦略と教育可能性～

シンポジウムのご案内

大学生の協働性や忍耐力の欠如が問題視される中、学生寮のもつリビングラーニングコミュニティ機能が注目されています。本シンポジウムでは、先進的な取り組みをしている4つの大学の学生寮をとりあげ、そこでの実践探求を含めた議論を行いたいと考えております。

主催	お茶の水女子大学 学生支援センター 文部科学省 特別経費プロジェクト 「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」	参加費	無料(申込制)
日時	平成24年8月31日(金) 13:00～16:00	定員	150名(先着順)
会場	お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201教室	★本シンポジウムでご紹介する「お茶大SCC」見学会をシンポジウム開始前(12:00～12:30予定)に実施いたします(先着30名)。ご希望の方は参加申し込みの際に、お申込みください。集合場所については、参加いただく方に別途ご連絡いたします。	
講師	『桜都寮』の四季～首都大学東京の学生支援～ 西村 和夫 氏 (首都大学東京 学生サポートセンター副センター長) 今関 理恵 氏 (首都大学東京 学生部長)	参加申込方法	参加申込期限 8月24日(金)
	自主性・社会性を養う一年生中心の「教育寮」の実際 瀬上 知己 氏 (京都府立大学 学生部長(兼務担当)) 井上 薫樹 氏 (京都府立大学 学生部長補佐)	期限までにお茶の水女子大学 学生・キャリア支援チームの下記メール宛にお申込み下さい。件名を「8/31学生寮シンポジウム」とし、①氏名、②所属、③職名、④連絡先メールアドレス、⑤お茶大SCC見学会参加希望の有無、⑥情報交換会出席の有無、をご記入下さい。複数名で申込まれる場合にもお手数ですが、それぞれの方の上記①～⑤までご記入いただけますようお願いいたします。別添の申込用紙にご記入の上、下記FAX番号へ送信いただけますも申込みいただけます。 (受信後3日以内に確認のメールまたはお電話をさせていただきます。)	
	(仮題)APUの学生寮 APハウスでの実践的な取り組み～職員とRA(レジデントアシスタント)の視点から～ 松本 淳 氏 (立命館アジア太平洋大学 スチューデントオフィス 課長補佐) 力丸 晃也 氏 (立命館大学 文学部教務職員)	お申し込み・お問い合わせ お茶の水女子大学 学生・キャリア支援チーム 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1学生センター棟2階 TEL 03-5978-2646 FAX 03-5978-5894 アドレス gakuryo-sympo@cc.ocha.ac.jp(申込用)	
	お茶大SCCの取り組み～学生支援プログラムの実践と課題～ 桂 暲以 氏 (お茶の水女子大学 学生支援センター 副所長) 瀬田 すみ恵 氏 (お茶の水女子大学 お茶大SCC サポーター) 岡倉 暉月 由紀 (お茶の水女子大学学生支援センター 准教授)		

本シンポジウムの案内ポスター（案内ちらし表面）

学生寮

～大学の戦略と教育可能性～

シンポジウムのご案内

大学生の協調性や忍耐力の欠如が問題視される中、学生寮のもつリビングラーニングコミュニティ機能が着目されています。本シンポジウムでは、先進的な取り組みをしている4つの大学の学生寮をとりあげ、そこでの実践課題を含めた議論を行いたいと考えております。



主催 お茶の水女子大学 学生支援センター
文部科学省 特別経費プロジェクト
「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」

日時 平成24年8月31日(金) 13:00～16:00

講師

「桜都寮」の四季 ～首都大学東京の学生支援～

西村 和夫 氏 (首都大学東京 学生サポートセンター副センター長)
今関 理恵 氏 (首都大学東京 学生部長)

自主性・社会性を養う 一年生中心の「教育寮」の実践

湖上 知己 氏 (京都産業大学 学生部長(業務担当))
井上 嘉規 氏 (京都産業大学 学生部事務部長)

(仮題)APUの学生寮 APハウスでの実践的な取り組み ～職員とRA(レジデントアシスタント)の視点から～

松本 淳 氏 (立命館アジア太平洋大学 スチューデントオフィス 課長補佐)
力丸 晃也 氏 (立命館学園 文学部教務職員)

お茶大SCCの取り組み ～学生支援プログラムの実践と課題～

桂 瑠以 氏 (お茶の水女子大学 学生支援センター 講師)
瀬田 すみ恵 氏 (お茶の水女子大学 お茶大SCC サポーター)
司会 望月 由起 (お茶の水女子大学学生支援センター 准教授)

参加費 無料(申込制)

(シンポジウム後の情報交換会に参加を希望される方は参加費として1,000円お支払いいただけます)

定員 150名(先着順)

★本シンポジウムでご紹介する「お茶大SCC」見学会をシンポジウム開始前(12:00～12:30予定)に実施いたします(先着30名)。ご希望の方は参加申し込みの際に、お申込みください。集合場所等については、参加いただく方に別途ご連絡いたします。

参加申込方法 参加申込期限 8月24日(金)

期限までにお茶の水女子大学、学生・キャリア支援チームの下記メール宛にお申し込み下さい。件名を「8/31学生寮シンポジウム」とし、①氏名、②所属、③職名、④連絡先メールアドレス、⑤お茶大SCC見学会参加希望の有無、⑥情報交換会出席の有無、をご記入下さい。複数名で申込みれる場合にもお手数ですが、それぞれの方の上記①～⑥までご記入いただけますようお願いいたします。別添の申込用紙にご記入の上、下記FAX番号へ送付いただきましても申込みいただけます。
(受信後3日以内に確認のメールまたはお電話をさせていただきます。)

プログラム 司会 望月 由起 (お茶の水女子大学学生支援センター 准教授)

12:30	開場
13:00～13:10	開会挨拶 羽入佐和子(お茶の水女子大学 学長)
13:10～13:40	首都大学東京の取り組み事例
13:40～14:10	京都産業大学の取り組み事例
14:10～14:40	立命館アジア太平洋大学の取り組み事例
14:40～15:10	お茶の水女子大学の取り組み事例

休憩

15:20～15:55	フロアディスカッション(記入された質問への回答)
15:55～16:00	閉会挨拶 百塚寛明(お茶の水女子大学 理事・副学長)

情報交換会参加者の方は本学生協へ移動

16:20～18:00 情報交換会(本学生協にて開催) 参加費1000円

会場 お茶の水女子大学
共通講義棟2号館201教室
アクセスについては別紙「会場案内」参照



お申し込み・お問い合わせ

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援チーム

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1学生センター棟2階

TEL 03-5978-2646 FAX 03-5978-6894

アドレス gakuryo-sympo@cc.ocha.ac.jp(申込用)

本シンポジウムのプログラム(案内ちらし裏面)

ほかにも、シンポジウムの前後の時間に、希望者に対して「お茶大SCC見学会」を実施するとともに、「情報交換会」を開催した。「お茶大SCC見学会」には102名(シンポジウム参加者の50.3%)、「情報交換会」には73名(シンポジウム参加者の36.0%)の参加があった。

本シンポジウムにおける講演資料やフロアディスカッション内容などは、報告書としてまとめており、TeaPot (<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>) からも PDF 形式でダウンロード可能としており、広く公開している。

課題と展望

本シンポジウムは、大学生の協調性や忍耐力の欠如が問題視される中で着目されはじめた「学生寮のもつりビングラーニングコミュニティ機能」をとりあげ、先進的な取り組みをする四つの大学の学生寮での実践事例を広く提供することを目的の一つとして開催したものである。そもそも学生寮に焦点をあてたシンポジウムは極めて珍しく、特定のテーマに特化して「深める」ことよりも、まずは、先進的な実践を「大学の戦略と教育可能性」という観点から「広める」ことを目指してのことである。

シンポジウムの前半では、首都大学東京・京都産業大学・立命館アジア太平洋大学・お茶の水女子大学それぞれの学生寮、特に戦略的に教育機能をもたせている学生寮での実践報告を行った。参加者アンケートによれば、参考になったとの声（「大いに参考になった」＋「参考になった」の回答）がいずれの報告でも 97%を超えており、多くの参加者から好評であったことが示されている。

シンポジウムの後半では、各大学の報告に対するディスカッションペーパーをもとに、フロアディスカッションを行った。参加者アンケートによれば、参考になったとの声（「大いに参考になった」＋「参考になった」の回答）がおよそ 9 割に達しており、概ね好評であったことが示されている。ただし、多くの広範にわたる意見・質問が寄せられたにもかかわらず、フロアディスカッションにあてる時間を予定よりも短縮し、質問をまとめて講演者に投げかける形式とせざるを得なかったことは運営上の大きな課題である。参加者アンケートの自由記述からは、「ディスカッションの時間が短い（短くなったのが残念だ）」「フロアから直接口頭で質問をしたい」といった意見もみられた。「時間の短さ」に関する意見・要望は、各大学からの報告に対しても挙げられており、運営上の課題であるとともに、参加者の関心の高さが表れた結果ともいえるだろう。

参加者の関心の高さは、シンポジウムの前後に希望者に対して実施した「お茶大 SCC 見学会」や「情報交換会」への参加状況からもみてとれる。

シンポジウムの開始前に実施した「お茶大 SCC 見学会」は「先着 30 名」という枠で募集を行ったが、早々にこの枠は埋まってしまった。その後も希望者が多くみられたため、見学会を予定より早い時刻から 3 回にわたって実施することとし、計 102 名もの方に見学をしていただいた。多くの方に見学していただくことができた一方で、参加者アンケートの自由記述からは、「難しいと思うのだが」という前置きつきであるが、「シェアハウス内を見学したい」といった要望もみられた。学生が実際に生活している場を「見学の場」として示すことは難しい問題であるが、どのような方法であればその様子を示すことができるのか検討していきたい。

シンポジウム終了後に実施した「情報交換会」にも73名の方に参加いただいた。ディスカッションペーパーでは、「共通質問」とは別に「各大学への質問」を募り、多くの具体的な質問・意見が寄せられたが、その多くに対しては、シンポジウム内での対応ができなかった。しかし「情報交換会」という場を別に設定し、多くの方に参加いただくことで、参加者個々のおかれている状況のやりとりも行いながら、報告者と議論を重ねている様子が随所でみられた。さらにいえば、報告者とのやりとりのみならず、参加者同士での挨拶を兼ねての情報交換も活発に行われていた。これまで決して盛んであったとはいえない「学生寮に関わる担当者間でのネットワーク作り」という点からも、本シンポジウムの果たした意義は大きい。

先にも述べたが、本シンポジウムは、特定のテーマに特化して「深める」ことよりも、まず、そこでの先進的な実践を「大学の戦略と教育可能性」という観点から「広める」ことを目的の一つとしていた。今後、より発展させていくためにも、「より多くの実践事例を提供する機会」を継続的に設けていくことともに、「関心の高い、特に、関係者の間で関心の高いテーマに特化して「深める」機会」も視野に置いていきたい。

2012年2月、大学教育学会課題研究委員会（「現代における学生支援の課題と展望」）とお茶の水女子大学学生支援センターの共催により、本シンポジウムの企画につながる研究会を30名程度の規模で開催した。そこでは、福岡女子大学とお茶の水女子大学の学生寮での実践、中でもピア・サポートの側面に焦点をあて、学生も交えての議論を行い、そこでの課題についても掘り下げることができた。今後は、こうした機会をワークショップ形式で設けることも検討していきたい。例えば、SWOT分析などを用いて各大学・学生寮の状況や課題を可視化し、他との比較検討や議論をすすめるような場も有益ではなかろうか。

最後に、今後のテーマ選定の参考にすべく、ディスカッションペーパーに寄せられた質問・意見の中から、主なものを挙げておきたい。

- ・ 集団生活になじめない学生への対応
- ・ 寮生活やそこでのプログラムの成果（それを測る方法も含めて）
- ・ 清掃や門限などの寮則指導（違反者への対応、ペナルティなども含めて）
- ・ 盗難や寮生間のトラブル対応
- ・ 退寮希望者や部屋移動希望者（複数名同室の場合）への対応
- ・ （リーダーシップをとるような）意識の高い寮生（班長、RA、ハウス長など）の選考・育成方法、待遇（インテンシブ）・優先権（プライオリティ）
- ・ 寮生が寮で暮らしていない学生に与える影響（効果）
- ・ 学生寮を通しての学生支援が大学としての評価にいかにつながっているか
- ・ 大学側の財務管理・経済的補助（寮費、空室負担金、人件費、プログラム費用など）
- ・ 学生寮運営にかかわる教職員に期待されるスキル
- ・ 教育機能をもつ学生寮を計画する際に空間的に配慮すべきこと

いずれも「学生寮のもつリビングラーニングコミュニティ機能」にかかわる重要なテーマであり、今後、多くの大学にとって「深める」ことが求められる観点であると思われる。

当日参加者所属一覧

本シンポジウムでは、定員を150名（先着順）としたが、「大学・短期大学職員」117名をはじめとして、「大学・短期大学教員」「企業」「公務員」「学生」など、定員を超える多くの方々からの参加があった。

当日参加者の所属先、教職員区分などは以下のとおりである（本学関係者、事例紹介講演者を除く）。

当日参加者所属一覧(大学・短大)

所属(※括弧内は人数)	内部組織名(※括弧内は人数、空白は未記入)	国公立区分	教職員区分
小樽商科大学	学務課	国	職員
お茶の水女子大学	人間文化創成科学研究科	国	教員
九州工業大学(2)	情報工学部 学生係	国	職員
	工学部	国	職員
京都工芸繊維大学	学生サービス課 学生生活係	国	職員
京都大学	女性研究者支援センター	国	教員
鹿屋体育大学	学生課 生活支援係	国	職員
静岡大学	学生生活課	国	職員
島根大学(2)	教育・学生支援部 学生支援課(2)	国	職員
筑波大学	学生部 学生生活課	国	職員
電気通信大学(3)	学生課	国	職員
		国	教員
		国	職員
東京医科歯科大学	学務部 学生支援課	国	職員
東京外国語大学(2)	学生課	国	職員
	留学生課	国	職員
東京学芸大学	学務部 学生課 課外教育係	国	職員
東京芸術大学	学生支援課	国	職員
東京大学(9)	本部 奨学厚生課(3)	国	職員
	資産管理部 管理課(2)	国	職員
	大学院 農学生命科学研究科・農学部 国際交流室(2)	国	教員・職員
	教養学部等 学生支援課	国	職員
	施設部	国	職員
東京農工大学	学務部 学生総合支援課	国	職員
富山大学		国	教員
長岡技術科学大学	学生生活支援係	国	職員
長崎大学	学生支援部 学生支援課 生活支援班	国	職員
名古屋工業大学	学生生活課	国	職員
奈良女子大学(2)	研究院 人文科学系	国	教員
	文学部	国	教員
一橋大学	学務部 学生支援課 学生支援係	国	職員
兵庫教育大学(2)	大学院 学校教育研究科	国	教員
	教育研究支援部 学生支援課	国	職員
広島大学(2)	教育・国際室 学生生活支援グループ(2)	国	職員
三重大学(2)	学務部 学生サービスチーム(2)	国	職員
山口大学(5)	学生支援部	国	職員
	学生支援部 学生支援課(2)	国	職員
	工学部 会計課	国	職員
	工学部 学務課	国	職員
青森県立保健大学	教務学生課	公	職員
岩手県立大学	学生支援室 学生支援課	公	職員
国際教養大学	学生課 学生支援チーム	公	職員
首都大学東京(4)	学生サポートセンター	公	職員
	学生サポートセンター キャリア支援課	公	職員
	学生サポートセンター 学生課 学生係	公	職員
	管理部 国際センター事務室 留学生支援係	公	職員
広島市立大学	事務局 教務学生室	公	職員
福岡女子大学(2)	学務部 学生支援班	公	教員
	学務部 学生支援班	公	職員
横浜市立大学	アドミッションズセンター	公	教員
亜細亜大学	厚生課	私	職員
跡見学園女子大学	学務部 学生課	私	職員

所屬(※括弧内は人数)	内部組織名(※括弧内は人数、空白は未記入)	国公立区分	教職員区分
エリザベト音楽大学	総務部 学生寮	私	職員
桜美林大学(2)	学生センター 学生生活支援課(2)	私	職員
大阪音楽大学	学務事務部門	私	職員
岡山理科大学	学務部	私	職員
学校法人佐野学園	法人本部 総務部	私	職員
学校法人東洋学園	法人本部	私	職員
学校法人文京学園	法大事務局 施設担当	私	職員
神奈川大学	入試センター事務部	私	職員
関西大学	学生生活支援グループ	私	職員
関西学院大学	学生部 学生課(学生生活カウンター)	私	職員
神田外語大学(2)	キャリア教育センター	私	職員
	教務部 国際交流課	私	職員
九州産業大学(2)	学生部 厚生課(2)	私	職員
京都光華女子大学	学生生活グループ	私	職員
京都女子大学	学生部	私	職員
京都精華大学	学長室	私	職員
京都ノートルダム女子大学	学生部 学生課	私	職員
熊本学園大学	学生課 厚生係	私	職員
慶應義塾大学	学生部	私	職員
神戸松蔭女子学院大学	学生課	私	職員
国立音楽大学(2)	学務部	私	職員
	学務部 学生支援課	私	職員
三育学院大学	英語コミュニケーション学科	私	教員
至学館大学	経営管理局 学生課	私	職員
四天王寺大学	学生支援センター	私	職員
芝浦工業大学(2)	学事部 学生課(大宮)(2)	私	職員
上智大学(2)	学生センター(2)	私	職員
聖徳大学	学寮課 兼 国際交流課	私	職員
昭和音楽大学	学務部 学生課	私	職員
聖心女子大学	学寮部	私	職員
洗足学園音楽大学(2)	学務部 学生生活課(2)	私	職員
創価女子短期大学(2)	短大事務局 学生課(2)	私	職員
創価大学(2)	学生部	私	職員
	学生部 学生課	私	職員
中部大学(2)	学生部 学生課	私	職員
	工学部 応用化学科 兼 学生部	私	職員
津田塾大学(2)	学生生活課	私	職員
		私	教員
天理大学(2)	学生部	私	職員
	豊井ふるさと寮	私	職員
東海大学	理事長室文書課	私	職員
東京女子体育大学	管財課	私	職員
東京女子大学(4)	現代教養学部 人文学科 日本文学専攻	私	教員
	教育研究支援部	私	職員
	教育研究支援部 学生生活課	私	職員
	大学運営部	私	職員
東京電機大学(2)	国際センター(2)	私	職員
東京理科大学	基礎工学部	私	教員
同志社大学	国際連携推進機構 国際センター 留学生課	私	職員
東洋大学		私	教員
南山大学	学務部 国際教育センター事務室	私	職員
日本大学	本部 学生支援部 学生課	私	職員
広島文教女子大学	学園統括部	私	職員
フェリス学院大学	学生課	私	職員
美作大学	学生部	私	職員
宮城学院女子大学	学生支援グループ	私	職員
武蔵野音楽大学(2)	学生部 学寮(2)	私	職員
明治薬科大学		私	職員
立命館アジア太平洋大学	教育開発・学修支援センター	私	教員
ルーテル学院大学	学生支援センター	私	職員
麗澤大学(2)	学務部	私	職員
	学務部 学生支援グループ	私	職員
早稲田大学	学生部レジデンスセンター	私	職員
和洋女子大学	学生課	私	職員

メディアへの掲載など

本シンポジウムに対してはメディアの関心も高く、開催告知記事が3紙に掲載された。当日の取材メディアは8紙にのぼり、3紙に取材記事が掲載されている。記事内容については、掲載各紙より許諾を得た上で、報告書に転載している。

・開催告知記事

- ・教育学術新聞 平成24年7月25日(水) 2面
「学生寮シンポ 戦略と教育の可能性」
- ・毎日新聞 平成24年8月15日(水) 夕刊 5面
「もよおし」
- ・毎日新聞 平成24年8月24日(金) 朝刊 35面
「学びの場としての学生寮」

・取材記事

- ・読売新聞 平成24年9月6日(木) 朝刊 14面
「学生寮の教育的効果と課題」
- ・愛媛新聞 平成24年9月12日(水) 20面
「人間形成機能に注目」
- ・日経新聞 平成24年9月17日(月) 朝刊 19面
「学生寮、規律継承カギ」

・当日取材メディア(順不同)

読売新聞、朝日新聞、日経新聞、神戸新聞、愛媛新聞、教育学術新聞、日経BP、東洋経済新報社

(4) 本学の学生寮調査 ―学生寮の生活環境及び人間関係に着目して―

調査の概要

本調査では、三つの学生寮の寮生を対象に、生活実態や満足度を調査して、比較検討することを目的とする。具体的には、寮に関する情報、施設・設備、寮費や寮の規則、寮の運営機関、非常時の対応、対人関係など多岐にわたるもので、いずれも、寮生の実情をふまえ、本学の学生支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的とする。

方法

・調査時期と調査対象者

平成 23 年 11 月～12 月に、お茶の水女子大学学生寮寮生 515 名を対象として調査を実施した。有効回答数は 183 名 (35.5%) であり、各寮での内訳は、小石川寮寮生 24 名 (36.3%)、国際学生宿舎寮生 133 名 (33.2%)、お茶大 SCC 寮生 26 名 (53.0%) であった。

・調査方法

調査対象者に個別記入形式の質問紙を配布し、各学生寮に回収箱を設置して回収を行った。

・調査項目

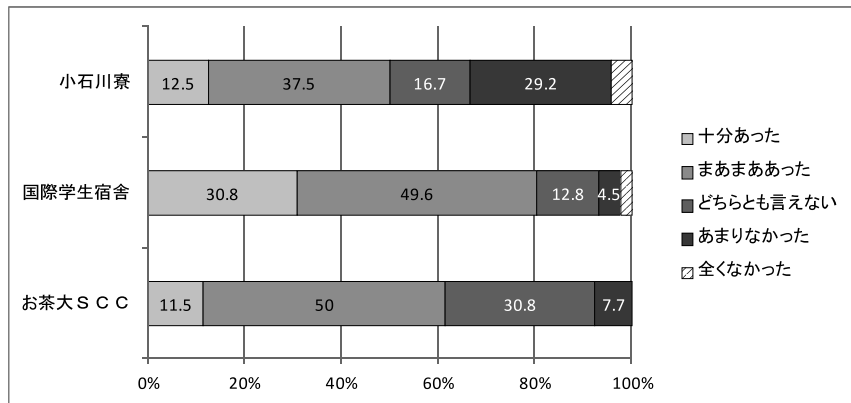
「寮に関する情報」8 項目、「施設・設備に関する満足度・要望」10 項目、「寮費や寮の規則に関する認知度・満足度」6 項目、「寮の運営機関に関する認知度・要望」5 項目、「寮内での非常時の対応の認知度」2 項目、「寮内の対人関係」3 項目について回答を求めた。

結果と考察

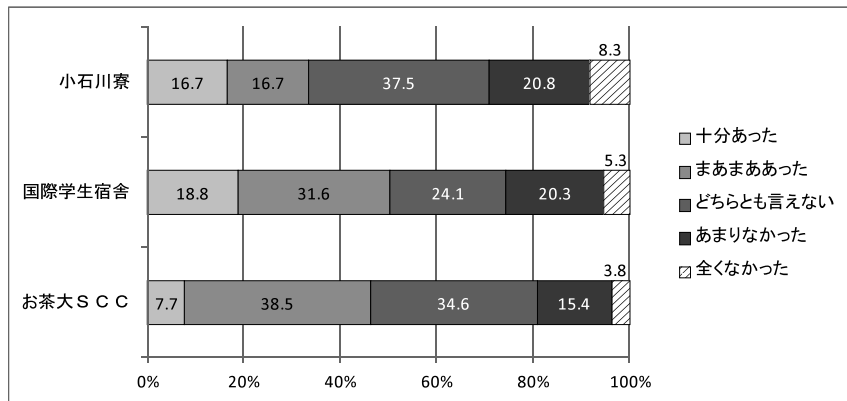
1) 寮に関する情報

入寮前に、学生寮についての下記の情報をどの程度受け取っていたかを尋ねた。その結果、寮に関わる諸経費は、情報が「十分あった」「まあまああった」が過半数であり、全般的に情報があったことが示された。一方、寮の管理システムや寮の規則は「あまりなかった」「全くなかった」が過半数であり、全般的に情報が少ないことが示された。したがって、これらの情報についても、学生寮のホームページや配布資料等で、分かりやすく明示していくことが必要と考えられる。

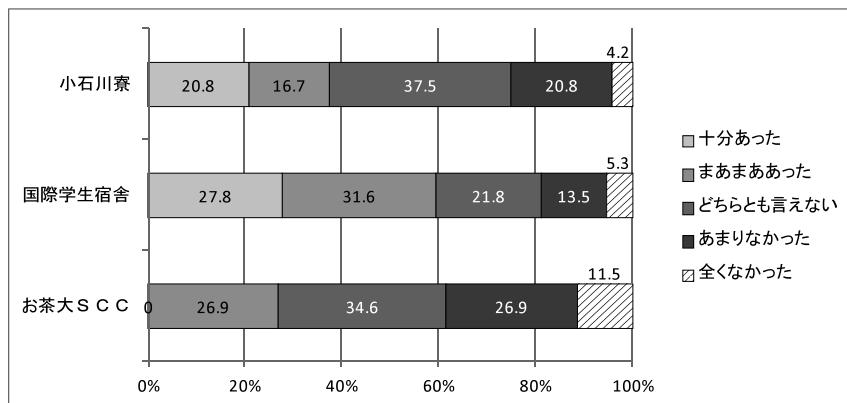
図表 1 - 1 : 寮に関わる諸経費



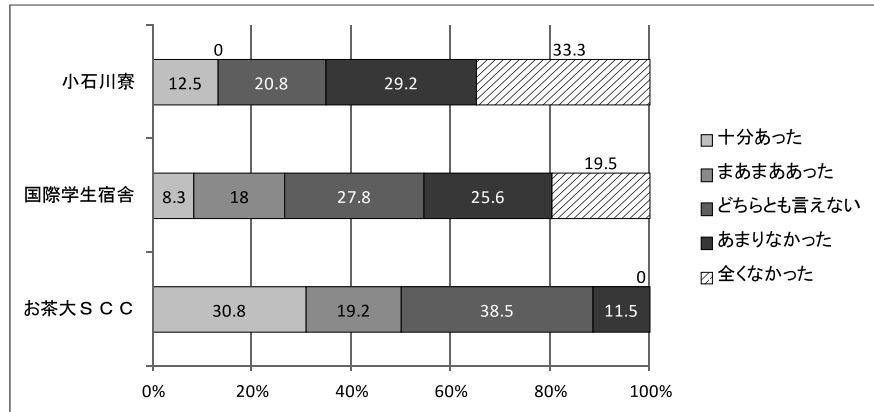
図表 1 - 2 : 寮の施設や設備



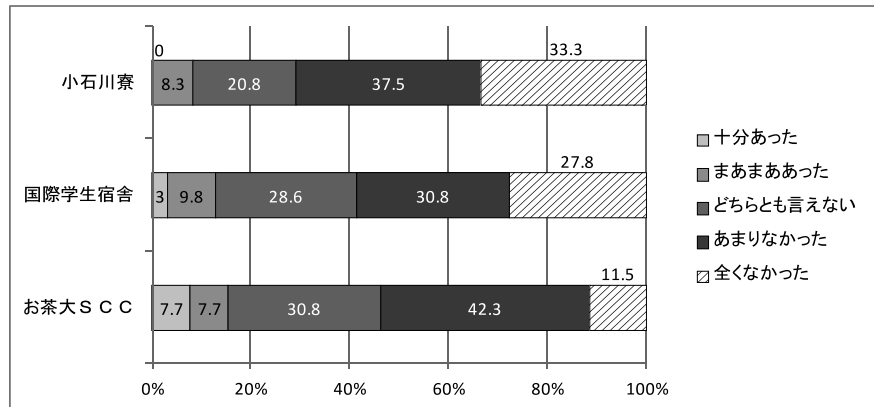
図表 1 - 3 : 部屋の設備や家具



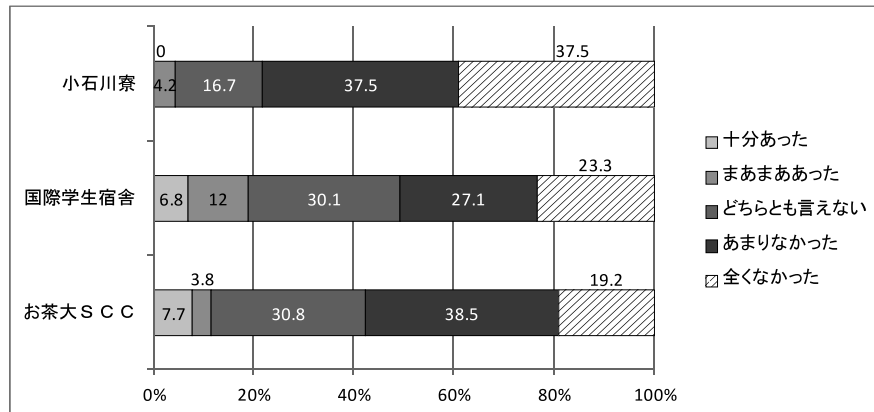
図表 1 - 4 : 寮内でのインターネットの利用



図表 1 - 5 : 寮の管理システム

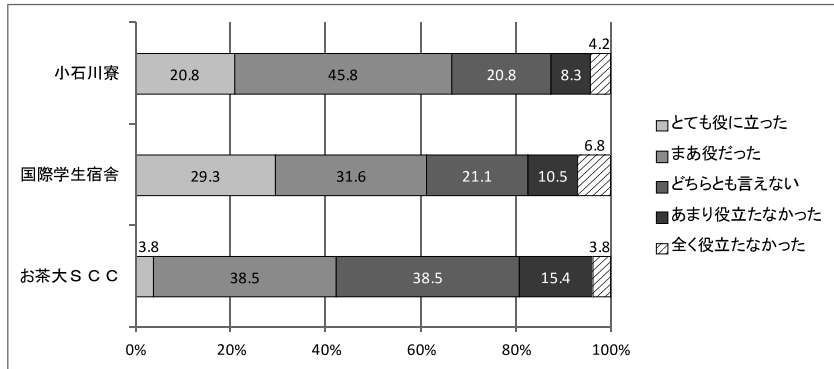


図表 1 - 6 : 寮のルールや規則

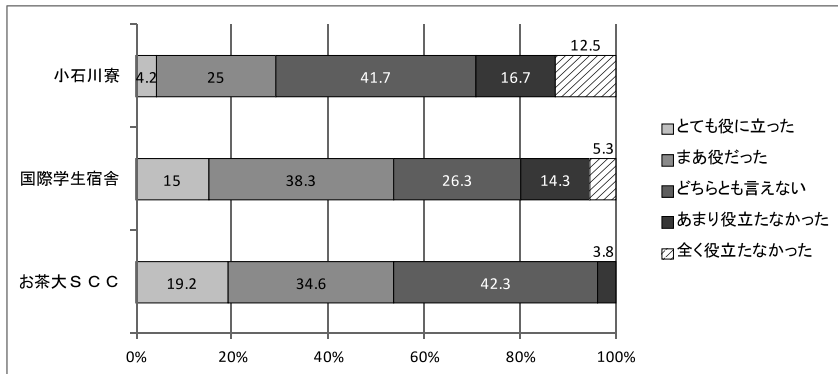


次に、寮に関する情報媒体が寮生活に役立ったかを尋ねた。その結果、寮ごとに見ると、ホームページについては、小石川寮、国際学生宿舎では「とても役立った」「まあ役立った」という回答が過半数だったが、お茶大 SCC では 40%程度と低い傾向が示された。一方、印刷物については、国際学生宿舎、お茶大 SCC では過半数だったが、小石川寮では 30%程度と低い様子が示された。

図表 1 - 7 : ホームページの情報



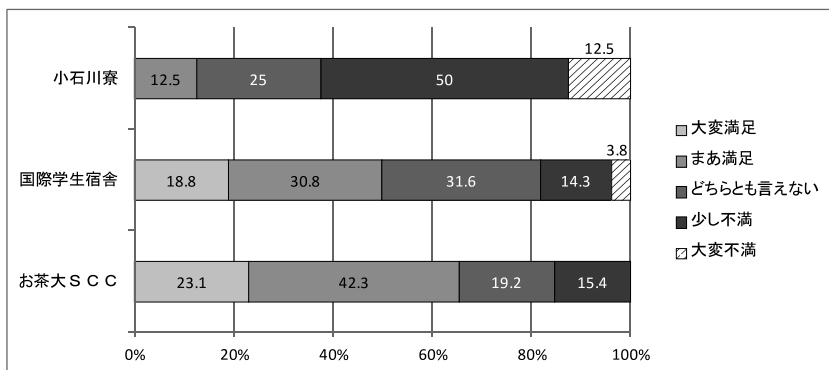
図表 1 - 8 : 印刷物（寮規程、ガイドブック等）



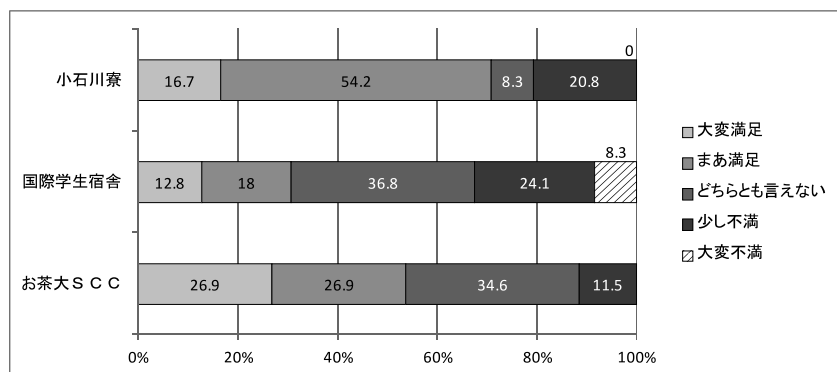
2) 施設・設備の満足度・要望

居室や以下の設備への満足度について尋ねた。その結果、寮ごとに見ると、小石川寮では浴室、トイレの満足度は高いものの、居室、補食室の満足度は低く、国際学生宿舎では全般的に満足度が低く、お茶大 SCC では全般的に満足度が高いことが示された。満足度が低い理由として、自由記述では、居室の狭さや古さ等の設備の問題や、浴室や補食室の使い方が悪い、騒ぐなどの迷惑行為等の使い方の問題が挙げられた。このことから、設備と使い方の両方の改善を行っていくことが求められているといえよう。

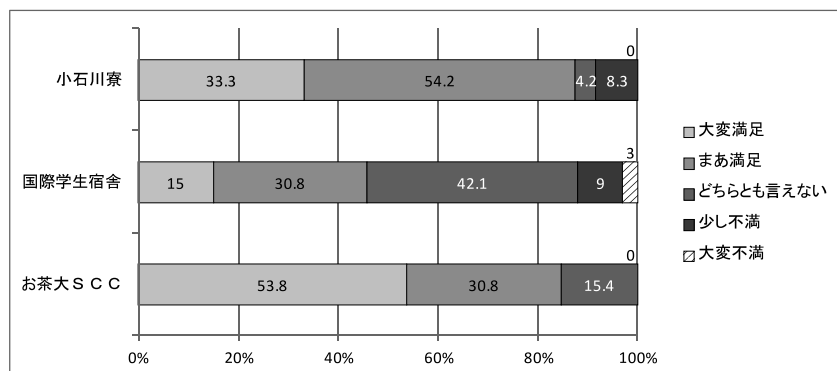
図表 1 - 9 : 居室全般（広さ・明るさ・清潔さなど）



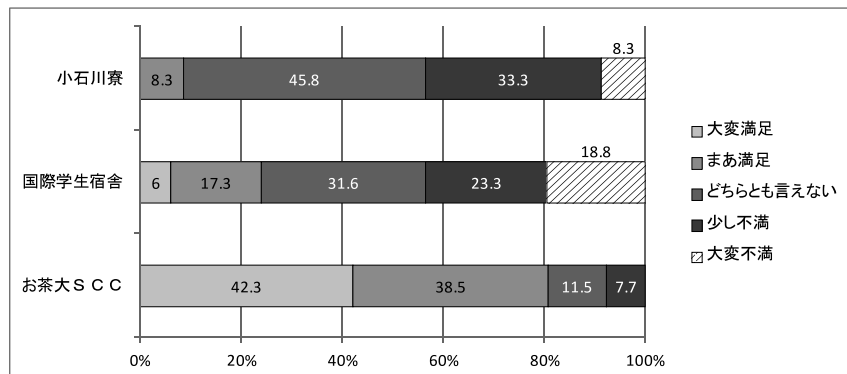
図表 1 - 10 : 浴室



図表 1 - 11 : トイレ

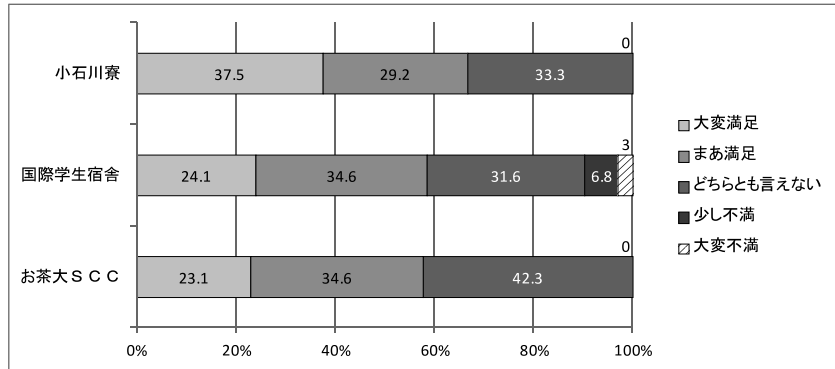


図表 1 - 12 : ハウスリビング (SCC) ・ 補食室 (国際・小石川)

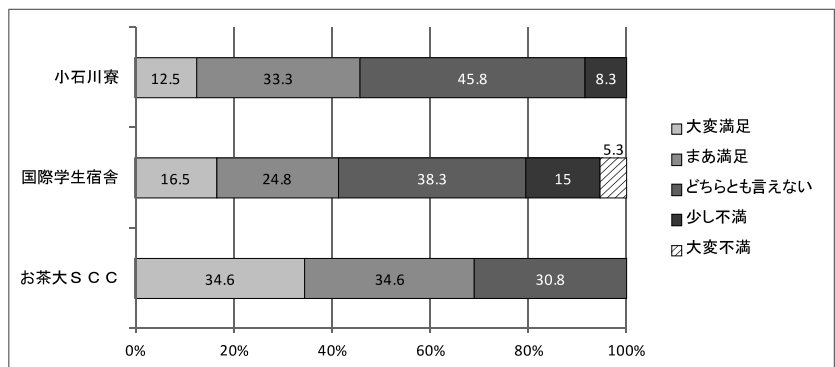


次に、以下の共有スペースへの満足度を尋ねた。その結果、ゴミ置き場、メールボックスは、全ての寮で満足という回答が過半数であり、全般的に満足度が高いことが示された。寮ごとに見ると、お茶大 SCC では全般的に満足度が高い一方、小石川寮ではエントランス、駐輪場の満足度が低く、国際学生宿舎では洗濯室の満足度が低いことが示された。

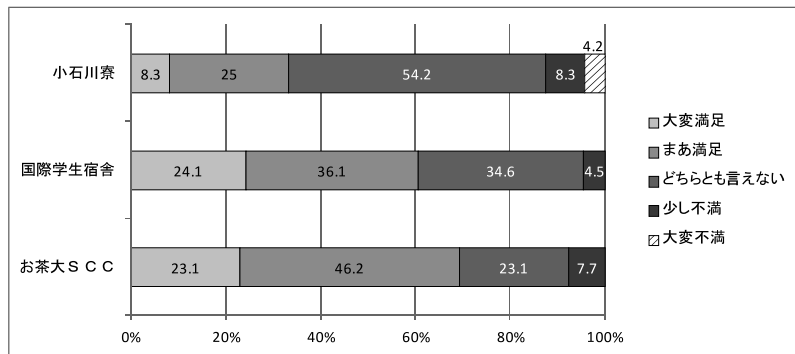
図表 1 - 13 : ゴミ置き場



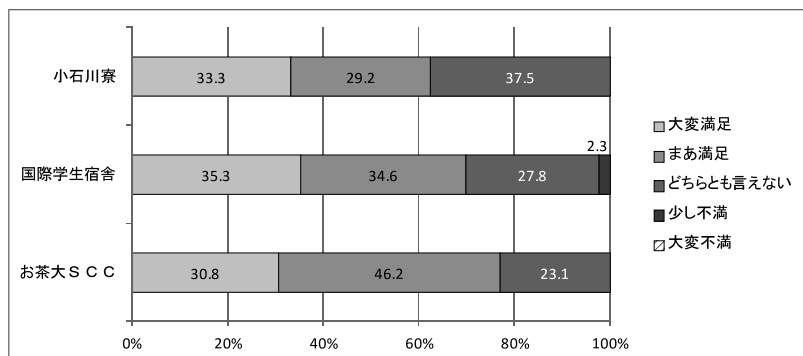
図表 1 - 14 : 洗濯室



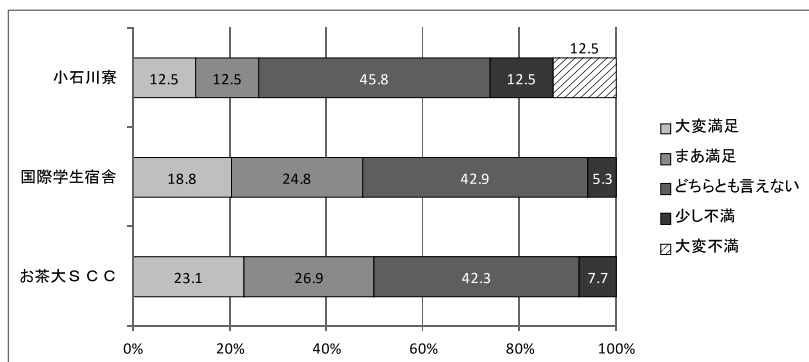
図表 1 - 15 : エントランス



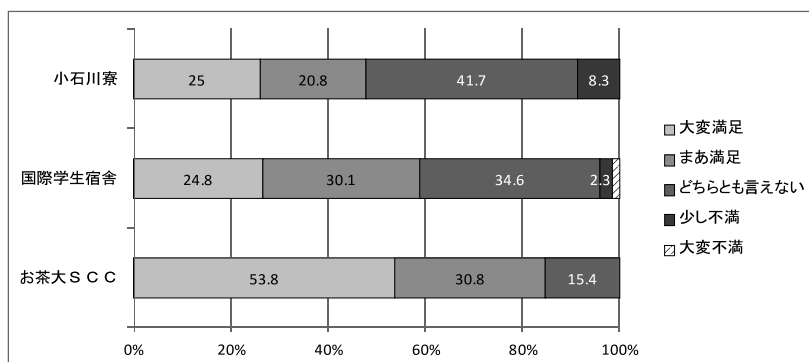
図表 1 - 16 : メールボックス



図表 1 - 17 : 駐輪場



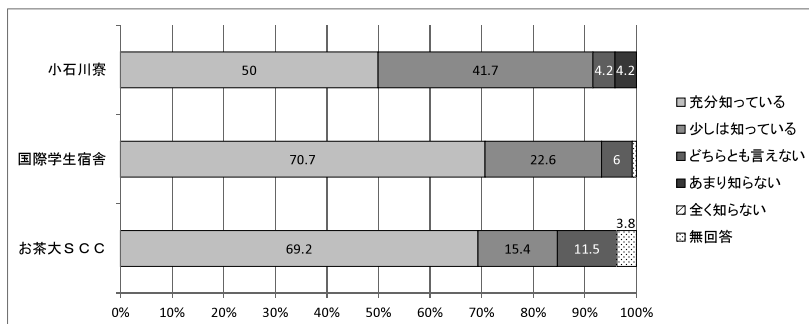
図表 1 - 18 : 共有ラウンジ・ロビー・ホール



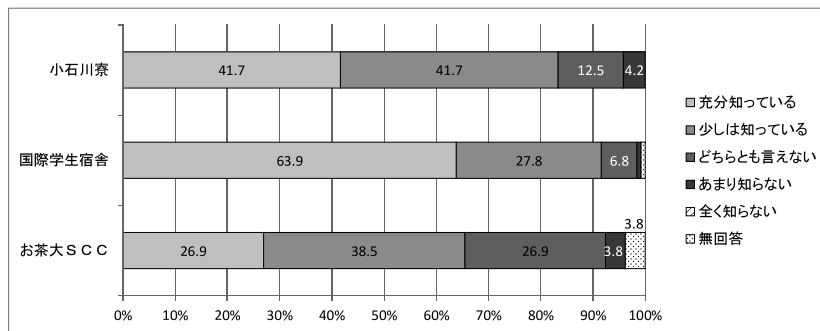
3) 寮費や寮の規則の認知度・満足度

寮費や寮の規則をどのくらい認知しているか、またどのくらい満足しているかについて尋ねた。以下の規則の認知度を尋ねた結果、すべての規則について、過半数の回答者が知っていると回答していることが示された。このことから、規則については、多くの寮生が認知しているものと考えられる。

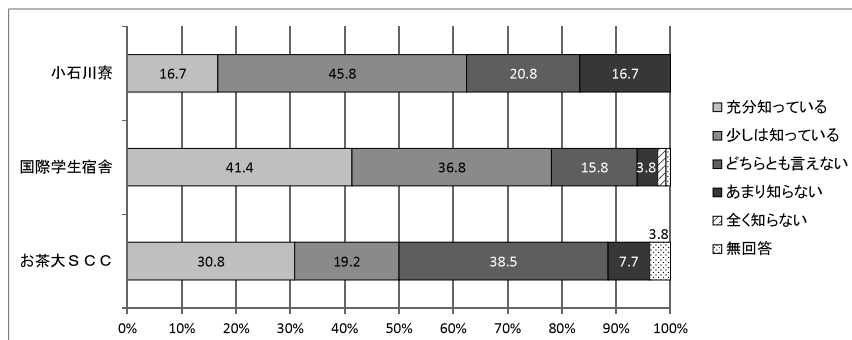
図表 1 - 19 : 門限の規則



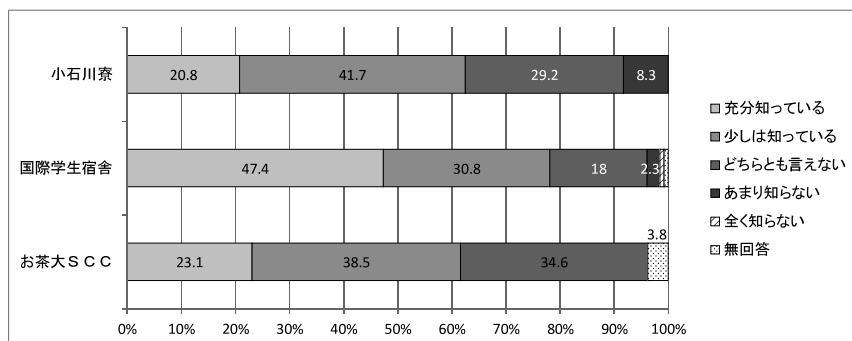
図表 1 - 20 : 寮費の規則



図表 1 - 21 : 共有施設・設備の使用の規則

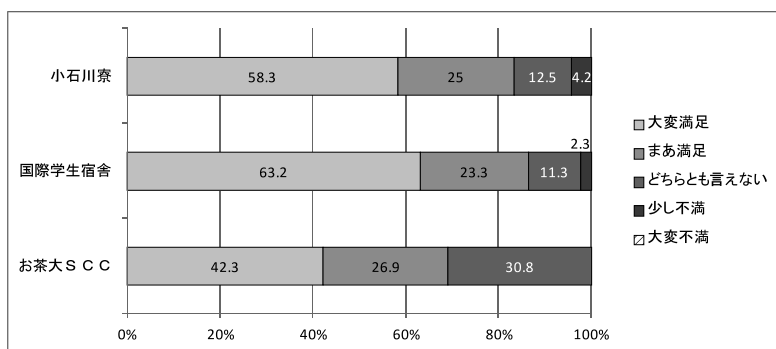


図表 1 - 22 : ゴミ処理の規則

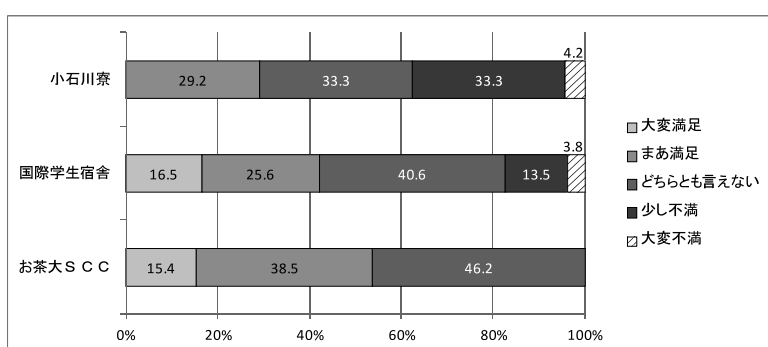


次に、寮費、寮の規則の満足度を尋ねた結果、寮費の満足度は全般的に高い一方、寮の規則の満足度は、お茶大 SCC では 53.9%、国際学生宿舎では 42.1%、小石川寮では 29.2%が「大変満足」及び「まあ満足」と回答していることが分かった。自由記述では、門限、寮費などの規則の改善や、設備や備品の使用のルールが守られていないといった使い方の問題が挙げられており、こうした規則について、寮生のニーズも聞きながらルールを見直し、明示していく必要があると考えられる。

図表 1 - 23 : 寮費の満足度



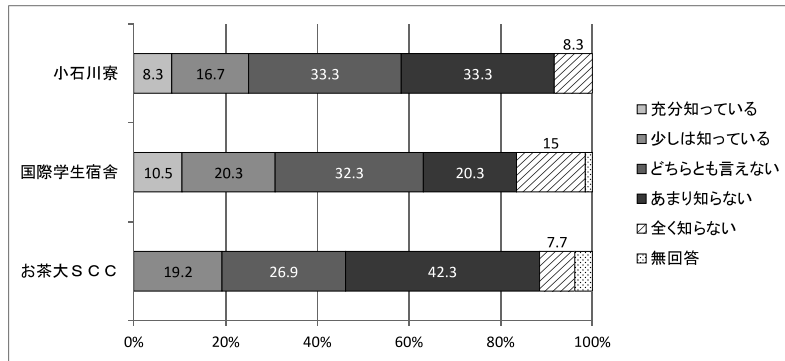
図表 1 - 24 : 寮の規則の満足度



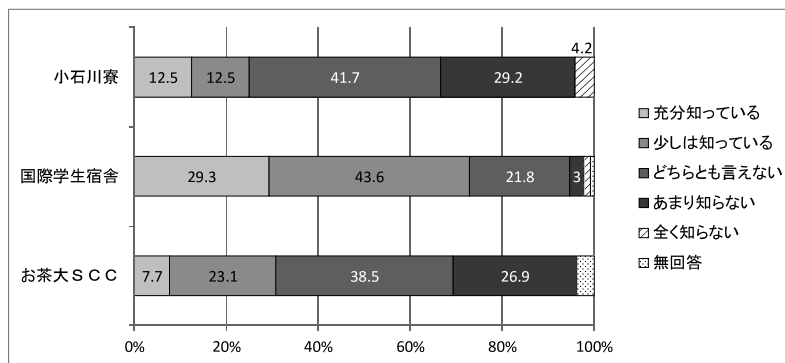
4) 寮の運営機関の認知度・要望

以下の寮の運営機関を認知しているかについて尋ねた。その結果、(小石川寮、国際学生宿舎の)自治会、(お茶大 SCC の)学寮アドバイザーの認知度はある程度高いものの、管理人、警備員は、小石川寮、お茶大 SCC ではあまり認知されておらず(それぞれ、管理人：25%、30.8%、警備員：25%、7.7%)、学生・キャリア支援チームは、全ての寮であまり認知されていないことが示された(それぞれ、25%、30.8%、19.2%)。これらの運営機関は、寮で個々の重要な役割を担っており、どの機関がどのような役割をしているかを寮生に理解される必要があるため、今後、それぞれの役割について周知していく必要があると考えられる。また、要望として、自由記述では、①寮生への対応の改善、②自治会の負荷が大きすぎる・自治会自体が必要なのかという疑問などが挙げられた。

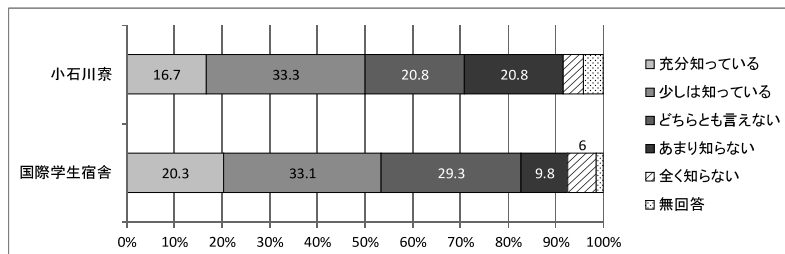
図表 1 - 25 : 学生・キャリア支援チーム



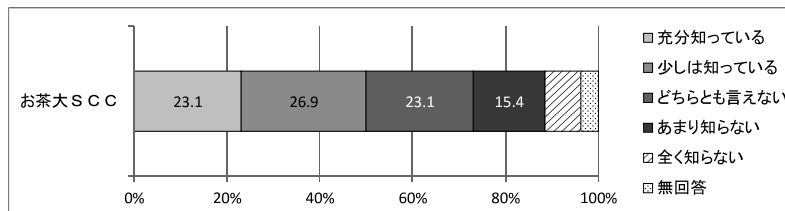
図表 1 - 26 : 管理人



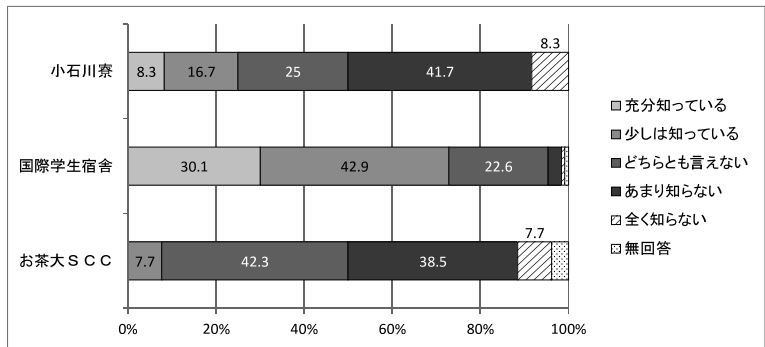
図表 1 - 27 : 自治会（国際学生宿舎・小石川寮のみ）



図表 1 - 28 : 学寮アドバイザー（SCCのみ）



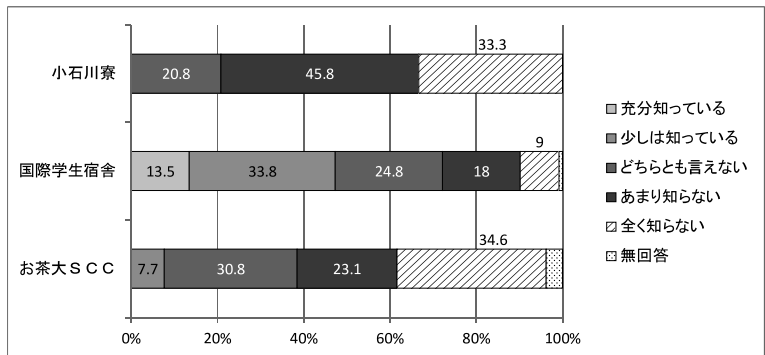
図表 1 - 29 : 警備員



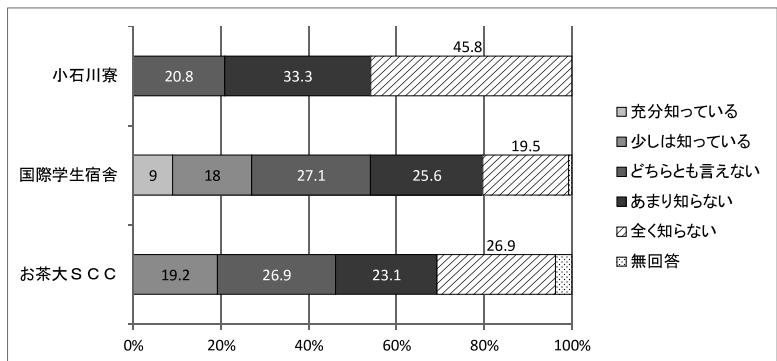
5) 寮内での非常時の対応の認知度

寮内での非常時の対応について知っているか尋ねた。その結果、災害時の対応を十分知っていると回答した者はどの寮でも少なく（それぞれ 0%、13.5%、0%）、病気になった時の対応も十分認知されていないことが示された（それぞれ 0%、9%、0%）。したがって、これらの対応について、今後各寮で周知を徹底させていくことが必要と考えられる。

図表 1 - 30 : 災害時の対応



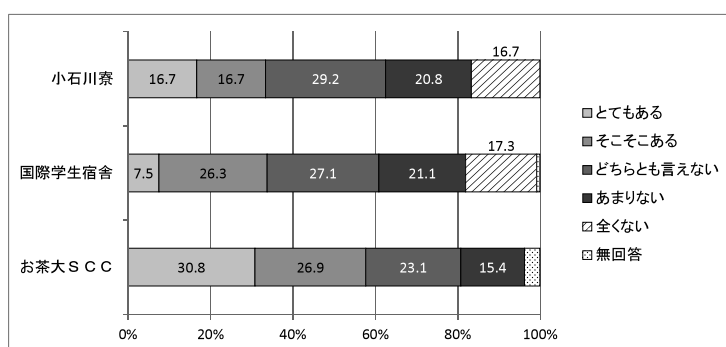
図表 1 - 31 : 病気になった時の対応



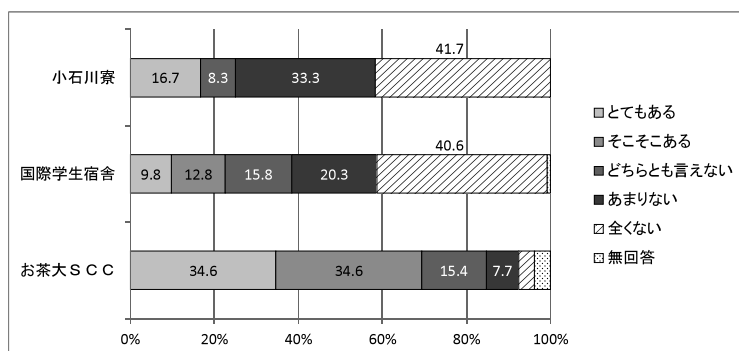
6) 寮内の対人関係

寮内での対人関係について、以下の交流をどのくらい行っているか尋ねた。その結果、一般的に、お茶大 SCC では交流が多く行われている一方、小石川寮や国際学生宿舎では、補食室などの共有スペースで一緒に過ごす機会がとてもあると回答した者はそれぞれ 16.7%、9.8%であり、行事やパーティーなどを一緒に楽しむ機会がとてもあると回答した者はそれぞれ 4.2%、4.5%で、こうした交流の機会が少ないことが分かった。これは、それぞれの寮の特色を反映しているものと考えられるが、小石川寮や国際学生宿舎でも、行事やパーティーを行う機会がもう少しあったほうが良いという自由記述も見られることから、寮内で希望者を募って交流する機会を持つこともよいのではないかと考えられる。

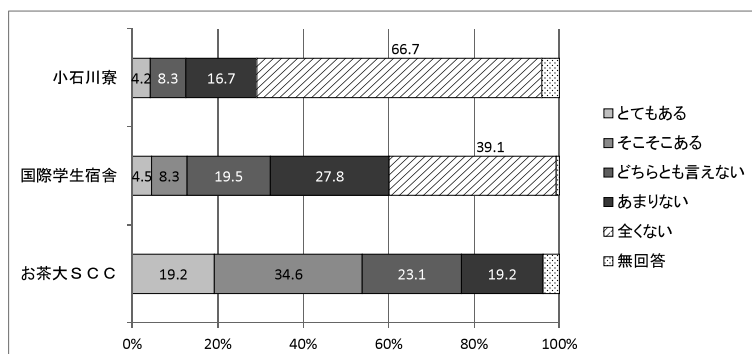
図表 1 - 32 世間話などをする



図表 1 - 33 補食室（ハウス）などの共有スペースで一緒に過ごす



図表 1 - 34 寮の行事やパーティーなどを一緒に楽しむ



まとめと今後の課題

本調査では、三つの学生寮の寮生を対象に、生活実態や満足度を調査して、比較検討することを目的とした。その結果、主に以下のことが示された。

まず、入寮前の寮に関する情報は、諸経費、施設や設備などについては、どの寮でも比較的多く情報があったが、管理システムや寮の規則については情報が少なかったことが示された。このことから、今後、不足している情報を、印刷物やホームページ等で分かりやすく明示していくことが必要と考えられる。

また、寮の施設・設備の満足度は、お茶大 SCC では全般的に高く、国際学生宿舎や小石川寮では全般的に低い傾向が示された。また、国際学生宿舎や小石川寮では、設備の問題にあわせて、使い方の問題も指摘されていることから、使用マナー等も呼びかけていく必要があると考えられる。

さらに、寮の規則・寮費等の情報は、多くの寮生が認知しているものの、特に小石川寮では、寮の規則に対する不満や、設備・備品の使用に関する不満が多いことが示された。このことから、寮生のニーズも踏まえつつ、規則を明示していく必要があると言える。

また、寮の運営機関、非常時の対応等の情報は、全般的にあまり認知されておらず、各寮で周知させていく必要があることが示唆された。最後に、寮内の対人関係は、お茶大 SCC では様々な交流が行われている一方、国際学生宿舎や小石川寮では、交流の機会が少ないことが示された。これは、各寮のコンセプトを反映していると考えられるものの、国際学生宿舎や小石川寮でも希望者を募り、交流する機会を設け、今後は、三つの寮の交流を促していくことが課題と考えられる。

(5) 海外の大学の学生寮視察調査

1) アメリカの学生寮

はじめに

アメリカの大学の学生寮では、学生寮を寝食の場としてとらえるだけでなく、学生寮だからこそ実現できる教育的機能を重視して、様々な形態や機能を発展させてきた。そこでの取り組みは、日本の学生寮の参考になる部分も多く、とりわけ、学生寮の個室化が進む今日では、学生寮での寮生同士、寮生と教員との関わりがもつ意義は大きい。そこで、本調査論文では、アメリカの大学の学生寮を視察した結果をまとめ、交流を通しての学びの場としての機能を明らかにし、お茶の水女子大学の学生寮、とりわけ、新寮「お茶大 SCC」での取り組みの参考とする知見を得ることを目的とする。

本視察調査は 2011 年 2 月に行われ、昭和女子大学ボストン校、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、ボストン大学の四つの学生寮を視察した。そこで、大学ごとにその現状と特徴及び、寮での交流や活動について概観する。

【昭和女子大学ボストン校】

・寮の概要

昭和女子大学ボストン校（昭和ボストン）及び学生寮は、1988 年に設立され、現在、40 人が入居可能な寮棟が 10 棟、大学キャンパスに併設して運営されている。この寮は、主に日本人留学生（ほとんどが昭和女子大学生）を受け入れており、留学生がアメリカで生活し、アメリカの文化に触れる機会を提供することを目的として運営されている。日本人留学生は、主に学部 1、2 年生で、5 ヶ月から 1 年 6 ヶ月の留学プログラムで訪れる。各寮室は、二人一部屋を基本とし（一部四人部屋もある）、食事も提供される。また、寮は大学の図書室や教室につながっている他、寮全体での共有施設として、フィットネス・ルーム、ゲーム・ルーム、屋内プール、ヘルスルームなどがある。また、各寮棟での共有施設として、共有ラウンジ、トイレ・バスルーム、ランドリー・ルーム、キッチンなどがある（図 1）。



図 1：昭和女子大学ボストン校の学生寮

・寮での交流や活動

寮の運営は、8名の大学のスタッフが担当している他、レジデント・アシスタント(RA)が、各棟に2名ずつ住み込みで滞在している。RAは、ボストン在住の大学院生や社会人などで、昼間は通学・通勤をしながら、スタッフが不在となる夜や週末に、ボストンの生活や情報、イベントなどを企画して、昭和ボストンの日本人留学生のための日常的なサポートを行っている。また、RAは、ニューイヤール・イブ・パーティー、ハロウィン・パーティーなどのアメリカの伝統的なイベントを企画したり、ボストン市内の観光名所等に日本人留学生を連れ出して、案内したりする。

寮生同士の交流や活動としては、日本人留学生が滞在中に、棟の全員で参加する企画(寮祭等)をして、棟全体での共同作業の機会を作っている。この活動によって、連帯感や達成感を学び、その後の留學生活が、より活性化すると述べられていた。その他にも、ボランティア活動も盛んで、地域との連携のもと、老人ホームや小学校で日本文化を紹介する交流も行われている。また、各棟には、日本人留学生のリーダーと副リーダーが2名いて、様々なイベントや共同作業を通じて、リーダーシップを育てていくことも重要であると述べられていた。また、寮内で何か問題が発生した場合は、寮生同士で話し合っ解決させることを基本としており、それによって、仲間意識や問題解決の方法を学ばせていくと述べられていた。

【ハーバード大学】

・寮の概要

学部学生は全寮制であり、ほとんどがハーバードヤードと呼ばれる学内の寮(On-Campus Housing)に住んでいる。

寮は各自希望で選択することが出来、人気がある寮は抽選となる。寮は一人部屋から四人部屋(ルームメイトとの相部屋)などの様々なタイプがあり、食事付き・食事なしなどの条件も選択できる。寮費は部屋によって異なるが、1学期で約40~55万円程度のものが中心である。全ての学生寮は大学の生活支援課(Harvard Real Estate Service)が管理運営している(図2)。



図2：ハーバード大学の学生寮

・寮での交流や活動

ハーバード大学では、学内で様々なイベントが催されており、多くの寮は学内にいるため、取り立てて寮に限定したイベント等を行われていない。ただし、学内の寮では、寮生が個人個人で主体的にイベントを企画したり、参加したりすることがあり、寮にもよるが、寮内での交流は概ね行われている。また、上級生と下級生の交流も特別に企画されてはいないものの、寮生が集まる食堂で、授業の課題について教え合ったり、就職や進学の相談をしたり等、日常的に関わりをもち、助け合っている。また、ハウス制を採用している寮では、共同生活上で問題が生じることもあるが、ほとんどの場合は当事者同士がよく話し合っ、問題を解決していると述べられていた。

大学からの特別な働きかけがなくても、このような交流が自発的に行われる理由として、一つには、学生が自立を目指し、寮でも主体的に生活する姿勢をもっていることが挙げられる。自宅からの通学距離の関係もあるが、アメリカでは、大学生になると親元から離れて寮で生活することが一般的である。そのため、学生も寮生活を通じて、自立していく意欲をもっており、寮内で、何か問題が起こった場合には、自分たちの責任として捉え、できるだけ当事者同士が話し合っ、問題解決するという意識を持っていると述べられていた。

【マサチューセッツ工科大学】

・寮の概要

学部学生用に 12 の寮棟があり、1918 年に建てられた古い寮から 2008 年に建てられた新しい寮まで、様々なタイプ・外観の寮が点在している。学部学生の 74%は、学内の寮に住んでいる。寮のタイプとしては、一人部屋から四人部屋などがあり、食事なし・食事付きなどの条件の選択もできる。寮費は様々だが、1 学期で 40～50 万円程度のものが中心である。寮内には、共有施設として、フィットネス・ルーム、ゲーム・ルーム、コンビニエンスストア、ミーティング・ルーム、学習・パソコンルーム、視聴覚ルームなどがある（図 3）。

また、大学院生の寮は、単身寮のほか、大学院生には既婚者も多くいる為、家族で住めるアパート形式の寮もあり、子どものプレイルームや遊戯施設も充実している。

全ての学生寮は大学の学生寮課(Housing Office)が管理運営している。



図 3 マサチューセッツ工科大学の学生寮

・ 寮での交流や活動

マサチューセッツ工科大学の学生寮では、全ての寮に共通して、「住居プログラム (Residential Life Programs)」が組まれている。これは、大学の関係者がチームを組み、連携して寮生をサポートするシステムである。プログラムの一番上層には教授が置かれ、各寮に一人の教授が家族とともに住み、寮生の学習面や心身面でのサポートを統括的に行う。その下層に GRT(Graduate Resident Tutors)が置かれ、これは大学院生 1 名が 35~40 名の学部生を担当し、相談相手となって、サポートを行うシステムである。さらに、RLA(Residential Life Associate)が置かれ、寮生の夜間の対応や教育的プログラムの企画（一例として、エンジニアを招待した講演パーティーや、僧侶を招いて、仏教についての講演や実演を行う等）などを行う。また、教育的プログラムだけでなく、各寮で寮生が主催するイベント、ゲーム、エクササイズなども豊富にある。教育的プログラムでも、寮生主催のイベントでも、重要なことは、企画のバラエティを多くして、寮生の興味や関心を広げ、将来の可能性を広げることであり、そのために、全てのスタッフが、寮生がどんなことに興味をもっているかを常に考え、様々な企画を工夫していると述べられていた。

また、入寮時には、段階的な細かいプロセスがある (図 4)。初めに、CPW(Campus Preview Weekend)が設けられており、新入生はこの期間の三日間、実際に寮で暮らし、どの寮に入寮したいかを検討する。CPW の期間は、各寮で様々なイベントが行われ、寮生はそれらに参加し、さらに、全ての寮が紹介された寮ガイドを見て、入寮を判断する。そして、入寮したい寮を決定した後、三日間のオリエンテーションが行われ、この期間に、希望した寮で生活してみて、本当にこの寮でいいかを再確認し、その後、入寮の最終決定となる。入寮が決まったら、寮生のリーダーと相談して、フロア、居室などを自分たちで決める。このように、入寮までに細かいプロセスがあるが、これは、寮ごとに独自の文化があり、どの寮が自分に合っているのかを時間をかけて考えさせることで、入寮後の問題や不満を減らし、寮生活を満足させるための工夫であると述べられていた。

さらに、寮内での寮生同士の関わりは、日常的に活発である。上述したイベントの企画等や、寮生同士のサポートも日常的に行われている。寮生同士が助け合い、異なる価値観や個性に触れながら、ともに成長していくことが寮生活の目的であると述べられていた。特に、上級生と下級生の関わりは重要と考えられ、どの寮でも、異なる学年や学部が混ざって生活しており、上級生は、下級生の学習、心身、生活態度など、大学生活全般のサポートをするよう、大学からも働きかけていると述べられていた。また、寮間でも交流の機会が設けられており、年に数回、寮のリーダーが集まってミーティングを開き、各寮のイベントや寮での取り組みを話し合っ決めていく。

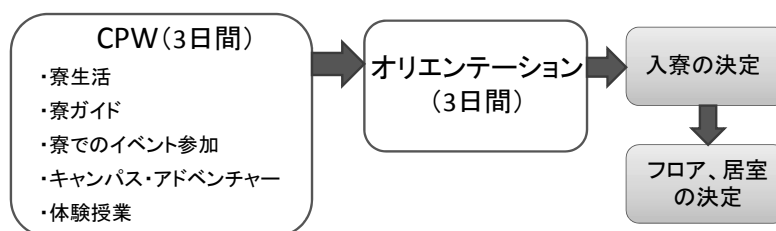


図 4：入寮までのプロセス

【ボストン大学】

・寮の概要

ボストン大学には、学部学生約 16,000 名、大学院生約 8,000 名が在籍しており、そのうち、学内の寮で学部生の約 11,500 名、大学院生の約 800 名が生活している。寮棟は、大小様々なものが 147 棟ある。寮は各自希望で選択することができ、一人部屋や四人～六人部屋など様々なタイプがあり、食事なし・食事付きなどの条件の選択もできる。寮費は様々だが、1 学期で 45～55 万円程度のもものが中心である。共有施設として、ゲーム・ルーム、コンビニエンスストア、カフェテリア、ミーティング・ルーム、学習・パソコンルーム、視聴覚ルームなどがある（図 5）。また、学生の生活する地区(Student Village)には、学生が自由に使える大型のスポーツセンターも併設されており、温水プール、トレーニングジム、ロック・クライミング、屋内テニスコートなども完備されている。



図 5：ボストン大学の学生寮

・寮での交流や活動

寮の運営は、大学スタッフが各寮に配置されて行っている他、RA（レジデント・アシスタント）が各棟にいる。RA は上級生や大学院生などが担当しており、寮生の第一の接触先として、下級生の寮生のサポートを行っている。それでも解決できない問題があった場合は、ディレクターや学内の寮に住んでいる教授が対応することもある。ただし、ボストン大学では、キャンパス・ポリシーとして、学生の責任を重視しており、厳格な規律がある。寮の運営も、このキャンパス・ポリシーに則して行われているため、何か問題が発生した場合は、できるだけ自分たちの責任として、寮生自身で解決していくように促していると述べられていた。特に複数人で暮らすユニットタイプの寮では、対人関係の問題が生じやすいが、その場合も、学生自らが、寮生活で他人と共同で住む意味を考え、他者と関わりながら問題解決をするよう、教育していると述べられていた。

また、寮での交流として、毎月多数のイベントが行われており、学内にイベントを企画するための部署、SA(Student Activity)が設けられている。SA は学生と共同して企画を立て、学生の興味を引くイベントを製作している。一例として、スポーツイベント、文化交流のイ

イベントなどの他、外部の著名人を招いた弁論大会などの教育的なイベントも多く行っている。これらのイベントに学生を惹きつける工夫として、「寮生を惹きつけるような広告を行い、どんなパッケージにするかを工夫している。独創的なもの、時事と関連したものなどは、学生の関心を集めやすく、よく行われる。このように、寮生のモチベーションを高める仕掛けを常に考えている」と述べられていた。また、教育的なイベントは、単なる講義にせず、例えば、コミュニティサービスに結び付け、単位の取得や謝金などの対価を与えることで、自身の関心のあるコミュニティサービスが選択でき、対価が得られるなどの工夫をしていると述べていた。

日米の学生寮の比較及び、今後の課題

最後に、視察した四つの大学の学生寮に見られた特徴をまとめ、それを踏まえて、今後、本学の学生寮の運営において課題と考えられる点を挙げる。

1 点目として、アメリカの学生寮では、大学の教職員及び RA 等の専門スタッフが、寮の運営や取り組みに積極的に関わっていることが挙げられる。特に、マサチューセッツ工科大学、ボストン大学等では、教授が寮に住み込むことにより、教育面、生活面でのサポートを行うと同時に、寮生の責任感や自立を促す働きかけを続けていくなど、寮生活が人格形成にも重要な役割を担うものと考えられていることがうかがえた。このように、アメリカの学生寮は、「生活の場であると同時に教育の場」と考えられて運営されており、教育的機能を併せもっていることが示唆された。

本学に翻ってみると、これまで本学の学生寮には、職員等のスタッフは配置されていたが、教員と学生との関わりはほとんどもたれず、教員と連携した教育的活動もほとんどなかったといえる。このことを踏まえ、お茶大 SCC では、「学修プログラム」を行うことで、本学の教員が寮生と教育的関わりを持つ機会が設けられている。また、教員が学寮アドバイザーとして寮に関わることで、寮生の支援のニーズを把握しやすくなり、寮生の教育面、生活面でのサポートを拡充していくことができるのではないかと考えられる。ただし、お茶大 SCC 以外の二つの既存寮では、そうした取り組みは行われていないため、今後は、お茶大 SCC での取り組みを踏まえて、他の寮でも、それぞれの寮の機能に応じた支援プログラムを作り、寮生のニーズにあわせた支援や、教育的機能の向上を図っていくことが課題と考えられる。

さらに、2 点目として、アメリカの学生寮では、寮生同士の交流が重視されており、特に上級生が下級生のサポートをすることで、お互いが成長し合うことが目指されている点が挙げられる。下級生にとって、上級生は、寮の仲間でもあるため、上述した大学のスタッフより接触しやすく、サポートも受けやすいという利点がある。お茶大 SCC でも、こうした利点を生かす取り組みとして、ハウスには、1 年生と 2 年生を交ぜて入居させ、2 年生が 1 年生のサポートをしつつ、相互の交流の中で、お互いがともに成長し合うことを目指している。ただし、お茶大 SCC には学部 1、2 年生しかいないため、さらに上級生の学部 3、4 年生や大学院生との関わりをもつことが難しい。したがって、今後は、学部 3、4 年生の住む国際学生宿舎や、大学院生の住む小石川寮との連携を図り、寮生同士のより広いサポート体制の枠組みを構築していくことが課題と考えられる。

3 点目として、アメリカの学生寮では、寮生と教職員が連携してイベント等を企画・運営していることが挙げられる。また、イベントは娯楽的なものばかりではなく、弁論大会、異文化交流等の教育的なイベントや、スポーツ大会等、多様なものが実施されている。このように、多様なイベントを実施し、間口を広くすることで、寮生が自分の興味を持てるイベントに参加できるようにし、様々な活動を通して、生活を充実させると同時に、新たなチャレンジを通して、将来の選択肢を増やすことが可能となるものと考えられる。

本学では、これまでは、教職員と学生とが連携してイベントを企画することはなく、寮生が主体的に実施しているウェルカムパーティーなどのイベントを除いて、イベント自体もほとんど実施されていなかった。このことを踏まえ、お茶大 SCC では、学生支援プログラムを通じて、様々な種類のイベントを企画しており、学生が自主的に行うイベントだけでなく、教職員が主体となって企画するイベントも実施される予定である。ただし、これらのプログラムは、現時点では体系的に整備されているとはいえないため、今後は、プログラムの目的に応じて、イベントを体系立てて行っていくことが必要と考えられる。また、ボストン大学でのヒアリングでも述べられていたように、教育的なイベントは、硬い内容になりやすく、それでは寮生も参加したがるため、寮生の興味を引く工夫が必要と考えられる。したがって、今後は本学でも、そのような仕掛けや広告方法なども改善し、寮生がモチベーションをもって企画、参加できるようなイベントにしていく必要があると考えられる。

以上をまとめると、本調査では、アメリカの大学の学生寮を視察した結果、教員と寮生との交流、寮生同士の交流が積極的に行われており、大学内での連携が図られていることがうかがわれた。また、このような連携の中で、多様なイベントが学内や寮内で頻繁に行われており、寮生活全般が、寮生にとっての学びの場として機能していることが示唆された。今日、日本の学生寮の個室化が進む中で、寮生同士の関わりが減少する可能性が指摘されているが、こうしたアメリカの学生寮の取り組みから、寮の機能を見直し、新たな可能性が提言された点に意義があると考えられる。

参考文献

赤坂瑠以 (2010) 「アメリカの大学の学生寮視察調査：本学の学生寮への提案」『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学教育機構紀要—』1：49-55, 2010.

鈴木杏理・元岡展久・桂瑠以 (2012) 「女子大学学生寮における寮室と教養空間の構成」『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学教育機構紀要—』2：14-21, 2012.

2) アジアの学生寮

はじめに

近年、アジアの高等教育のグローバル化が進み、日本においてもグローバルに活躍できる人材の育成が求められている。お茶の水女子大学においても、2012年度から「グローバル人材育成推進事業」が始まり、国際的に活躍する女性リーダーの育成に取り組んでいる。

今年6月に発表された、英国の大学評価機関クアクアレリ・シモンズ(QS)の「アジア大学ランキング」では、1位は香港科技大学、2位はシンガポール国立大学、3位は香港大学であった。日本は8位の東京大学が最高位であった。上位5校のうち、3校が香港の大学であることから、香港がいかに優秀な学生を引き付けているかを窺うことができる。

本調査報告ではアジアの中でも特に評価の高い、シンガポールと香港の大学において、学生寮における取り組みをまとめ、寮生の入寮理由、寮内の交流及び寮内組織から、お茶大 SCC での取り組みの参考とする知見を得ることを目的とする。

本調査は2013年9月に行われ、シンガポールのシンガポール国立大学、南洋理工大学、中国・香港の香港大学の学生寮担当者による案内のもと行われた。

【シンガポール国立大学(National University of Singapore: NUS)】

シンガポールは東京23区程度の面積しかない無資源の国土に、378万人の国民が住む都市国家である。1997年にゴーン・チョクトン首相(当時)が打ち出した“東洋のボストン(Boston of the East)”演説が有名であるが、10%ほどであった留学生入学率を20%に引き上げ、同国をボストンのような世界の優秀人材が集う学術都市にするという国家ビジョンである。以後アジア各地で留学生セミナーを開催し、各国の学生や教員を短期研修でシンガポールに招待するなど、積極的に人材の招致に取り組んできた。この結果、2011年には同国の大学入学者における留学生の比率は18%を占め、教員は50-70%が海外からの招聘者となっている(池田,2012)。

シンガポール国立大学は1905年創立のシンガポールで最も歴史のある大学で、学部・大学院合わせて30,000人以上の学生を有する総合大学である。大学内には六つのHall(寮)のほか、Residential College、Student Residenceといった学部生、大学院生用の学生宿舎がある。また近年ではUniversity Town(U-Town)も建設されている。本視察調査では、学部生用の学生寮であるHallの内、「Temasek Hall」を訪問した。

・概要

Temasek HallはKent Ridge Campusに立地し、AからEの五つのブロックに、420部屋485名が入居している。男女比はほぼ同じで、階によって男女の居住スペースが分かれている。学年別では、1年生が40%、2~4年生は20%という割合になっている。学生の出身地は、シンガポール60%、留学生40%という割合になっている。これはシンガポール政府及び大学の方針で、留学生の受け入れを進めるとともに、シンガポール出身学生にもグローバルな経験を積むことを推進していることから、大学の国際化目標である「6:4」に倣っている。

寮費は、一人部屋 100SGD/週、二人部屋 70SGD/週である。1 学期は 12~13 週のため、840~1,300SGD になる (SGD : シンガポールドル。2014 年 2 月のレートで 1SGD ≒ 80 円)。5 月から 8 月の休暇中は、オリエンテーション等で寮内に残る学生を寮内の一つブロックに集め、空室を他の団体に貸し出している。寮内には大きな食堂があり、平日の朝食・夕食、土曜日の朝食、日曜の夕食が提供される。食費は寮費とは別に 1 日あたり 3.5SGD がかかる (図 1)。



図 1 : シンガポール国立大学 Temasek Hall の外観及び設備
(左上より、外観、中庭、花壇、食堂、トレーニング・ジム)

・入寮手続きと入寮理由

入寮に関しては寮内の学生組織である JCRC (Junior Common Room Committee) が選考を行う。申込はインターネットで受付、スポーツの大会に出場経験がある、出身高校、家庭事情等により JCRC が SCRC (Senior Common Room Committee) に推薦する形で行われる。JCRC が推薦した入寮希望者は、ほぼ承認される。後程触れるが、NUS の六つの Hall は、寮対抗のスポーツ大会がたいへん盛んであるため、スポーツの経験が重視される傾向にある。またスポーツをはじめとした寮のプログラムをよく理解した上で、入寮を希望しているかどうかを判断し、ミスマッチを防ぐ役割もしている。

シンガポール出身の学生のほとんどは自宅からの通学が可能な距離に住んでいる。このようなこともあり、「なぜ学生寮に入寮するのか」という疑問をホールマネージャーに尋ねると、「リーダーシップ・スポーツマンシップの経験を積む」、「家族の勧め」、「異なる価値観と出会うため」という理由が挙げられた。シンガポールでは住宅事情から、男性女性ともに結婚まで家族と同居することが多い。男性は大学入学前に兵役に入ることが多く、家族からの独立を経験するが、女性にはその機会がない。そのような背景もあり、家族が大学入学を機に、親離れを促すように入寮を進めることもある。以前は祖父母や「お手伝いさん」が週末になると寮に来て、居室内の掃除をする光景も見られたという。現在は入寮まで洗濯をしたことのない学生も入寮するが、掃除・洗濯は各自で行っている。

・寮内の交流と寮内組織

寮内の行事は週末に行われることが多く、寮対抗(Inter Hall Games)、寮内ブロック対抗のスポーツ大会、入寮初日のイニシエーションの意味合いを持つ行事、五つのブロックごとに食事を囲む「ブロックテーマナイト」、「Rag Day」(廃材を利用して山車を作りパレードを行う NUS の行事)、演劇、バンドコンサートといった寮を挙げての多彩なイベントが行われている。スポーツはサッカー、バスケットボール、水泳、陸上と多岐にわたり、17 種目の勝敗によりポイントが加算され、順位が決まる (図 2)。

後期の終わりには、寮生組織である JCRC の選挙が行われ、次年度の役員が決まる。JCRC の役職は President、Honorary General Secretary、Director(Social Affairs、Cultural、Sports、Finance、Operations、Special Products)があり、任期は 1 年間である。1 年以上在寮の 2～4 年生が立候補することができる。

SCRC は NUS の教員で構成され、1 名の Hall Master と 5 名の Resident Fellow が A～E のブロックをそれぞれ担当する。また 10 名の Hall Staff が事務的作業、警備、管理運営を行う。今回寮内を案内してくれた Hall Manager の男性は、マレーシア出身で NUS の学生のとときに、この寮の Hall Master でもある教授の研究室に所属していたことが縁で、現在寮の仕事をしている。

JCRC と SCRC は新学期が始まる前に、一緒にチームビルディングの研修を受け、カウンセリングの講習も受けている。寮内で人間関係の問題が発生した場合は、まずは当該学生の仲の良い友人に声をかけるように促し、SCRC は友人を介して本人をサポートする方法をとっている。そのためにも、JCRC は寮内の人間関係にも目を配りながら、孤立する学生がいないように気を付けている。また朝・夕の食事は、全員で一緒に食べることが望ましいとされているため、食事に現れない学生は何か問題を抱えている可能性があるというというサインにもなる。



図 2 : Temasek Hall 寮生組織及び寮内の交流の様子

(左上より、寮対抗スポーツ大会の表彰、SCRC 紹介、JCRC 紹介、各階のメンバー表)

【南洋理工大学 (Nanyang Technological University :NTU)】

南洋理工大学は 1991 年に設置され、学生数は約 30,000 人が在籍している。学内には 16 の学部生用の学生寮があり、現在あと 2 寮を新規に建設している。学生寮の規模は国内最大で、学部生 20,000 人のうち、約 9,000 人分の部屋を確保している。NTU は 2010 年第 1 回ユースオリンピックの競技会場として使われたことから、学生寮は選手村としても使われた。本視察調査では、ハウジングオフィスの学生寮担当職員による案内のもと行われた。

・概要

南洋理工大学の学生寮は一つの寮につき 500 人又は 652 人の定員で、男女比は学年によって差はあるが全体ではほぼ同じである。シンガポール出身者と留学生の割合もほぼ同じである。寮費は一人部屋約 300SGD/月、二人部屋は約 200SGD/月で、寮によってバス・トイレ・エアコンといった設備に差があることから、寮費もそれに伴い増減する。寮で提供される食事はないが、寮内にはキャンティーン(食堂)、また大学構内にもレストラン、売店がある(図3)。



図 3 : 南洋理工大学の学生寮の様子 (左上より、外観、食堂、談話室)

・入寮手続きと入寮理由

入寮に関しては、大学の学生課で一括して行われる。ポイントシステムをとっており、在寮期間は 1 年間で、次年度に在寮できるかどうかはポイントが高い人から決まる。ポイントを増やす方法はいくつかある。まず、寮のアクティビティ(行事)に参加する、寮内の委員会に所属する、留学生である、シンガポール出身でも大学から家が遠い、大学の部活に所属しているという場合は、ポイントが加算される。また二人部屋を希望する場合は、同部屋になる留学生とペアになり一緒に申込をすると、留学生支援をするという意味から優先される。ポイントは年度毎に計算され、ポイントの繰り越しはできない。満室になった場合は、**Waiting List** に掲載され、空室ができたポイントが高い順に入寮が決まる。

入寮理由は、大学が中心地から 1 時間程離れていることもあり、通学時間のことを考えてという者が多い。また親からの独立、友人と一緒に暮らせるからという者もいる。一つのホ

ールあたり、約 600 名の寮生のうち、3 分の 1 は寮内での積極的な活動を希望しており、3 分の 2 は大学への通学時間の短縮のため入寮しているという話である。

・寮内の交流と寮内組織

寮内の交流は、スポーツ（バスケットボール・バレーボール・スカッシュ・ラグビー・水泳・水球・陸上・テニス・サッカー等）が盛んな他に、ダーツや各種ボードゲームの同好会もあり、いずれも寮対抗で競い合っている。スポーツの同好会は一人につき一つまで登録が可能である。また各寮では、新入生オリエンテーションキャンプ、「Dinner & Dance」（季節ごとのパーティー）、「Hall Production」（演劇大会）といった誰でも参加ができるイベントが多数企画されている（図 4）。

寮生組織は JCRC が中心的な役割を担う。JCRC は各寮 20 名で構成され、1 年生から応募も可能であるが、そのようなケースは稀であるので、多くは 2 年生以上学生である。JCRC の役職は、President、Vice President、Business Manager、Financial Controller、Secretary (Sports、Social、Welfare、Cultural 等) がある。寮の卒業生の組織はなく、JCRC は年度ごとに記録を取り、それを後任に引き継いでいくようになっている。

また 5 名の大学教員が寮のフェローを務めている。任期は 3 年で、フェロー手当がつき、家族も一緒に住めること、構内には幼稚園もあることなどから、希望者は多い。問題が発生した場合は、日中は各寮にある事務室に、夜間はフェローに相談するようになっている。



図 4：南洋理工大学 寮内の交流の様子

（左より、Hall 12 の掲示版、Hall 13 の掲示版、寮内スポーツ大会の写真）

【香港大学 (The University of Hong Kong : HKU)】

香港大学は 1911 年に設置された、香港で最も歴史のある大学である。学生数は学部約 12,000 人、大学院約 12,000 人、合計 24,000 人で、学部生用には 13 寮 6,500 人分の部屋を確保している。13 寮のうち、2 寮が大学構内にあり、11 寮はキャンパス周辺に立地している。

学生の出身地は、中国本土からが半分を占め、留学生はアメリカ、カナダ、イギリス、韓国、オーストラリアと他のアジアの国々からの者も多い。1 学期には 1,500 人の新入寮生、2 学期には 300~400 人が短期留学で宿泊するため、寮生の入退寮は年間を通して流動的である。

本視察調査では、大学内の学生生活支援、キャリア支援の部署である、Centre of Development and Resources for Students (CEDERS)の学生寮担当者の案内のもと、構内に立地する「Simon K.Y. Lee Hall」を訪問した。

・概要

Simon K.Y. Lee Hallは1985年開寮し、学部生約300人が入居している。地上10階、地下3階、1-8階が住居部分、9階はランドリーとWarden（管理者）の住居、地下には寮内の活動で使用するスペースもある。各階に20部屋40人住むことが可能で、階によって男女が分かれている。新入生は2人部屋に入る。各階に1、2名のチューターの学生おり、大学院生が務めることが多い（図5）。

寮費は年間11,844HKD（HKD：香港ドル。2014年2月のレートで1HKD≒13円）で、食費は別である。6月上旬から8月上旬の夏季休暇中に宿泊を希望する場合は、宿泊日数に応じて別に寮費を支払う。



図5：香港大学 Simon K.Y. Lee Hall 外観及び寮内の様子

（左より、外観、各階の談話室、寮行事のタペストリー、エレベーター内の寮生活動の広告、寮生のメールボックス）

・入寮手続きと入寮理由

入寮はCEDARSが管理し、5月からオンラインで受付をする。申込の際は、基本的な情報の他に、希望の寮を三つ、健康状態、興味関心、趣味等を記入する。香港出身の学生については、通学時間と家庭の事情をポイント制にして、ポイントが高い者から入寮が決まる。

香港はシンガポール同様の住宅事情を抱えており、一般の住居は家賃が高いため学生が借りることは難しい。そのため大学近辺の空き物件を大学が買い取り、「Non-Hall Housing」として学生に住居を提供している。費用は寮費とほぼ同額で、寮生組織はないため、それらにかかる費用は含まれない。

・寮内の交流と寮生組織

シンガポールの学生寮と同様に、寮対抗のスポーツ大会は盛んである。入口の共有スペースや、寮内のエレベーターには各スポーツチームからのインフォメーションや、試合の結果が掲示されている。新入生を迎えるためのイベントやホームページも充実しており、三泊四日のオリエンテーションキャンプ、「Reg Day（Registration Day）」、寮内スポーツチームの勧誘、寮行事の紹介が行われる（図6）。

寮生組織は各寮にあり、Simon K. Y. Lee Hall では、LHSA (The Simon K. Y. Lee Hall Students' Association) と呼ばれる。役職は、Chairperson、Internal Vice-Chairperson、External Vice-Chairperson、General Secretary (General, Financial, Acting Welfare, Social Secretary、Sports 等)があり、寮生内の選挙によって決められる。寮の運営は大学の教員が務める学生監(Dean of student Affairs)のもと行われ、寮管理人、ホールマネージャー及びチューターが支える。



図.6：香港大学 Simon K. Y. Lee Hall 寮入口の掲示
 (左より、新入生オリエンテーションキャンプ案内、寮対抗水泳大会の告知、寮対抗試合の結果)

シンガポール・香港の学生寮と日本の学生寮を比較して

三つの大学の学生寮の視察から学生寮の運営の特徴を挙げ、本学の学生寮運営における課題について考察する。

まず、入寮理由については、大学に近いという利便性を考えての理由もあるが、家族からの独立を経験する機会と捉えていることが挙げられる。これはシンガポールと香港と日本は住宅事情も共通しており、大学通学圏内に自宅がある場合は、就職、結婚まで独立の機会がない場合もある。地方出身の SCC の寮生は入寮した理由を、「一人暮らしの経験はいつでもできるが、寮生活は大学の時のみである」と語っているが、大学通学圏内の学生にも浸透していくことはなかなか難しい。近年日本において、大学生の親への依存傾向が増していることが問題と取り上げられることも多いが、学生寮経験が自律を学ぶよい機会となるのではないかと考えられる。

次に、寮内の交流については、寮生組織を中心に進められている。役職は選挙で決まり、役職に就くことは名誉とされる。学生たちは、多岐にわたる寮対抗のスポーツ大会、演劇、ダンス、パーティーといった寮独自の行事に参加することで、帰属意識を高めている。日本の大学生がいわゆる「(インカレ) サークル」に参加するのに対して、シンガポール・香港では寮のスポーツチームや寮でのイベントに参加することで、学生同士の交流が生まれている。

寮内の交流が活発になる仕掛けとして、大学側も寮の活動に積極的な学生かどうかを判断し、入寮者を決めている。NUS の Temasek Hall は学生が入寮選考を行い、自分たちの寮の活動に合った寮生を入寮させている。NTU は大学の学生寮担当部署が、入寮・在寮の継続についてポイント制にして、その中に寮の活動に積極的かどうかということでポイントの加算がされている。また NUS の中には、大学の成績が一定基準から下がったら在寮ができないという場合もあり、寮ごとに独自の基準をもつ。SCC では現在、寮の活動に積極的かどうかという基準では入寮を決めていない。事前に学生支援プログラムについてよく理解しているこ

とを望んではあるが、入寮前に実際に寮内での活動の様子を見る機会は、非常に少ない。入寮希望者への情報発信として、ウェブサイトの更新、オープンキャンパス等の行事での学生寮の紹介といった広報部門を強化することで、寮の理念を理解し入寮することが期待される。

SCC の特徴の一つは、「ルームシェア型」のハウス制をとっていることにある。NTU の学生寮担当者は、シンガポールではルームシェアのように少人数でキッチンやトイレを共有する場合、清潔な状態を保つのは難しいので、学生寮では難しいと話していた。今回の視察でも公共スペースの清掃は、専門のスタッフが行っていた。日本では学校教育の中で「掃除」の時間を設けていることが多く、公共スペースを掃除することの違和感がなく、学生寮においても当番制で掃除をすることに抵抗が少ない。実際に留学生との混住型の日本の学生寮では、留学生がキッチンやトイレの掃除を自分でしたことがなく、留学生に対して掃除をすることへの意識の変化を求めることがあるという。このことからハウス内の公共スペースの清掃を寮生が行うというのは、日本の学生寮の特徴の一つであると再認識することができる。

おわりに

シンガポール・香港・日本と学生寮の規模は異なるが、寮内の交流を活発にするしくみについては参考にできる部分も多い。SCC は定員が 50 名、学部 1、2 年生を対象にしていることから、小規模であるからこそ全員にリーダーとなるチャンスがあり、一人一人が果たす役割は大きい。また海外への視察を通して、日本の学生寮もまた独自の発展をしてきたことがわかる。

SCC は開寮 3 年目であるため、現在はまだ寮の礎を築いている途中でもある。寮の将来に向けて、寮生組織や寮内の行事がよりよく発展するよう意見を出し合うことは、この時期だからこそできる経験であるということを、寮生ともに共有していきたいと考えている。

参考文献

池田充裕、「第 4 章 シンガポール—世界の頂点を目指す自治大学化と米中を結ぶ新大学の誕生—」, 北村友人・杉村美紀共著, 激動するアジア大学改革—グローバル人材を育成するために, 上智大学出版, 2012, p65-81

4. 大学独自奨学金制度の整備

(1) 本学の独自奨学金の整備状況

学部から大学院までの大学独自奨学金制度の整備				
(1) 学部				
対象	学部1・2年生	学部3年生		学部4年生
奨学金	みがかずば奨学金【予約型】	学部生成績優秀者奨学金	桜蔭会奨学金	(学生表彰)
内容	・成績優秀で本学に強く進学を志望 ・大学進学において経済的支援が必要な者 ・毎年25人、1・2年次に各30万円を給付	・1・2年次の成績、人物が特に優秀な者 ・毎年25人、各20万円を給付	・学業・人物共に奨学金を受けるのに適当と思われる者 ・毎年4人、各10万円を給付	(成績優秀者を表彰)
財源	後援会、同窓会(桜蔭会)からの寄附金および学生納付金	学生納付金	同窓会(桜蔭会)が実施	
備考	平成23年度新設	平成23年度新設		

学部から大学院までの大学独自奨学金制度の整備			
(2) 大学院			
対象	博士前期課程1・2年生	博士後期課程1・2・3年生	博士前期課程1・2年生、博士後期課程1・2・3年生
奨学金	桜蔭会研究奨励賞【予約型】	大学院博士後期課程研究奨励賞【予約型】	大学院生修学奨学金
内容	・学内進学者、学業、人物ともに優れた者 ・毎年20人、1・2年次に各10万円を給付	・学内進学者、学業、人物ともに優れた者 ・毎年10人、1・2・3年次に各20万円を給付	・学業成績優秀かつ将来が嘱望され、大学院進学に経済的支援が必要な者 ・寄附者が指定する課程在籍者又は教員の職を目指す者 ・1人100万円を給付
財源	同窓会(桜蔭会)からの寄附金および学生納付金	寄附金	寄附金
備考	平成25年度拡充	平成25年度新設	

(2) シンポジウム「大学独自奨学金の行方 ―学生のニードと大学の戦略―」

概要

開催日時：平成 25 年 11 月 27 日（水）14：00～16：30

開催場所：お茶の水女子大学 共通講義棟 2 号館 102 室

主 催：お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

文部科学省 特別経費プロジェクト

『統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証』

後 援：独立行政法人 日本学生支援機構

趣旨および内容

経済協力開発機構(OECD)の調査によれば、日本の国内総生産(GDP)に占める教育機関への公的支出の割合は、比較可能な加盟国 30 カ国中最下位だという（最下位は 4 年連続）。教育費が家計に及ぼす影響は大きく、厳しい経済状況を背景にして、奨学金制度利用者が年々増加する中、独自の奨学金制度を新設、拡充する大学も増えている。そこには、学生側のいかなるニードがあり、大学側のいかなる戦略があるのだろうか。

本シンポジウムでは、有識者による講演や話題提供とともに、入学前予約給付型奨学金制度を独自に展開している大学の事例を紹介していく。本制度は、学費計画を立てやすく、家計の負担軽減にもつながるため、受験生側にとって心強い仕組みとして、近年、着目されている奨学金制度である。

本シンポジウムでは、最初に本学羽入佐和子学長から開会挨拶の後、東京大学大学総合教育研究センター小林雅之教授から基調講演「学生支援の在り方をめぐって ～現状と課題～」が行われた。

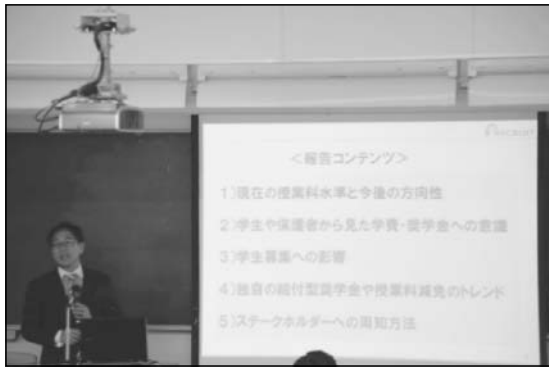


羽入学長挨拶



小林教授による基調講演

また、リクルート「カレッジマネジメント」の小林浩編集長から「ステークホルダーを見据えた奨学金戦略～学長調査から見たこと～」の話題提供があり、続いて入学前予約給付型奨学金制度を 3 年以上実施している新潟大学（泉井学務部長）、早稲田大学（鈴木奨学課長）、お茶の水女子大学（作田学生支援室長）から事例紹介が行われた。



小林氏による話題提供



泉井氏による事例紹介



鈴木氏による事例紹介



作田教授による事例紹介

参加者からは今後の大学独自奨学金制度の発展につながる活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに閉会した。



質疑応答

シンポジウム

大学独自奨学金の行方

～学生のニードと大学の戦略～

基調講演

「学生支援の在り方をめぐって ～現状と課題～」

小林 雅之 氏(東京大学 大学総合教育研究センター 教授)

話題提供

「ステークホルダーを見据えた奨学金戦略～学長調査から見たこと～」

小林 浩 氏(リクルート「カレッジマネジメント」編集長)

事例紹介

・新潟大学「輝け未来！新潟大学入学応援奨学金」～今後の展望と課題～

泉井 光春 氏(新潟大学 学務部長)

・早稲田大学「めざせ！都の西北奨学金～今後の展望と課題～」

鈴木 勉 氏(早稲田大学 学生部 奨学課長)

・お茶の水女子大学「“みがかずば”奨学金の目的・現状・課題」

作田 正明 氏(お茶の水女子大学 学生支援室長)

2013年 **11月27日(水)**

14:00～16:30

お茶の水女子大学

(共通講義棟2号館101室)

参加費 無料(申込制)

対象 大学等の教職員

主催

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
文部科学省 特別経費プロジェクト
『統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証』



参加申込方法 申込期限 11月15日(金)

氏名・所属・職名・連絡先を明記の上、下記までメールまたはFAXでお申込みください。FAXの場合は、別添申込書をご利用ください。

後援

独立行政法人日本学生支援機構



問合せ先

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援チーム
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 学生センター棟2F
TEL 03-5978-2646 FAX 03-5978-5894
MAIL scholarship-sympo@cc.ocha.ac.jp

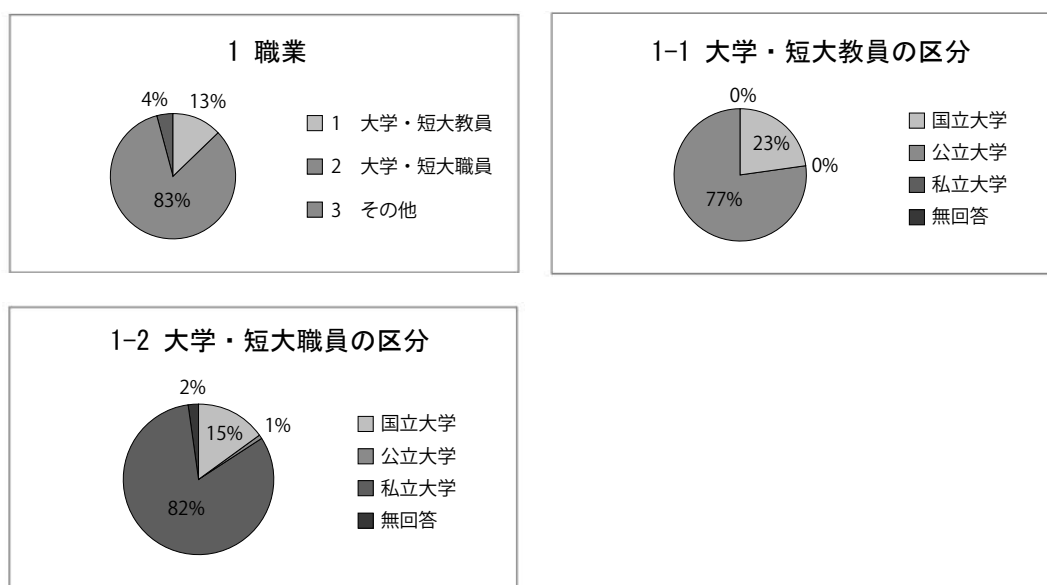


本シンポジウムのプログラム(案内ポスター)

課題と展望

近年、奨学金制度利用者が増加しており、独自奨学金制度の新設や拡充をすすめる大学も増えている。本シンポジウムでは、その背景にある学生側のニーズと大学側の戦略について、マクロな視点からの有識者による講演と話題提供のほか、高等教育機会保証につながり得る入学前予約給付型の奨学金制度を先進的に進める大学の事例を紹介し、今後の大学独自奨学金制度の発展につなげることをねらいとし、全国の国公立大学等 72 大学から 104 名の参加者（関係者等を含め 117 名）にお集まりいただいた。

参加者の職業、区分は以下のとおりである。



参加者アンケートによれば、基調講演、話題提供、各大学の事例報告すべてにおいて、参考になったとの声（「大いに参考になった」＋「参考になった」の回答）が 96%を超えており、多くの参加者から好評であったことが示されている。

自由記述回答からも「非常に有意義なシンポジウムでした」「時間の経過が早く感じるシンポジウムでした」「奨学金の財源など、パンフレットではわからない部分がきけまして、有意義でした」「大学の戦略として、奨学金をわかりやすく PR することの位置づけや意義がわかり、よかった」「今後、新規の奨学金制度を導入するにあたり、3 大学の具体的な事例を知ることができ、大変参考になりました」「日々の業務に追われ、学生や生徒が希望する経済支援について分析できていなかったことを実感できたため、今後の制度設計に今回の情報を活用させてほしい」「今後、大学独自の奨学金についての課題の改善について役立てていきたい」といったコメントが寄せられ、「今回のような奨学金に関わるシンポジウムは、今後とも是非定期的に開催していただきたい」といった要望も少なからずいただいた。

シンポジウム終了後にも、各講演者に対する質疑が長時間にわたって繰り広げられ、参加者個々のおかれている状況のやりとりも行いながら、情報交換が活発に行われている様子が見られた。これまで決して盛んであったとはいえ「奨学金制度に関わる担当者間でのネットワーク作り」という点からも、本シンポジウムの果たした意義は大きいといえよう。

(3) みがかずば奨学金制度に関する調査

1) 高等学校に対する調査

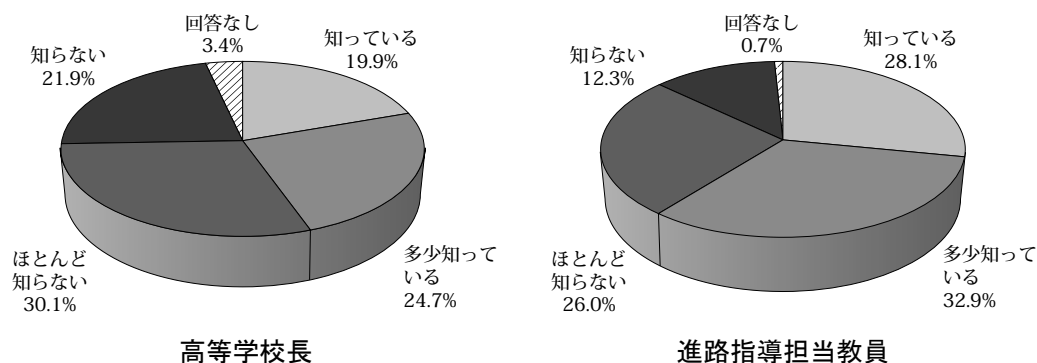
調査の概要

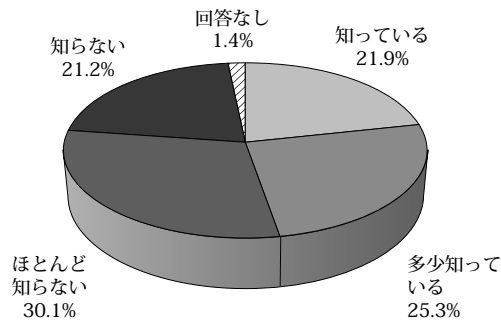
本調査では、みがかずば奨学金制度の意義と課題を明らかにするために、受験生を送り出す側である高等学校に対して、以下の調査を実施した。

- ・調査時期：2010年10月下旬から11月中旬
- ・調査対象：募集要項・ポスターを送付した高等学校（志願者1名以上の高等学校）427校
うち、返送のあった有効回答数は146校（有効回答率34.2%）。
設置者による内訳は、国立4校、公立95校、私立46校、不明1校。
- ・調査方法：高等学校長あてにアンケート調査用紙および募集要項（見本印つき）を郵送。
受取人払い用の返送用封筒での返送を依頼。
- ・調査項目：以下の五つの項目を調査項目として設定した。
 - ・高等学校長・進路指導担当教員・受験学年担当教員の認知状況
 - ・申請希望者の有無
 - ・問い合わせの有無
 - ・募集条件について意見。
特に、「家計支持者の収入制限」「申請期間」「各校の推薦者数」に着目して尋ねることとした。
 - ・本制度全般に関する意見・要望

調査の結果

高等学校長・進路指導担当教員・受験学年担当教員の認知状況



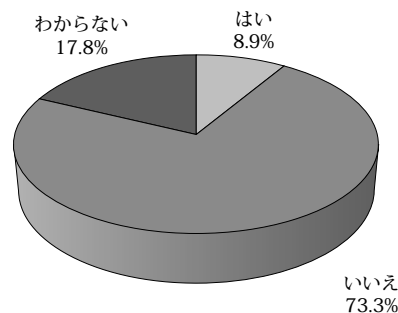


受験学年担当教員

それぞれの認知率（「知っている」＋「多少知っている」）は、進路指導担当教員では6割を超えているものの、受験学年担当教員および高等学校長では半数にも満たない。

認知率が他に比べれば高い進路指導担当教員でも、「知らない」との回答が1割を超えている。「知らない」と回答した高等学校には、設置者による傾向は示されなかった。

申請希望者の有無



申請希望者の有無

本制度への希望者がいた高等学校は1割程度に過ぎない。本制度への希望者がいた高等学校には、希望者の数についても尋ねた結果、「2名」が1校、「1名」が12校（うち1校は成績基準に満たず辞退）という回答を得た。

これに対し、本制度への希望者がいなかった高等学校は、7割を超えている。本制度への希望者がいなかった高等学校には、希望者がいない理由についての回答者の考えについても、自由記述回答形式で求めた。その結果、高等学校側から得られた回答からは、以下の傾向がみられた。

第一は、「申請期間の問題」である。「貴大の入試難易度が高く、〆切時点で貴学への志望が確定した生徒がいなかったためと思われます」「生徒と保護者両方が納得するには申請時期が早い」「そもそもポスター掲示の期間を短かったので、生徒もじっくり考えられなかった」など、本制度の申請期間（申請時期の早さや短さなど）に関する問題を挙げる回答はもっとも多くみられた。

第二は、「入学希望者の少なさ」である。「入学希望者が少数であった」のみならず、「入学

希望者がいなかった」といった回答も少なからずみられた。本論で行った調査では、「志願者が1名以上」の高等学校を対象としたため、すべての調査対象校が、本学の志願者が毎年いるような高等学校とは限らない。そのため、こうした回答も少なからず得られたものと思われる。

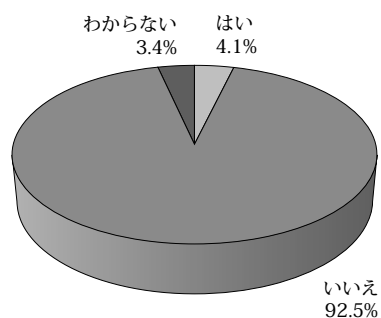
第三は、「本制度の周知・広報不足」である。そもそも本制度が生徒や保護者に周知されていないといった回答は少なからずみられた。その内容に具体的に目を向けると、「十分に広報されてなかった」「パンフレットが届かなかったため周知されなかった」といった大学側の問題と、「掲示はしてあったが、周知されなかった」「志願者はいたが、教員が制度を知らなかったために勧めることができなかった」「本制度を学年担当者が知らなかったため、生徒へ伝わらなかった」「情報がまわってこず、誰も知らなかった」といった高等学校側の問題が挙げられていた。先に、設置者にかかわらず、進路指導担当教員でさえ「知らない」との回答が1割を超えていることを示したが、その要因としては、「本制度の周知・広報不足」が大きいものと思われる。

第四は、「基準の厳しさ」である。「志望者で申請資格に合う生徒がいなかった」「成績面で該当する生徒がいなかった」「志望者の世帯収入が比較的高かった」など、申請する際の成績や経済面での基準の厳しさを挙げる回答もみられた。

第五は、「入学希望者には不必要」である。「志望する生徒が経済的に困窮していなかったため」など、各高等学校での本学入学希望者にとっては、本制度が不必要だとする回答もみられた。また、「比較的裕福な家庭が多く、そのような家庭の子どもほど学力的にも高い」との意見も寄せられている。

第六は、「合格への不安」である。そもそも、入試に合格できるのかについて生徒が不安視し、「合格が大変難しいので、志望をためらっているかもしれない」といった回答もみられた。また、ほかの奨学金制度との兼ね合いで、「みがかずば奨学金の予約が取れたとしても、貴大学へ入学することができなければ奨学金を受け取ることができなくなりますので、全国どこの大学に入学しても給付できる日本学生支援機構の奨学金を選択したものと思われる」といった意見も寄せられている。

問い合わせの有無



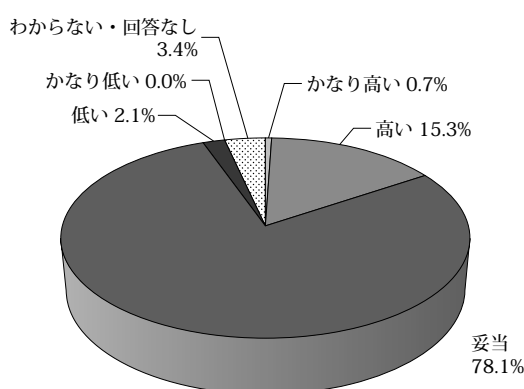
問い合わせの有無

本制度への問い合わせがあった高等学校は 4.1%に過ぎない。本制度への問い合わせがあった高等学校には、問い合わせ内容についても自由記述回答形式にて求めた結果、「どのような奨学金制度なのか」「申請資格について」といった回答がみられた。

募集条件についての意見

募集条件について、本制度同様に予約給付型の奨学金制度を導入している主な大学（新潟大学、早稲田大学、創価大学、愛知大学）がホームページや募集要項で公表しているものを参照として示したうえで、本制度の募集条件として、家計支持者の収入制限・申請期間の時期・各校の推薦者数について尋ね、高等学校側から以下の回答を得た。

家計支持者の収入制限



家計支持者の収入制限の設定金額

本制度の「申請資格」とする家計支持者の収入の設定金額については、「妥当」と回答した高等学校が 78.1%と、およそ 8 割にも及んでいる。

さらに、「妥当」と回答した理由について、自由記述回答形式にて求めた結果、「他大学の基準と比較して妥当」「本校在学の生徒の家庭の収入からして妥当」「貴学受験者にとっては妥当」「日本学生支援機構の奨学金を申し込んだ生徒の家計と比較して妥当」「昨今の経済状況を考えると妥当」といった回答がみられた。

さらには、「この金額設定だと、幅広い生徒が対象になると思うから」のように、対象者が広がるという点からみて「望ましい」といった評価が含意されている回答も少なからずみられた。

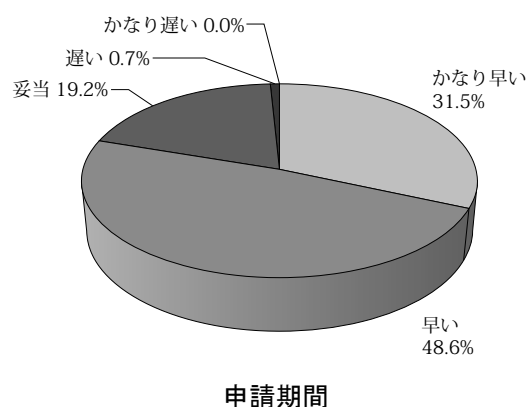
その一方で、「かなり高い」「高い」と回答した高等学校も 16.0%みられた。それは、「かなり低い」「低い」と回答した高等学校（合わせて 2.1%）に比べると明らかに多い結果である。

「かなり高い」「高い」と回答した理由について、自由記述回答形式にて求めた結果からは、「家計支持者だけの収入であれば多い」「現在の社会状況を考えて（年収 400 万円以下の最も多い世帯水準に合わせるべきだから）」「給与所得者はもう少し下げた方が、社会的な公平の観点から妥当である」「高校授業料無償化に伴う『加算支給請求』の実態から低所得世帯の増加が感じられるため」「地方出身者のことを考えると、もう少し金額を下げてもいいのでは」

といった回答がみられ、本制度が、経済的に困窮した生徒への支援を第一義的に考えた金額設定なのかを疑問視する意見が寄せられている。

これに対し、「低い」と回答した理由については、申請者の家庭の事情、具体的には「自宅外通学」「兄弟姉妹の人数」「姉の他大学への進学」「要介護者の同居」などを考慮すべきとの意見がみられた。

申請期間の時期



本制度の「申請期間」の時期については、「妥当」とする回答も2割程度あったものの(19.2%)、「かなり早い」31.5%、「早い」48.6%に及んでいることから、8割以上の高等学校で本制度の「申請期間」の時期が早いと感じている。また、先に示したように、本制度への希望者がみられなかった要因として寄せられた回答傾向からも、「申請期間」の再検討は、本制度の大きな課題であると思われる。

「かなり早い」「早い」と回答した理由について、自由記述回答形式で求めた結果からは、「現役生は志望校を最終決定していない」「夏季休業中は生徒との連絡がつきにくい」「調査書が完成していない」といった回答がみられた。

中でも多くみられたのは、「現役生は志望校を最終決定していない」というものである。この点については、現役生の志望校選択・決定の時期に具体的に言及している回答が以下のようになされた。いずれの回答からも、本制度の「申請期間」とした8月1日～8月20日が、その時期よりも早期であることがわかる。

- ・進路についての三者面談が8月下旬に行われるため。
- ・最終的に進路を決定するのは、2学期に入ってからだから。
- ・目標大学がはっきりするのは秋以降であるから。
- ・現役生の志望大学の多くが秋以降に決まるから。
- ・進路先決定が概ね10月ごろであるため。
- ・本校では10月ぐらいに志望が固まってくるから。
- ・10月にならないと生徒自身の志望大学が固まらない。
- ・志望大学を固めるのは10～11月頃なので。

- ・最終的に志望校が確定するのが、秋～冬のため。
- ・志望校を固める時期は秋～冬であり、生徒・家庭も申請を具体化するのには早すぎる。
- ・受験を決断するのは11月ごろであるから。
- ・最終決定は早くても9、10月の三者面談を過ぎてから、またはセンター試験の自己採点が終わってからであるから。
- ・進路先が本当に決定できるのはセンター試験後の自己採点が終わってからだから。
- ・国立大学の場合、志願が確定するのはセンター試験以降となるので。
- ・受験校の決定は1月、進路先の決定は3月なので。

さらには、本制度の「申請時期」として、具体的な意見も得ることができた。

- ・9月上旬までの申請期間であれば望ましい。
- ・夏休み中に検討させて、9月から申し込みを開始すればいいのではないかと。
- ・夏休みなので、締め切りを9月初旬くらいにして頂けると、生徒とも連絡が付きやすい。
- ・2学期（9月1日以降）が始まってからにしてほしい。
- ・9月くらいにしてもらうと、模試結果から判断できる。
- ・夏休み期間に志望大学を決める生徒もいるので、9月ごろにして頂けると良い。
- ・夏の段階では志望大学は確定していないケースが多く、1ヶ月遅らせて頂けると利用しやすいと思う。
- ・2学期に志望が固まってくるので、9～10月の申請期間にしてもらった方がいい。
- ・2学期がいいと思う、進路について深く考える時期になるから。
- ・夏休みの三者面談で進路が確定する頃であるので、奨学金までは手が回らないのでは。周知期間7～9月、申請期間10～11月が良いのではないかと。
- ・夏休み後の10月の申請であれば、夏休み中の進路指導期間も使って、個人的にも進めることができると思う。
- ・本格的な進路指導が始まるのは11月以降であるので、せめて10月？
- ・せめて10月下旬～11月上旬の申請にして頂きたい。推薦会議が10月下旬のため。
- ・早くから学力のある生徒にとっては従来の申請期間で大丈夫ですが、秋以降に志望校決定をする生徒が多いので、10～11月くらいまで伸ばして下さるといい。
- ・まだ進路を決定していない時期、11月以降が妥当ではないかと。
- ・業者模試の判定が出そろった11月下旬の方がいいのでは。

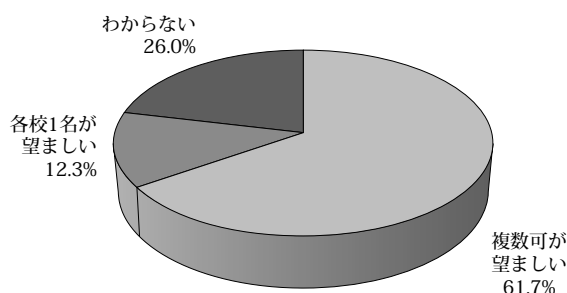
他方、「妥当」との回答も19.2%の高等学校から得られた。その理由としては、「入学を強く希望する者は奨学金制度が内定すれば、勉学意欲も増すから」「該当する場合、早くから志望校を決めている生徒が多い大学であるから」「この時期に志望が確定している生徒が望ましい（意欲を感じる）」など、この時期を「申請期間」とする本制度が、高校生の意欲向上のために有益であるとの回答もみられた。

また、「受験校の選択がほぼ固まる時期」との回答も複数校から得ることができた。先に示した回答とも考え合わせ、「高等学校により異なる志望校選択・決定の時期を、本制度の申請

期間を設定する際に、いかに考慮していくのか」といった点は、次年度以降の本制度の重要な検討課題になるものと思われる。

各校の推薦者数

本制度で明示している「学校長推薦は高等学校又は中等教育学校 1 名」という各校の推薦者数について、高等学校側はどのように感じているのだろうか。



各校からの推薦者数

「わからない」との回答も全体の 1/4 以上の 26.0% でみられたものの、「複数名でも可」が望ましい」との回答が 6 割以上 (61.7%) に及んでおり、「各校 1 名」が望ましい」との回答 (12.3%) に比べて明らかに多いことがわかる。

さらに、「複数名でも可」が望ましい」と回答した理由について、自由記述回答形式にて求めた結果、以下の傾向がみられた。

第一は、「校内選考の困難さ」である。もっとも多くみられた回答であり、寄せられた回答からは、家庭の経済状況を視野に入れて、高等学校内で 1 名を選考することの困難さを挙げるものが目立っていた。この点は、本制度の重要な検討課題になるとと思われるため、得られた回答についても、具体的にいくつかの例を示しておくこととする。

- ・校内で選考するような性質ではないと思うから。
- ・人数制限がある場合、決定する基準（校内）が難しい。
- ・貴大学を受験する生徒の成績に大差なく、判断しにくい。
- ・校内選考の際の学力、人物、収入条件を総合的に判断するのがいつも悩ましいので
- ・選考が難しい、生徒の個々の状況に差があり、順位にはならないと考える。
- ・経済状況は世帯人数によってそれぞれ変わってくる。各校で複数人になった場合、選考するのが難しい
- ・選考の手間をなくしてほしい。
- ・高校で選考をするのは難しい。選考をする前提の場合は、申請締め切り 2 か月前には要項が届いてほしい。
- ・合否が不明な段階での校内選考は避けたい。

こうした回答とともに、「希望者が複数いた場合に、高等学校側で絞り込むのではなくて、大学の判断にゆだねたい」といった、選考の裁量権を大学に求める意見が複数校から寄せられた。

第二は、「奨学金を希望する生徒の増加」である。「奨学金を志望する生徒が増えているから」「経済的に厳しい家庭が増えているから」といった回答も少なからずみられ、「昨今の経済状況を考えると、他大学への奨学金申請をする生徒も多く、複数名の方が対応できると考える」との意見もみられた。さらには、「優秀だが家計の苦しい生徒が多くなってきている」「優秀で奨学金を必要としている生徒には門戸を広げるべきであるから」との回答もあり、高学力層に対する支援の必要性も挙げられている。

第三は、「機会の拡大（公平性）」である。先にも、高等学校内で1名を選考することの困難さを挙げる回答の多さを示したが、その背景には、「チャンスだけはなるべく多くの生徒に与えた方がいいから」「複数の志望者がいる場合に、チャンスは平等に与えたいから」「機会を広げるためにも高校で判断したくない」といった「機会の拡大」や、「成績、家庭の経済状況との総合的な判断が難しい場合、該当者、希望者には公平に皆に申し込みさせたいので」「1名に限定しないで応募した生徒の中で最もふさわしい生徒を選ぶ方が公平だと思うから」といった「公平性」の点から、入学を強く希望するものであれば、各校からの推薦者数は複数名でも構わないのではとする意見も少なからずみられた。

第四は、「状況の違いへの対応」である。寄せられた回答からは、「学年、年度により状況は異なるので」「困窮者が各校1名とは限らないので」といった、申請条件にあう生徒が複数人いる場合を懸念する回答が少なからずみられ、「各家庭の事情は様々で、各校1名の割り振りでは意味がないので」といった意見も寄せられた。特に、「地域」の事情を挙げる回答が目立ち、「経済的に苦しい地域では複数人の必要性があると思う」「地域によって経済状況に偏りがある可能性があるので、申請基準を満たせば複数人でも構わない」「地域や各学校によって事情が異なる中で一律1名はかえって不公平になるような気がする」といった回答もみられた。

以上のように、その主旨から考えて、「奨学金の主旨からすれば、各校1名でなくてもいいから」「経済的な支援を必要とする人を多く支援するべきだから」「募集の主旨、申請資格からすると、1校あたり的人数を制限する必然性があるとは思えないから」といった回答は多く寄せられており、この点は本制度の検討すべき根本的な課題でもある。

これに対し、「各校1名」が望ましい」との回答は12.3%であった。先に「複数名でも可」が望ましい」との回答には、校内選考の困難さを挙げるものが多くみられたと述べたが、逆に「高校側で選考するほうが、妥当な生徒が選ばれるから」との回答も、「各校1名」が望ましい」と回答した理由として挙げられていた。

他にも、「本校の志望状況からして妥当な人数である」「推薦書等の必要書類をそろえる担任業務を増やしたくないので」といった高等学校側の状況による回答や、「女子大としてはトップなので、誰でもというわけにはいかないと考える」「本当に優秀な生徒のみ推薦されるという意識を生徒にうえつけるため」といった本学の状況をふまえての回答や、「できるだけ多

くの高校にチャンスを与えたい」「広く多くの高校から選ばれるのが望ましい」「全国的な制度としての公平性を保つため」といったマクロな視点からの回答もみられた。

本制度全般に関する意見・要望

最後に、本制度全般に関する意見・要望を自由記述回答形式にて求めた。その結果、以下のように、本制度を支持する回答を多数得ることができた。

- ・公立で様々な経済状況の家庭が多いが、ここ 2～3 年、各種奨学金の申請が増えており、経済状況の厳しい家庭が増えている。本制度を充実させるのはいいことである。
- ・多くの私大が同じような制度を積極的に取り入れる状況において、国立での実施は歓迎されます。
- ・今後、この種の支援を必要とする生徒が増えてくると思われます。将来的にも継続して頂けると幸いです。
- ・大学でこのような制度を積極的に運用されていることに敬服いたします。
- ・本奨学金制度はありがたい、生徒の目的意識向上にもつながるので。
- ・大変有り難い制度なので、継続して頂きたい。
- ・素晴らしい制度だと思うので、頑張ってください。
- ・企画が斬新でいい、今後他大学に広がっていく可能性があると思う。
- ・丁寧な案内やアンケート調査等、高校の実態をふまえての制度作りを目指していただきたいと思う。
- ・努力している生徒が安心して学びに集中できることはとても貴重なことと考えます。

こうした回答からは、本制度が、経済的な支援として、また、高校生学習意欲や進学意識の向上支援として、意義のあるものといえるだろう。その一方で、これまでに示したものの以外にも、以下のような回答が寄せられている。

- ・入学後の支給決定でもいいのではないかと。日本学生支援機構の月 10 万円と比べても額が少額ではないか。
- ・給付が 2 年間となっているが、生徒の学習状況や経済状況を審査して、断続することもあっていいのではないかと。
- ・奨学金の算定には収入状況がわかるものでいいはずで、そのほかは入試で判断すれば良いと思う。
- ・主旨はすばらしいと思いますので、貴学への志望が高く、実力も高い生徒には進めたと思いますが、そこまで達していない生徒には書類の準備が負担になると思う。
- ・合格を確約するものではない制度であるならば、生徒への作文、推薦状が少々多すぎる。
- ・採用枠を増やして、周知して頂きたい。

他にも、本制度に限らず、予約型奨学金制度への意見や課題も寄せられている。

- ・合格するかわからないので、予約型奨学金は利用が難しい制度である。
- ・入学決定者に奨学金を出したらどうか。

- ・合格以前に又は合格とは別に、内定者を決めるのは、受験生にとって精神的な負担となる場合があるように思われる。

課題と展望

本制度は、事前に受給の可否が分かり、返済の必要もないことから、金銭的負担や将来への不安を軽減できるという利点があるが、高等学校側からもこうした制度を支持する意見が多くみられた。さらに本制度は、高校生の学習意欲や進学意識の向上にも意義があることが、高等学校側の回答からうかがえた。

その一方で、本制度の課題も浮き彫りになった。本制度をさらに有益なものとするためにも、以下の点を検討していくことが求められるだろう。

第一に、「申請時期」についてである。この点については、早々の検討・改善を行う必要があると思われる。本論の知見に基づき、現役生の志望校選択・決定の時期をふまえれば、本制度の今年度の申請期間は明らかに早期であるといえよう。しかしその一方で、本制度は、一般入試（前期・後期）、AO入試、推薦入試の選抜試験出願予定者を対象とするものであり、その中でもっとも早期に行われるAO入試の選考時期も考慮に入れることが求められている。こうした事情も考慮しつつ、申請期間についての検討・改善を早々に行うことが必要である。

第二に、「各校からの推薦者数」についてである。高等学校側の回答からは、本制度の現在の条件とは異なり、「複数名でも可」とすることを望む声が多くみられた。その理由としては、「校内選考の困難さ」を挙げるものが目立っており、選考の裁量権を大学に求める意見もみられた。しかしその一方で、「わからない」との回答も少なからずみられ、また、選考の裁量権を高等学校側がもつことを支持する回答もあったことから、この点については、引き続き、高等学校側の意見をヒアリングし、また、実際の申請・出願・可否の状況等もみながら、今後も検討課題としていくことが望ましいと思われる。

第三に、「収入制限」についてである。他の同様の奨学金制度に比べると、本制度の「申請資格」とする家計支持者の収入の設定金額は高めに設定されているが、本論の知見からは、本制度の設定金額は「妥当」であり、その設定が他に比べて高めであることは、対象者が広がるという点からみて「望ましい」といった評価を得ていることもわかった。そのため、早々の改善を行う必要性は低いと思われるが、収入を考慮する対象者、設定金額、他の考慮項目などについて、社会状況や他の奨学金制度の条件等をふまえながら検討を続けていく必要があるだろう。

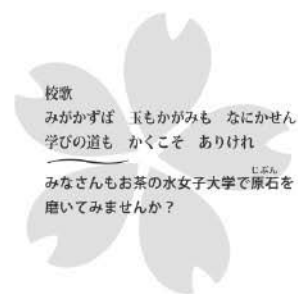
第四に、「周知・広報の促進」についてである。本制度の内容の検討・改善を推し進めるとともに、その周知・広報についても、早々に検討・改善を行う必要があるものと思われる。学内の入試や広報を担う部署との連携を強めるなどして、まずは、大学側からの情報発信を積極的かつ直接的に行うことが急務である。

入学金や授業料を免除する制度や、奨学金を支給する制度が充実している大学であることは、近年、受験生側が大学を選ぶ基準の一つとなっているだろう。予約型奨学金制度が、多くの受験生にとって有益であることは、本論の知見からも明らかである。他方、少子化が進

む中で、早期からより多くの受験者を囲い込みたいとの思惑が多く大学の側にはあるため、予約型奨学金制度は、大学側にとってのメリットもあるといわれている。優秀な学生を早期から確保しておきたいという思いは、国公立大学でも同様である。予約型奨学金制度を新設する大学は、その設置者を問わず、今後ますます増えていくものと思われる。

本制度は平成 23 年度入学者を対象に新設された制度であり、実際の申請・出願・可否等の状況をみながら、今後も検討を重ねていくことが不可欠である。また、本制度に限らず、予約型奨学金制度は新しい制度であるため、他の大学の状況についてもヒアリング調査等を行い、予約型奨学金制度自体についても、そのあり方や課題を検討していくことが求められるだろう。本制度を含め、予約型奨学金制度を、真に有益なものとするために、本論の知見をいかし、継続的に検討を加えていきたいと考えている。

受験生の皆様へ
頑張るあなたを応援するお茶の水女子大学です



お茶の水女子大学 みがかずば奨学金

(予約型奨学金)

お茶の水女子大学みがかずば奨学金（予約型奨学金）は、入学を希望される受験生の皆様に入学後の経済支援を行うことを目的として、入試出願前に申請頂いて、入試合格・入学後に奨学金を受けられることを事前にお約束する制度です。



申請資格

- ①日本の高等学校又は中等教育学校を平成25年度に卒業見込みの者（現役生対象）
- ②平成26年4月に本学学部1年生に入学する予定の者で、本学に強く入学を志願する者
- ③成績・人物とも優秀（調査書の学習成績概評がA以上の者）で、大学進学において経済的支援が必要と認められる者

給付額・採用者数

- | | | | |
|---------|----------|-------|-----|
| ①奨学金支給額 | 1年目 30万円 | ②採用者数 | 25人 |
| | 2年目 30万円 | | |

申請期間

平成25年9月1日～9月20日
※高等学校経由での提出となるので、各高等学校の提出期限に従ってください。

結果通知

平成25年10月に審査（内定者決定）を行い、推薦された高等学校の学校長と本人宛に通知します。（本奨学金の内定は、本学の合格を保証するものではありません。）
なお、内定後、一般入試（前期・後期）、AO入試、推薦入試、高大連携特別入試のいずれでも受験できます。

問い合わせ先

お茶の水女子大学学生・キャリア支援チーム Tel. 03-5978-2646 Mail. gakusei@cc.ocha.ac.jp

※詳細については、募集要項（6月下旬頃配布予定）をご覧ください。



国立大学法人
お茶の水女子大学

みがかずば奨学金の案内ポスター（平成26年度の例）

2) みがかずば奨学金受給（経験）者に対するヒアリング調査

調査の概要

本調査では、みがかずば奨学金制度の成果と課題を明らかにするために、本奨学金受給（経験）者に対して、以下のヒアリング調査を実施した。

- ・調査時期：2013年11月
- ・調査対象：平成23年度から25年度の本奨学金を受給（経験）者。
- ・調査方法：調査票をメール添付にて送付し、それをもとにしたヒアリング調査を実施。
- ・調査項目：以下を主な調査項目として設定した。
 - ・本奨学金をどのようにして知ったのか
 - ・本奨学金申請時に困ったこと
 - ・本奨学金の活用例
 - ・本奨学金が役に立っていること

調査の結果

i) 本奨学金をどのようにして知ったのか

- ・オープンキャンパスの時にパンフレットを見て。
- ・奨学金担当の先生に勧められた。
- ・高2のとき参加したオープンキャンパスで配布された資料をみて知りました。
- ・オープンキャンパスでチラシをもらった。
- ・大学オープンキャンパス配布資料で知った。
- ・高校の担任の先生が教えてくれました。
- ・オープンキャンパスでもらった資料の中にパンフレットが入っていたことで知った。
- ・高校の掲示。
- ・高校の進路指導の先生に紹介された。
- ・高校の校舎の廊下にみがかずば奨学金のポスターが貼ってあったのを見ていたら、先生に応募してみたらどうかと勧められた。
- ・高校の時の先生が教えて下さり、学びたいことなどの大学を志望する理由についても深く考えるきっかけになるので申請してみてもどうかと勧めてくださった。
- ・お茶の水女子大学のホームページをみて知りました。
- ・高校の奨学金案内の掲示板を見て。
- ・オープンキャンパスの時に知りました。
- ・ホームページやオープンキャンパスに参加した時に知りました。家族の勧めで申請しようと思いました。
- ・高校の担任の先生から教えて頂きました。

ii) 本奨学金申請時に困ったこと

- ・学校通じてだったので、担任の先生に説明するのが大変でした。前例もなく、他の大学と違って、必要な資料をそろえることが大変でした。
- ・担任の先生に声をかけてもらったが、期日間近だったこと。母校でお茶大を受検する人が毎年少ないので、気づくのが遅くなったそうです。
- ・手続きに担任の先生の協力が必要だったので、なかなか時間の都合がつかず提出が期限の直前になってしまい不安でした。
- ・高校の担任の先生を通じて。
- ・志望理由書をまとめること。
- ・母校からお茶の水女子大の合格者がほとんどいなかったため、教師があまり協力的でなかった。
- ・もともと浸透していない奨学金だったので、手続きが少しわかりにくかった（見通しが立たず）。
- ・2,000字程度の作文を完成させるのが大変でした。

iii) 本奨学金の活用例

- ・家賃と食費のほか、教科書代
- ・前期はアルバイトをしていなかったため、奨学金を仕送り代とし、親からの仕送りは家賃にあてていました。主に生活費として活用させていただきました。
- ・語学の先生が企画する1週間のフランス勉強旅行に参加するための旅費に使いました。
- ・生活費で活用している。自分の勉強（楽譜やCD代、クラシックのコンサート代など）のために活用している。
- ・生活費。サークルの合宿代。教科書代など。
- ・授業料の支払い。
- ・学費。
- ・授業料の支払いに活用しています。
- ・授業履修において、授業料以外に必要な経費（交通費、コンクール参加費等）。生活費。
- ・教科書代などの学用品代。寮費。
- ・お茶の水女子大学で勉強するための教材費。東京で一人暮らしをするための生活費、食費などに主にあてている。特に何に使うと決めているわけではないが、かなり活用した。
- ・主に生活費として少しずつ使わせて頂いています（日常の生活の中で必要なものや教科書など）。また現在、茶道をしているので、そちらの稽古代にも使わせて頂いています。東京での一人暮らしに不安もありましたが、安心して生活を送ることができています。
- ・生活費や教科書を買うとき等に使っています。
- ・授業料と大学で使う教科書代。定期代。
- ・すべて寮費にあてています。
- ・大学院への進学希望を持っているので、貯金しております。
- ・入学金、教科書、他大学のセミナーの参加費。

iv) 本奨学金が役に立っている（役に立った）こと

- ・上京している人にとって入学し始めは何かとお金のかかる時期で、たくさんの不安がありました。その時にこの奨学金があったことで、すぐにバイトを始めたたり、たくさん働かずに大学生生活を送れたので、勉強の方に集中できたと思います。
- ・お茶大に進学することを最初両親や祖母・祖父が反対していました。しかし奨学金が内定したことにより賛成してくれたとともに、とても生活費として役立っています。
- ・将来の進路はまだ確定していませんが、アルバイトなどに過度に時間を取られることなく大学の学習や自分が興味を持っている活動に取り組めること自体が、将来のよりよい進路実現につながると思います。
- ・音楽の勉強をしていくためには、何かと経済的な負担が大きいので、奨学金がとても役に立っている。
- ・大学に入ってから勉強が難しく大変だったのと、生活が変わって苦勞したので、ある程度バイトをせずに過ごせたのはとても助かった。
- ・授業料に回せるため、自分でためたお金を自分の興味に回すことができている（舞台、コンサート等を見に行き、パフォーマンス法や演出について学習している）。
- ・バイト代を自分のために使うことができたため、勉強に集中できるだけでなく、それ以外の趣味なども熱心に取り組むことができました。勉学では幅広く多くのことを学び、趣味やサークル活動においては、自分に向いていることや自分が夢中になれること、自分が改善しなければならないことなど、たくさんのことを学ぶことができました。
- ・親の経済的負担が軽くなりました。そのことにより家族も応援してくれるようになりました。また奨学金を支給してくださる様々な方への感謝の意も込めて、勉強に身が入りました。
- ・将来、舞踊に関する仕事をやりたいと考えており、大学でも部活や授業などでたくさんの舞台を踏ませてもらっている。そのためにはやはりお金も必要で、そういった夢の実現のための活動において、奨学金があることはとても心強かった。
- ・私が大学生になるにあたり、東京に出てきて一人暮らしをすると、かなり金銭的にも厳しい状況だった。寮に入ったり、授業料半額免除にいただいたり、なるべく負担を減らそうと努力しているので、その助けになっている。みがかずば奨学金がなかったら、もっと勉強の時間を削ってアルバイトをしてお金を稼がなければならなかったろうし、今、大学生活を安心して送れ、将来のために勉強できるにもこれがあつたおかげであると思う。
- ・学費の負担を減らせるのと、自由に行動できる時間ができ、勉強する時間も確保できるので、より高度な学問に向けて準備ができること。アルバイトで30万円を稼いでいたら、本を読む時間さえなくなってしまう。
- ・この奨学金で寮費を払っているの、仕送りやバイト代をその分貯めることができている。音楽関係の仕事に就きたいと思っているので、その貯めたお金で音楽関係の雑誌やCD、楽譜を買ったり、コンサートに言ったりして勉強することができます。

- ・将来は理系で学んでキャリアを活かして、大学院への進学を考えております。奨学金のおかげで現在は安心して勉学に勤しむことができている状況です。もし奨学金を頂けていなければ、アルバイトなどを頻繁に行わなければいけなかったかもしれません。なので、自分の興味のある勉強や自主学習に壁を作らずに励むことができている今の環境に感謝しております。
- ・学業に専念するために必要な費用をまかなうために大いに役立っています。

5. キャリア支援体制の整備

学生支援ニーズの把握をするために各種調査を行った結果、本学の新入生、その保護者、在学生のいずれにおいても、卒業後の進路や就職に対しての不安が大きく、その支援を強く希望していることが明らかになった。そこで本学では、平成24年度より、学生支援センターとキャリア支援センターの協働によって（平成26年度からは、両センターを統合した学生・キャリア支援センターとして）、学生のキャリア支援体制の整備を以下のように進めた。

(1) 支援行事の充実

・ガイダンス/講座

民間企業、公務員、教員志望者等に対する情報提供を目的として、各種ガイダンス及びセミナー等を実施した。最新の情報をもとに、就職活動の流れや傾向等について解説したほか、エントリーシート、面接（個人、集団、グループディスカッション）、筆記試験対策など、就職活動に必要な不可欠な知識やノウハウを紹介した（以下は、平成25年度の実績例）。

実施日	実施内容	※種別	定員有無	参加学生数
4/16(火)	就職総合ガイダンス:いつ何があるのか編①	民間企業	無	125
4/18(木)	就職総合ガイダンス:いつ何があるのか編②	民間企業	無	108
4/22(月)	就職総合ガイダンス:いま何をすべきか編①	民間企業	無	115
4/23(火)	公務員試験ガイダンス:総論①	公務員	無	107
4/25(木)	公務員試験ガイダンス:今から目指す公務員編	公務員	無	42
4/26(金)	就職総合ガイダンス:いま何をすべきか編②	民間企業	無	115
5/13(月)	インターンシップガイダンス	民間企業	無	105
5/14(火)	公務員試験ガイダンス:都道府県庁編	公務員	無	82
5/15(水)	教員採用試験ガイダンス	教員	無	39
5/16(木)	公務員試験ガイダンス:国立大学法人編	公務員	無	51
5/20(月)	就活3大テーマ解説講座:自己分析編	民間企業	無	156
5/22(水)	就活3大テーマ解説講座:企業研究編	民間企業	無	160
5/24(金)	就活3大テーマ解説講座:SPI・筆記試験編	民間企業	無	183
6/5(水)	会社の見方・調べ方講座第1回	民間企業	無	129
6/6(木)	インターンシップマナー講習	民間企業	無	101
6/11(火)	公務員試験ガイダンス:面接カードの書き方編	公務員	無	25
6/12(水)	会社の見方・調べ方講座第2回	民間企業	無	87
6/13(木)	公務員試験ガイダンス:公開模擬面接編	公務員	有	28
6/14(金)	公務員試験ガイダンス:集団討論対策編	公務員	有	14
6/19(水)	会社の見方・調べ方講座第3回	民間企業	無	80
6/20(木)	国家公務員セミナー	公務員	無	13
7/4(木)	公務員試験ガイダンス:総論②	公務員	無	31
7/24(水)	夏期集中 就職ガイダンス第1回	民間企業	有	38
7/25(木)	夏期集中 就職ガイダンス第2回	民間企業	有	38
10/3(木)	公務員試験ガイダンス:総論	公務員	無	42
10/4(金)	教員採用試験ガイダンス	教員	無	16
10/7(月)	就職総合ガイダンス 環境編①	民間企業	無	53
10/8(火)	就職総合ガイダンス 環境編②	民間企業	無	49
10/10(木)	就職総合ガイダンス 行動編①	民間企業	無	71
10/11(金)	就職総合ガイダンス 行動編②	民間企業	無	56
10/17(木)	公務員試験ガイダンス:都道府県庁・市役所編	公務員	無	32
10/22(火)	就活3大テーマ解説講座:自己分析編①	民間企業	無	68
10/23(水)	会社の見方・調べ方講座第1回	民間企業	無	55
10/25(金)	就活3大テーマ解説講座:自己分析編②	民間企業	無	58
10/28(月)	就活3大テーマ解説講座:企業研究編①	民間企業	無	61
10/30(水)	会社の見方・調べ方講座第2回	民間企業	無	54
10/31(木)	就活3大テーマ解説講座:企業研究編②	民間企業	無	74
11/6(水)	会社の見方・調べ方講座第3回	民間企業	無	38
11/26(火)	就活3大テーマ解説講座:エントリーシート編①	民間企業	無	90
11/28(木)	就活3大テーマ解説講座:エントリーシート編②	民間企業	無	87
12/10(火)	グループディスカッション体験講座①	民間企業	有	30
12/12(木)	グループディスカッション体験講座②	民間企業	有	28

・ワークショップ

少人数・予約制として、キャリアアドバイザーによるワークショップを学生のニーズに応じて実施した（以下は、平成25年度の実績例）。

実施日	実施内容	※種別	定員有無	参加学生数
6/7(金)	面接マナー・ボイストレーニング①	各種共通	有	8
6/12(水)	グループディスカッション①	民間・公務員	有	8
6/14(金)	面接マナー・ボイストレーニング②	各種共通	有	5
6/19(水)	グループディスカッション②	民間・公務員	有	9
7/12(金)	面接マナー・ボイストレーニング③	各種共通	有	5
7/19(金)	グループディスカッション③	民間・公務員	有	2
10/18(金)	就活ホンネカフェ①	各種共通	有	8
11/13(水)	就活ホンネカフェ②	各種共通	有	6
11/25(月)	外資系企業を応募するために	民間企業	有	6
11/27(水)	就活ホンネカフェ③	各種共通	有	5
12/2(月)	グループディスカッション④	民間・公務員	有	8
12/4(水)	自己PRの書き方①	民間企業	有	14
12/9(月)	マナーとコミュニケーション①	各種共通	有	12
12/11(水)	志望動機の書き方①	民間企業	有	14
12/16(月)	面接練習①	民間企業	有	9
12/18(水)	ボイストレーニング①	各種共通	有	14
12/25(水)	プレゼンテーション①	民間企業	有	3
1/15(水)	自己PRの書き方②	民間企業	有	12
1/20(月)	グループディスカッション⑤	民間・公務員	有	7
1/22(水)	志望動機の書き方②	民間企業	有	7
1/27(月)	マナーとコミュニケーション②	各種共通	有	6
2/10(月)	面接練習②	民間企業	有	8

・企業説明会（OG 懇談会）

1回の説明会に1企業が参加する単独形式の説明会を実施し、人事担当者との情報交換やOGとの懇談を通じて、働くことへの理解を深めると共に、業界企業研究のための情報収集を行う機会とした（以下は、平成25年度の実績例）。

実施日	企業・官公庁等	参加学生数
10/21(月)	JTB	37
	りそなグループ(りそな銀行/埼玉りそな銀行)	17
10/25(金)	経済産業省	13
10/28(月)	パナソニックグループ(パナソニック/ベネフィット・ワン)	20
11/1(金)	商船三井	35
	農林水産省	13
11/11(月)	国際交流基金	21
11/15(金)	野村総合研究所	53
11/18(月)	花王	73
	埼玉県庁	13
11/20(水)	NHK	94
11/22(金)	アクセンチュア	49
	講談社	66
11/25(月)	大和ハウス	40
	高島屋	30
11/27(水)	キリン	98
12/2(月)	金融庁	8
12/4(水)	味の素	101
12/6(金)	NTT東日本	57
12/9(月)	損害保険ジャパン/日本興亜損保	24
12/11(水)	三菱UFJ信託銀行	34
12/13(金)	ゆうちょ銀行	36
12/16(月)	テルモ	16
	日産自動車	15
12/18(水)	TBS	40
	電通	33
12/20(金)	三菱地所レジデンス	26
	全日本空輸	30
	三井住友海上火災保険	25



実施日	企業・官公庁等	参加学生数
1/8(水)	みずほフィナンシャルグループ	25
1/10(金)	日本銀行	24
1/15(水)	日本IBM	16
1/17(金)	三菱商事	42
1/20(月)	学研グループ	30
1/23(木)	国立国会図書館	17
1/24(金)	東京都庁	32
1/27(月)	パナソニック	35
	日本取引所グループ	4
	三菱東京UFJ銀行	22
1/29(水)	Honda(本田技研工業)	7
	サンリオ	24
1/31(金)	国税庁	1
	国立高等専門学校	8

・ 企業合同説明会

1 回の説明会に複数の企業が参加するブース式の説明会を実施し、組織の概要や職種別の業務内容、採用の条件や選考のプロセスなど、様々な情報を収集する機会とした（以下は、平成 25 年度の実績例）。

実施日	企業・官公庁等	参加学生数	実施日	企業・官公庁等	参加者数
12/2(月)	首都高速道路	126	1/8(水)	住友商事	89
	富士通エフサス			三井住友信託銀行	
	リコー			商工組合中央金庫	
	森永乳業			ベネッセコーポレーション	
	マイナビ			東京ガス	
	日本公文教育研究会			シティバンク銀行/シティカードジャパン	
12/4(水)	コクヨ	102	1/10(金)	JR東海	91
	日立ソリューションズ			鈴与	
	テイクアンドギヴ・ニーズ			DHC	
	JA三井リース			コーセー	
	八千代銀行			ロッテ	
	SONY			協和発酵キリン	
12/6(金)	野村不動産	97	1/15(水)	ハウス食品	75
	小田急エージェンシー			フジキン	
	日本貿易振興機構			アッシュ・ペー・フランス	
	ブリヂストン			栃木県庁	
	アイリスオーヤマ			東急電鉄	
	バンダイナムコゲームス			アサヒ飲料	
12/9(月)	JCB	85	1/17(金)	静岡ガス	56
	QUICK			住友生命	
	京急電鉄			神奈川県庁	
	東京メトロ			富士通ソフトウェアテクノロジー	
	朝日新聞社			JR東日本	
	あいおいニッセイ同和損保			SRA	
12/11(水)	MS & ADシステムズ	107	1/22(水)	衆議院事務局	41
	読売新聞東京本社			三井住友銀行	
	西武グループ(西武ホールディングス/西武鉄道/プリンスホテル)			日本モレックス	
	大日本印刷			タマノイ酢	
	ライオン			ポーラ	
	ヤフー			東京高等裁判所/東京家庭裁判所	
12/13(金)	三菱マテリアル	128	1/24(金)	東興機(TKBグループ)	48
	びあ			国際協力機構	
	三菱UFJモルガン・スタンレー証券			立山科学グループ	
	日本経済新聞社			東京海上日動	
	明治グループ(明治/Meiji Seikaファルマ)			東芝システムテクノロジー	
	沖電気工業			日本航空	



ガイダンスの様子（左上）、
ワークショップの様子（右上）、
合同説明会の様子（左下）

(2) 相談体制の拡充

本学では、事前予約を必要とし、有資格者であるキャリアアドバイザーが対応する「進路・就職相談」と、キャリア支援センタースタッフや就職内定者が気軽に相談を受ける「キャリアカフェ」を二本柱として、キャリア相談体制の拡充を図っている（日時、場所などは、以下を参照）。

・進路・就職相談

2013 年後期就職支援



就活の強い味方

就職相談 ES対策 面接指導

《完全予約制》 日時を決めて、じっくり相談したい方へ！

- ◆日 時◆ 毎週 月・火・水・木・金 10:30～/11:20～/12:20～/14:10～/15:00～/15:50～
※祝祭日及び冬期休業期間などを除きます。
- ◆担 当◆ 桑田真理子先生【月担当】 中村玲子先生【火・木担当】 山崎美和先生【水・金担当】
※宿題の事情により、担当者が変更になる場合もあります。あらかじめご了承ください。
- ◆場 所◆ 学生センター棟 2階 学生・キャリア支援センター
- ◆予約方法◆ 以下の事項を記載の上、メールでお申し込み下さい。予約 care-advis@cc.ocha.ac.jp
①学籍番号 ②氏名 ③連絡先（携帯電話の番号） ④希望日時
※希望する日にち・時間枠をできる限り列挙して下さい。なお、予約後のキャンセルは極力お控え下さい。
- ◆問い合わせ◆ 学生・キャリア支援チーム 03-5978-5146

・キャリアカフェ

Welcome to ...

Career Cafe

--- キャリアを描く、わたしの空間 ---



「将来のことを考えるのに、どのように自己分析をすればよいのかしら...?」

「わたしの学部のOGって、どんな業界で活躍しているのかしら...?」

「社会人になるまでに、どんなことから始めたらよいのかしら...?」

キャリアカフェでは、午後の時間帯に、キャリアに関する個別アドバイスを実施しています。進路・就職アドバイス、エントリーシートの添削、面接指導、自己分析や業界研究・就職活動までの行動計画のアドバイスなど、学生1人1人のキャリアをサポートしています。1年生から就職活動中の方まで、どなたでも参加可能です。ぜひお気軽にご活用ください！

曜日・時間帯

月 火 木 金 13:00～17:00

進路・就職相談	進路・就職に関するアドバイス、面接指導、エントリーシートの添削、など
キャリアデザイン	社会人になるまでの行動計画のアドバイス、自己分析や業界研究のサポート など

※1人(1組) 40分程度

場 所 キャリアカフェ（お茶大図書館1F）

受 付 当日、キャリアカフェまで直接お越しください。

お茶の水女子大学 キャリア支援センター

◆進路・就職相談 TEL：03-5978-5658 kishino.sachiko@ocha.ac.jp
◆キャリアデザイン TEL：03-5978-5726 shimodori.miwa@ocha.ac.jp

(3) キャリア支援に関する広報活動

上記のように支援行事や相談体制を充実・拡充させるとともに、これらの情報を学生に適切に伝えることができるよう、広報活動にも以下のように努めた。

・ホームページによる情報発信

本学キャリア支援センター（現：学生・キャリア支援センター キャリア支援部門）ホームページをとおして、以下のように情報発信を行った。

支援行事に関しては、「新着情報」としてトップ画面を活用し、常に新しい情報をわかりやすく提供している。

The screenshot shows the website for the Ochanomizu University Career Support Center. The header includes the university logo and name, along with navigation links for Home, Site Map, Contact, and Access. Below the header is a main banner with a photograph of two women looking up and the text '未来を描き、創造する' (Drawing the future, creating it). The main content area is divided into several sections: 'Job Support Calendar', 'Career Cafe', 'Job Posting' (with a link to '求人票紹介'), and 'New Information' (News). The 'New Information' section lists several recent events, such as 'OG懇談会【教員編】の実施について' and 'ミニグループワーク第2弾の実施について'. The footer contains contact information for the Career Support Center and links to Security and Privacy Policies.

・ポスター掲示（電子掲示板・各所掲示版など）による情報発信

学内の電子掲示板や各所掲示版などを利用し、以下のように支援行事ごとにポスターを作成し、掲示を行った。

就活3大テーマ解説：自己分析編
 【内容】自己分析の意義について
 【日時】19/02（水）、19/05（日）19:30~19:50
 ※同日とも内容は異なります。ご都合の良い日にご参加ください。
 【場所】共通講義棟2号館301教室

就活3大テーマ解説：企業研究編
 【内容】企業研究の方法について
 【日時】19/02（日）、19/05（日）19:30~19:50
 ※同日とも内容は異なります。ご都合の良い日にご参加ください。
 【場所】共通講義棟2号館301教室

就活3大テーマ解説：エントリーシート編
 【内容】エントリーシートの特徴と書き方について
 【日時】19/02（水）、19/05（日）19:30~19:50
 ※同日とも内容は異なります。ご都合の良い日にご参加ください。
 【場所】共通講義棟2号館301教室

**就活3大テーマ解説講座
 自己分析/企業研究/エントリーシート**
 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター主催

学生・キャリア支援センター主催
**ミニグループワーク
 【ヴォイストレーニング】**
 少人数で、きめ細かく！実践指導で不安を改善！
 コミュニケーションのベースとなる「声」を磨きます。相手への好印象の与え方を学び、自信につなげます。
皆さんの就職活動を、
お手伝いします。

日時：12月18日（水）15:30~16:30
 場所：大学本館123教室
 対象：本学学生・大学院生（学部3年生・M1推奨）
 担当講師：山崎美和先生（キャリアアドバイザー）
 定員：10名 ※先着順で定員になり次第締め切り
 予約方法：以下のアドレス宛に①氏名、②所属、③学年、④連絡先電話番号をご記入の上、12/18（水）16時までに
 お申し込みください。
 mail:career-support@oc.nyu.ac.jp 学生・キャリア支援センター

・案内プリントによる情報発信

学期ごとに支援行事をまとめ、案内プリントとして配布した（以下は、平成24年度・前期の例）。

お茶の水女子大学キャリア支援センター 2012年度 キャリア支援のご案内

※5月26日現在のご案内です。

【前期】

<p>夢をかなえる勉強法 日時：4/18（水）13:20-14:50 場所：共通講義棟2-101 対象：本学学生 予約：不要 実務講師 学部1・2年 推奨</p>	<p>公務員試験ガイダンス 日時：4/25（水）13:20-14:50 場所：共通講義棟2-101 対象：本学学生 予約：不要 実務講師 学部3年・M1 推奨</p>
<p>大学生生活スタートアップ講座Ⅰ 日時：5/9（水）13:20-14:50 場所：共通講義棟2-101 対象：本学学生 予約：不要 実務講師 学部1年 推奨</p>	<p>就職活動オリエンテーション 日時：5/16（水）15:00-16:30 場所：共通講義棟2-102 対象：本学学生 予約：不要 実務講師 学部3年・M1 推奨</p>
<p>社会人準備講座Ⅰ 日時：5/23（水）13:20-14:50 場所：共通講義棟2-101 対象：本学学生 予約：不要 実務講師 学部2年 推奨</p>	<p>インターンシップ&マナー講座 日時：6/8（水）15:00-16:30（水・水・水） 場所：共通講義棟2-102 日時：6/9（水）16:40-18:10（水） 場所：共通講義棟2-101 予約：不要 学部3年・M1 推奨</p>
<p>企業サイトを活用した企業の見つけ方ガイダンス 日時：6/20（水）13:20-14:50 場所：共通講義棟2-101 対象：本学学生 予約：不要 学部3年・M1 推奨</p>	<p>公務員試験前対策面接対策ガイダンス 日時：6/27（水）15:00-16:30 場所：共通講義棟2-102 対象：本学学生 予約：不要 学部4年・M2 推奨</p>
<p>公務員試験 数的処理対策ガイダンス 日時：7/4（水）15:00-16:30 場所：共通講義棟2-102 対象：本学学生 予約：不要 学部3年・M1 推奨</p>	<p>夏休みの過ごし方ガイダンス 日時：7/11（水）13:20-14:50 場所：共通講義棟2-101 対象：本学学生 予約：不要 学部1・2年 推奨</p>
<p>面接対策ワークショップ 日時：4/12, 19, 26, 5/10, 17, 24, 31 15:00-17:00 場所：学生センター棟3階 対象：本学学生 予約：必要 学部4年・M2 推奨</p>	<p>グループディスカッション&面接に役立つボイストレーニング講座 日時：4/20, 27, 5/11, 18, 25 15:00-17:00 場所：学生センター棟3階・4階 対象：本学学生 予約：必要 学部4年・M2 推奨</p>

※6月以降も、学部4年生・M2を対象としたワークショップ（少人数制、予約・先着順）を随時開催していきます。

【後期】 ※詳細未定

<p>大学生生活スタートアップ講座Ⅱ 就職活動オリエンテーション講座Ⅱ 企業の見つけ方ガイダンスⅡ 学内OG懇談会+企業説明会 公務員試験：半年で内定を取る！地元自治体内定ガイダンス 内定者（民間企業/公務員）体験報告会など</p>	<p>社会人準備講座Ⅱ 就職サイト活用講座Ⅱ OG訪問・マナー講座 教員志望者向けガイダンス</p>	<p>就職相談ES対策面接指導 ◎日時を決めてじっくり相談 場所：学生センター棟 予約：必要 日時：月・火・水・木・金 午前・午後 ◎予約なしで気軽に相談 場所：図書館キャリアカフェ 予約：不要 日時：月・金 午後</p>
---	---	--

6. 学生による学生支援制度の設計・運営

(1) 新寮レジデント・アシスタント(SCC-RA)

お茶大 SCC（以下、SCC）開寮から3年目に入った平成25年、SCCとして初めて、学部入学から2年間を過ごした寮生の卒寮を迎えることとなった。この節目の年に、SCCの理念である「共に住まい、共に成長する」に基づいて寮生同士のピア・サポートを行う SCC-RA 制度を導入した。

SCC-RA 制度の概要

SCC-RA 制度とは、学部1年次から2年間を SCC に在寮した学部3年生の中から募集・選考した4名を SCC の運営に積極的に協力する SCC-RA（以下 RA）に任命、その活動を支援するために、1年間の SCC 在寮資格と奨学金を支給するものである。年期は学部3年生の4月から1年間。奨学金は月2万円を支給している。なお、任期中の寄宿料3万円は引き続き納入する。RA は他の寮生とは同ハウスにならず、RA のみで B ハウスを構成している。

次に選考方法について説明する。10月上旬から11月上旬にかけて、「RA 説明会」を開催し、RA 制度の概要、仕事内容の説明を行った。初年度の RA 募集は学寮アドバイザーが中心となって行ったが、2年目からは現役 RA が説明会のプログラムの組み立て及び説明を担当した。RA 応募者は説明会の1週間後に、「RA 申請書」を学寮アドバイザーに提出。11月下旬、応募者に対し学内の選考委員会による面接を行った。12月上旬には次年度の RA が決定。引き継ぎ及び新年度の準備を始めた。2月には RA 研修を実施。「RA マニュアル」を基に、RA の理念や活動が理解されるように支援を行った。平成25年度の初代 RA には、大学及びチームビルディングの会社が研修プログラムを用意したが、平成26年度の RA 対象者の研修からは、現役 RA が研修プログラムを作成・実行している。また、初年度に用意した「RA マニュアル」も、研修プログラムに合わせて改訂を行っている。



RA 研修の様子（平成25年度）

SCC-RA の活動内容

RA の立場は学寮アドバイザーと寮生の上に位置し、仲介役を担っている。ハウス長の集まる寮生協議委員会や各委員会にオブザーバーとして参加し、各委員会の進行状況を把握し、助言や相談を行っている。委員会に参加する中で、大学に報告・相談することがある場合は、学寮アドバイザーに連絡をとる。RA と学寮アドバイザーの定例会議も行われており、主に授業期間中の昼休み中、月 2 回程度の頻度で行っている。必要に応じて、学生寮担当の教職員が会議に加わることもある。

また、RA は学寮アドバイザーとともに SCC の視察の対応も行っている。新聞社や他大学からの視察が月に 1~2 件程あり、RA が対応できる場合は帯同するようにしている。視察の目的が、RA 制度について、また他大学の RA 及び寮生が来訪する場合は、事前に質問事項を受け付け、RA 自身で受け入れの準備をすることもある。

平成 25 年度は RA の企画として、本学学部オープンキャンパスでの「SCC 紹介コーナー」設置、「他大学学生寮視察」、「SCC 寮生 OG 懇談会」などを実施した。SCC は開寮以来、多くのメディアで取り上げられているが、寮内で行われている学生支援プログラムや実際の生活の様子等を、寮生自身が発信することはしていなかった。

SCC 紹介コーナーは、本学受験を考えている高校生に SCC についてもっと知ってもらいたいという思いから、受験生への情報発信としてオープンキャンパスにて教室を確保、ブース設けることになった。紹介コーナーでは学生支援プログラムについての展示、SCC の紹介スライド上映を随時行い、現役寮生による相談ではオープンキャンパス期間中の三日間（初日は半日のみ）で 450 名の高校生及び保護者が来場、延べ 150 件の相談を受けた。また「学生寮」として、国際学生宿舎（大山寮）との違いについて質問を受けることもあり、SCC の卒寮後に国際学生宿舎に入寮した元 SCC 寮生にも協力を仰いで対応した。このオープンキャンパスでのノウハウを基に、10 月の寮祭では入学・入寮を希望する高校生及びその保護者を 10 組招待し、SCC 紹介と受験相談を行った。



学部オープンキャンパス SCC 紹介コーナー

他大学の学生寮視察については、RA より、他の大学の学生寮の取り組みを見学し、SCC の活動に役立てたいという要望を受け、8 月と 9 月に行った。教育寮としての歴史のある国際基督教大学と麗澤大学に依頼、2 大学とも視察を受け入れていただくことができた。視察には RA の他に 1、2 年生の寮生も数名ずつ参加した。RA だけでなく寮生にも SCC 以外の寮を知る機会となった。また訪問先では、学生寮担当の教職員の他に、RA のような寮生をサポートする立場の寮生と話す機会も設定していただけるようにあらかじめ依頼し、寮が抱える課題について寮生同士で率直な意見の交換が行われた。寮内の見学や会議にも同席したことは、参加した寮生たちにとって大いに刺激となった。その後 10 月の寮祭では学生寮視察の報告を行い、寮生及び来訪者に向けて RA の活動を知らせる機会となった。

また、学寮アドバイザーは、大分の立命館アジア太平洋大学とシンガポール及び香港の学生寮を持つ大学（シンガポール国立大学、南洋理工大学、香港大学）の視察も行い、帰国後それぞれの寮の様子を RA にも報告、情報を共有した。国内外の学生寮事情を知ることで、SCC とは規模も仕組みも異なる寮でも寮運営に関しては参考にできる部分が多いことを知り、RA にとっても実りの多い経験となった。

12 月には SCC 寮生卒寮生を迎え、OG 懇談会を行った。少人数ではあったが、ちょうど来年度の RA が決まった後ということもあり、現役 RA と新 RA が集まり、SCC 開寮時の話を聞きながら、現在の SCC の様子をふりかえる良い機会となった。OG からは、現在の SCC の行事や活動の様子をもっと知りたいという話もあり、今後は OG に向けての情報発信の方法についても考えていきたい。来年度は OG が就職し、社会人となるので、その経験を語る場として、寮生にとっても、SCC で寮生活を経験した先輩の話を、直接聞くことのできる場として活用していきたい。

平成 25 年度 RA の活動スケジュール

	学生支援プログラム・SCC 行事	RA 企画・参加
4 月	SCC-RA 任命式	★
	お茶大 SCC オリエンテーション	★
	第 1 回学修プログラム 講演会	
	チーム作りのワークショップ	
	ウェルカムパーティー	
5 月	清掃指導のワークショップ	
	第 1 回学修プログラム 発表会	
6 月	第 2 回学修プログラム 講演会	
7 月	学部オープンキャンパス SCC 紹介コーナー	★
	第 2 回学修プログラム 発表会	
	1 年生向けワークショップ	
8 月	国際基督教大学 学生寮視察	★
9 月	麗澤大学 学生寮視察	★
	RA・学寮アドバイザー合同ワークショップ	★

10月	寮祭	★
	RA説明会	★
11月	青森県立保健大学・お茶大 SCC 寮生交流会	★
12月	第3回学修プログラム 講演会	
	寮生 OG 懇談会	★
1月	第3回学修プログラム 発表会	
2月	RA研修	★
	新2年生とRAの交流会	★(新RA)
3月	お茶大 SCC 及び SCC-RA 修了証書授与式	★
	さよならパーティー	
	新2年生向けワークショップ(ハウス長研修含む)	★(新RA)

SCC-RA 制度導入後の変化

第3章(2)新寮の機能設計・運営 学生支援プログラム【平成25年度】でも述べているが、寮生協議員会の委員会構成の変更、学修プログラムの形式変更は、RAによって前年度末に提案された。前年度の学修プログラムは2年生のハウス長が中心となって企画・運営していたが、今年度から委員会になったことで寮生全体での関わりが増え、意識的に1年生の委員を取り込みながら行うことができた。

ハウス長とRAが出席する寮生協議委員会の会議は、授業期間中2週間に1回のペースで開催されている。会議をより充実したものにするために、RAがファシリテーターになり、会議を仕切り進めるようになった。会議を開く前にハウス長、委員長、学寮アドバイザー、管理人室、RAから議題を集め、アジェンダを作成し配布している。また「議事録」についても、以前から作成するようにはしていたが、会議の当日または翌日にはアジェンダに沿った議事録が必ず提出されるようになった。今後この議事録が蓄積されることによって、SCCのデータベースにもなることが期待される。学寮アドバイザーは委員会に同席していないが、アジェンダ・議事録があることにより、寮内の動きがさらによくわかるようになり、連絡も円滑に行われている。

また、RAが実際に参加したSCCのチームビルディングワークショップやミーティングでの経験を基にして、会議では「チェックイン」から始めて「チェックアウト」で終える、アイスブレイクを取り入れている。「チェックイン」では、本題に入る前に一人一つずつ、近況を話していくことで、場が和み、発言しやすい雰囲気作ることができ、「チェックアウト」では、感想やこれからすることを話すことで、会議の内容を共有する意味合いももっている。

参加者からは、アジェンダ、アイスブレイクの導入により、話し合うテーマが明確になり、効率的に会議が進められるようになったとの声を聞くことができた。

今後の課題

今年度はRA制度が実際に動き出し、試行錯誤しながら仕事内容を模索していった年であ

った。SCCには寮長、各委員会の委員長、ハウス長といったリーダーとなるポストがすでにあるため、RAがどのようにコミットしていくか、どのようなタイミングでサポートしていくかを常に考えながら進めていった。RAがコミットしすぎても2年生のリーダーシップが発揮されないため、見守る歯がゆさも経験した。これは学寮アドバイザーとRAとの関係にもあてはまることで、今年度はRA制度を構築していくために、度々話し合いの機会をもった。学寮アドバイザー、RA、寮生協議委員会の関係は、今後も調整しながら進める必要があると思われる。

また、ハウス長は寮生協議委員会及び各委員会でRAと関わりがあるが、それ以外の2年生、及び1年生にとっては、RAの活動を間近で見ることが少ないため、RAの活動を寮内に広く知らせる必要性を感じた。その対応策として、来年度からはRAの担当ハウス制を導入する。1人のRAが2~3ハウスを担当、ハウス長及びハウスメンバーとの連絡を密に取り、ハウス間交流のまとめ役としても活動することにしている。時に寮生は、寮生活に関する悩みをあまり表に出したがらず、抱え込んでしまうことがある。寮生活は自分の主張をしてばかりでは成り立たないが、反対に遠慮ばかりしていても、寮生活を楽しむことはできない。ハウスメンバーが困ったとき、相談にのれるような存在になるよう、普段からRAとの関わりを増やしていきたいと考えている。

お茶大 GAZETTE 2013年7月号 RA 紹介ページ

OCHADAI GAZETTE Summer, 2013

学生のアクティビティ

お茶の水女子大学の学生は授業以外にも様々な場所で様々な活動をしています。今回はその中でも「SCC-RA(新寮レジデント・アシスタント)」、「JOYnt TEA time」、「ボランティア活動」を紹介します。

SCC-RA (新寮レジデント・アシスタント) の活動 ……………

今年度より、SCC-RA(新寮レジデント・アシスタント)制度が新しく発足しました。この制度は、学部1年次から2年階在京経験があり、SCCの運営に積極的に協力をする学部3年生をSCC-RAに任命し、その活動を支援するために奨学金を支給するものです。SCC-RAは1、2年生の寮生の相談に乗ったり、学修プログラム、交流プログラム等の企画・運営を、大学・寮生と連携しながら行います。SCC-RAに就任した4名に意気込みと今の気持ちを聞きました。



学修プログラム委員会

RAへの意気込み

「やり残したことがある」というのが、RAになりたかった理由です。昨年も、OCHADAI GAZETTEにお茶大SCCのことを採り上げていただきましたが、そのとき、私はSCCのイベントについて書かせていただきました。SCCでは、さまざまなイベントが開催されていたり、企画・運営されていたりしていますが、いずれも理想のイメージがあります。共生とはそもそも何なのか、寮生がより多くの寮生と交流し学ぶためには何をすべきか、などの問題はもちろん、企画されたイベントが寮生の負担になってはならない、寮生が満足するものにしてあげたいという思いも入ります。2年生のとき、寮生協議委員会の一員として、各イベントをどのように行っていくかを熱く議論し続けていました。何度も何度も話し合い、試しましたが、結局、最終的には足りなかったかと思っています。そこで、RAとなり、1・2年生のサポートをしつつ、今後のSCCをより快適かつ学びのある場にしてあげたいと思いました。そして、RAとなり、3か月が経ちました。寮の環境がシステムの変更を機に目点の改善をしたり、RAとしてできる企画をしたり、改善活動中です。今なお、さまざまな課題や課題がありそうですが、その一つ一つに真剣に取り組んでいきたいと思っています。

(文教育学部人文科学科 越前由紀子)

2年間の生活を通して

振り返ってみると、2年間のSCCで生活したことが自分の成長と大きく関わっているように思います。1年目で初めて寮を合住する同級生や先輩と共に暮らし、協議性や共同生活の楽しさ、多様な文化・習慣を学びました。2年目では、寮の先輩方がいない中で、大学や東京の生活に慣れる中で自分からいろいろな課題を自分自身で解決しなければならぬ状況が、私の責任感を強くさせました。

また他校だけでなく、SCCは一生もの出会いを帯びてくれました。SCCでは違う学部学科の友達と交流できるので、学部内だけでは得られない知識や経験が得られ、貴重な経験ができました。また、RAの職は同じSCC生と交わりやすいという点も大きな存在感だけではなく、毎かや寮内も思い入れが強い場所です。

SCCで暮らすことで一人暮らしや他の寮ではできない事も沢山経験することができ、この寮を次学生生活の拠点にしたいことを心でもよかったです。これからもRAの仲間と協力しながら、とてもお世話になったSCCに感謝をし、後輩達を元気づけたいと思います。

(文教育学部人文科学科 越前由紀子)

2年間を振り返って

私がSCCに入寮してから、2年が経ちました。この2年間を振り返ってみると、私の成長はSCCでなくてはならなかったという結論に達します。この寮で過ごすことになった人との出会い、時間を共有することでかけがえのない経験ができました。学修プログラム委員会の副委員長、寮生協議委員会の副委員長、学生企画としてのハウスでの企画、そして2年生時の夏の寮祭、どれも私にとっては初めての経験ばかりでした。このようなことを通じて、ハウスメンバーをはじめとした寮生との関係が生まれ、自分の活動や生活習慣を積極的に見ることができるようになりました。「共生」ということの楽しさと責任を共に感じるようになりました。

そして何よりも、SCCに入って本当に良かったと感じることは、今でも変わらずに私の友達や先輩、後輩と出会えたことです。寮、所属や出身がバラバラですが、SCCで共に生活したことで、お互いのことやよく知っている程度のような関係が生まれました。

これからRAとして、寮生が悩んでいることを一緒に解決するSCCにするためのサポートをしたいと思います。

(文教育学部国際文化学科 三次玲奈)

RAへの意気込み

私がRAとして一番やりたいことは、SCCの寮生との結びつきになることです。これまでSCCで暮らした経験を活かして、後輩たちが困っていることに積極的に寄り添って、解決することができれば、SCCはもっと心地よくなり、寮生がもっと楽しく暮らしていけると思います。お茶大の中で最も長く経験したことのないこの制度を、どのようにして取り上げていくかは私たちが決めます。これからのSCCも多岐にわたりますが、同じRAのメンバーと力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。そして自分ごとで取り組んでいくことにどんどんと挑戦していきたいです。私にとってこの寮で暮らして2年間は本当に快適で楽しく、「もう1年だけでもいいから寮生に任せてほしい」と思っていたのが実現したきっかけでした。今の寮に住んでいる寮生たちが卒業するまで、同じように暮らして欲しいなと思っています。

(文教育学部芸術・表現行動学科 藤岡麻)



学生協議委員会

(2) 内定者によるキャリア支援サポーター

平成 24 年度より、学生・キャリア支援センターのキャリア支援部門の担当者を中心に、就職内定者による「就職・キャリア支援」（キャリア支援サポーター）制度の試行にあたった。

主な支援内容は、「内定者による就活サポートコーナー」における個別相談対応と、「内定者体験報告会」における報告としている。

内定者による就活サポートコーナー

学生同士の相互支援活動の一環として、進路が決まった先輩学生が、これから就職活動を行う後輩学生に対して、自己分析や業界・企業研究、ES・面接・筆記試験対策など、就職活動に関する様々な質問や相談に対応している。

平成 24 年度は、図書館のキャリアカフェにおいて、民間企業編は毎週月・水・金曜日に、公務員編は毎週水曜日に実施した。時間帯はいずれも 13:00～17:00 を原則としている。

民間企業編は計 7 名（民間文系は 5 名・民間理系は 2 名）の内定者が対応。公務員編は計 2 名の内定者が対応した（それぞれ、上記曜日の中で参加可能な日に実施）。

サポートコーナーを担当した内定者の属性は以下の通りである。

文教育学部 言語文化学科 日本語・日本文学コース	4年	民間企業文系編運営スタッフ	金融業界内定
文教育学部 言語文化学科 仏語圏言語文化コース	4年	民間企業文系編運営スタッフ	専門商社内定
文教育学部 人間社会学科 社会学コース	4年	公務員編運営スタッフ	地方上級合格
生活科学部 人間・環境科学科	4年	民間企業理系編運営スタッフ	情報通信業界内定
生活科学部 人間生活学科 生活社会学講座	4年	公務員編運営スタッフ	地方上級合格
生活科学部 人間生活学科 生活社会学講座	4年	民間企業文系編運営スタッフ	物流業界内定
大学院 比較社会文化学専攻	2年	民間企業文系編運営スタッフ	電気機器メーカー内定
大学院 比較社会文化学専攻	2年	民間企業文系編運営スタッフ	放送業界内定
大学院 理学専攻	2年	民間企業理系編運営スタッフ	金融業界内定

以下はその実績である。11 月から 3 月にわたる 5 カ月間で計 45 回実施し、述べ 250 名もの学生のサポートにあたった。学年別にみると、就活本番を迎えた 3 年生が 219 名、博士前期課程 1 年生が 24 名と目立っており、「就活サポーター」として機能していたことがわかる。

平成 25 年度も同様に、12 月から 3 月中旬まで計 38 回の実施を予定している。3 名から 5 名程度の内定者（民間企業、官公庁、小・中・高等学校に内定・合格した学部生及び大学院生）が、後輩学生の相談対応を行っている。

平成 24 年度 内定者による就活サポートコーナー実績

実施日程	内定者 (運営スタッフ)	文教育学部				理学部				生活科学部				博士前期課程		博士後期課程			その他	合計		
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	1年	2年	3年				
11/12(月)	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
11/14(水)	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
11/16(金)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
11/19(月)	3	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
11/21(水)	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
11/26(月)	4	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
11/28(水)	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
11/30(金)	3	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
小計		0	3	15	0	0	0	5	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
12/3(月)	3	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
12/5(水)	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
12/7(金)	4	0	0	3	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
12/10(月)	4	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
12/12(水)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
12/14(金)	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
12/17(月)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12/19(水)	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12/21(金)	2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
小計		0	0	18	1	0	0	4	0	1	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	30
1/7(月)	2	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
1/9(水)	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
1/11(金)	4	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
1/16(水)	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
1/18(金)	4	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
1/21(月)	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
1/23(水)	4	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	10
1/25(金)	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
1/28(月)	3	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
1/30(水)	4	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
小計		0	1	27	0	0	0	13	0	0	0	17	0	6	0	0	0	0	0	0	0	64

2/1(金)	2	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
2/4(月)	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
2/6(水)	5	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	9
2/8(金)	5	0	0	5	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10
2/13(水)	5	0	0	4	0	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
2/15(金)	5	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	13
2/18(月)	3	0	0	5	1	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10
2/20(水)	5	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8
2/22(金)	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	8
2/27(水)	4	0	0	4	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
小計		0	0	40	1	0	0	21	0	0	0	16	0	13	0	0	0	0	0	0	0	91
3/1(金)	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
3/4(月)	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
3/6(水)	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
3/8(金)	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6
3/11(月)	3	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
3/13(水)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3/15(金)	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
3/18(月)	6	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
小計		0	0	11	0	0	0	5	0	0	0	17	0	3	0	0	0	0	0	0	0	36
合計		0	4	111	2	0	0	48	0	1	0	60	0	24	0	0	0	0	0	0	0	250

内定者体験報告会

学生同士の相互支援活動の一環として、就職活動の体験報告会を実施した。その場では、進路が決まった先輩学生が、これから就職活動を行う後輩学生に向けて自らの体験談を紹介するとともに、学業や課外活動との両立や併願などについてアドバイスを行っている。

平成 24 年度は、図書館のキャリアカフェにおいて、以下のように実施した。

日時	内容	文教育学部				理学部				生活科学部				博士前期課程		博士後期課程			その他	合計		
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年						
10/22(月) 12:30~14:30	公務員編	3	2	23	0	0	0	3	0	0	0	6	1	7	0	0	0	0	0	0	0	45
10/26(金) 12:30~14:30	民間企業文系編	0	10	29	0	0	0	7	2	0	0	11	0	7	0	0	0	0	0	0	0	66
10/29(月) 12:30~14:30	民間企業理系編	0	0	0	0	0	0	1	15	0	0	9	0	15	0	0	0	0	0	0	1	41
合計		3	12	52	0	0	0	1	25	2	0	26	1	29	0	0	0	0	0	0	1	152

体験報告会を担当した内定者の属性は以下の通りである。

文教育学部 言語文化学科 日本語・日本文学コース	4年	公務員編 報告	国立大学法人合格
文教育学部 言語文化学科 日本語・日本文学コース	4年	民間企業文系編 報告	金融業界内定
文教育学部 言語文化学科 仏語圏言語文化コース	4年	民間企業文系編 報告	専門商社内定
文教育学部 人間社会科学科 社会学コース	4年	公務員編 報告	地方上級合格
理学部 生物学科	4年	民間企業理系編 報告	情報通信業界内定
生活科学部 人間・環境科学科	4年	全編 運営・受付	地方上級合格
生活科学部 人間・環境科学科	4年	公務員編 報告	東京都庁合格
生活科学部 人間・環境科学科	4年	民間企業理系編 報告	情報通信業界内定
生活科学部 人間生活学科 生活社会科学講座	4年	全編 司会	地方上級合格
生活科学部 人間生活学科 生活社会科学講座	4年	民間企業文系編 報告	物流業界内定
大学院 比較社会文化学専攻	2年	民間企業文系編 報告	電気機器メーカー内定
大学院 比較社会文化学専攻	2年	民間企業文系編 報告	放送業界内定
大学院 人間発達科学専攻	2年	公務員編 報告	国家公務員合格
大学院 ライフサイエンス専攻	2年	公務員編 報告	東京都庁合格
大学院 ライフサイエンス専攻	2年	民間企業理系編 報告	飲料メーカー内定
大学院 ライフサイエンス専攻	2年	民間企業理系編 報告	ガス業界内定
大学院 理学専攻	2年	民間企業理系編 報告	金融業界内定

これらの取り組みについては、以下のようなポスターを作成し、電子掲示板やホームページなどを通して広報を行っている。

内定者体験報告会
公務員/民間理系/民間文系

公務員志望⇒11/11(月)
民間理系志望⇒11/13(水)
民間文系志望⇒11/15(金)

内定者体験報告会【公務員編】
【内容】公務員試験に合格した先輩たちによる体験談
【日時】11/11(月)12:30~14:30 【場所】附属図書館1階キャリアカフェ

内定者体験報告会【民間理系編】
【内容】民間企業に内定した理系の先輩たちによる体験談
【日時】11/13(水)12:30~14:30 【場所】附属図書館1階キャリアカフェ

内定者体験報告会【民間文系編】
【内容】民間企業に内定した文系の先輩たちによる体験談
【日時】11/15(金)12:30~14:30 【場所】附属図書館1階キャリアカフェ

【対象】本学学部生・大学院生(学年不問)
【予約】不要。直接会場までお越しください。
【お問い合わせ】学生・キャリア支援センター
Mail: kishino.sachiko@ocha.ac.jp (岸野)

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター主催

内定者体験報告会
【教員編】

開催決定!
2/7(金)12:30~14:30
附属図書館1階キャリアカフェ

こんな人におすすめです
・漠然と教師になりたいを考えている
・民間企業や公務員と迷っている
・進路を考える上でのヒントが見つかります!

《内容》公立や私立の小・中・高等学校の教員に採用が決まった先輩学生が、後輩学生に向けて自らの体験談を語ります。※質問会もあります。
《日時》2014年2月7日(金)12:30~14:30
《場所》附属図書館1階キャリアカフェ
《対象》本学学部生・大学院生(学年不問)
《予約》不要
《本件に関するお問い合わせ》
学生・キャリア支援センター 担当: 岸野
kishino.sachiko@ocha.ac.jp

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター主催

学内広報用ポスターの例

参加した学生からの声

平成 24 年度の内定者体験報告会に参加した学生からは、以下のような声が寄せられている。



◆内定者体験報告会【公務員】編 参加者の声

内定者体験報告会【公務員】編（アンケート結果より抜粋）

- ・事務系、技術職系、いろいろな職種の方の話を開けたのが良かった。
- ・実際に内定者の方々とお話ができて勉強になりました。今後も続けてほしいです。
- ・最後に個別質問コーナーがあったのが良かったです。全体の前では話してもらいにくいお話も聞いて、不安が解消されました。
- ・来て本当に良かったです。先輩方のように一年後、後輩に素敵なアドバイスをできるよう、今からしっかり頑張りたいです。
- ・いろんなタイプの人の話を聞いて参考になりました。ありがとうございました。
- ・なかなか自分の周りに第一志望のところに内定した方がいらっしやなかったもので、良い機会でした。



◆内定者体験報告会【公務員】編 内定者の声

内定者体験報告会【公務員】編（ヒアリング結果より抜粋）

- ・参加者の方がとても熱心に聞いて下さり、嬉しかったです。役に立つことを話せたかが不安ですが、質問しに来てくれた方もいて、やって良かったと思いました。
- ・また、他の報告者の方の話も聞いて、これから頑張って働いていこうと思いました。参加させていただいて、ありがとうございました。
- ・自分の時にはこういう機会が無かったので、不安解消のよい機会だったと思う。



◆内定者体験報告会【民間企業：文系】編 参加者の声

内定者体験報告会【民間企業：文系】編（アンケート結果より抜粋）

- ・不透明だった 12 月からの予定が何となくイメージできるようになって、良かったです。
- ・企業研究など、具体的な話をお聞きすることができて、良かったです。
- ・自分の就活姿を想像するのに、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・疑問に思っていたことや、知りたかったことをお聞きすることができて、良かったです。
- ・これから就活を本格的に始めるにあたり、とても参考になる内容でした。



◆内定者体験報告会【民間企業：文系】編 内定者の声

内定者体験報告会【民間企業：文系】編（ヒアリング結果より抜粋）

- ・なかなか就活の記憶が思い出せず、うまくアドバイスできたか不安だし、未だに自分の軸が定まっていないのを再認識しました。就活生が不確かな情報によって、必要以上に不安を感じているという現実を知って、もっと自分という人間を堂々と売ってほしいなと思いました。
- ・自分が先輩方にお世話になったように、少しでも後輩の役に立てたらうれしいので、できることは何でもしたいと思いました。



◆内定者体験報告会【民間企業：理系】編 参加者の声

内定者体験報告会【民間企業：理系】編（アンケート結果より抜粋）

- ・とても近い存在であるお茶大の先輩方のリアルなお話を聞くことができたので、とても参考になりました。
- ・意識が高まりました！ありがとうございました。
- ・パネルディスカッションでの質問項目が、知りたい内容ととてもよく合っていたので、参考になりました。
- ・身近で具体的な内容で、参考になりました。
- ・不安が起き始める時期に、先輩からアドバイスをいただけて、落ち着きました。



◆内定者体験報告会【民間企業：理系】編 内定者の声

内定者体験報告会【民間企業：理系】編（ヒアリング結果より抜粋）

- ・たくさんの方が聞きに来て下さり、就活の手助けができて、良かったです。お茶大はあまりタテのつながりがなく、OG 訪問ができずに困ると思うので、OG を呼んで行う懇談会をもっと多く開いたら良いと思いました。
- ・就職活動を半年ぐらい前に終えて、記憶がおぼろげになっていたが、今回の機会でも、就職活動を振り返ることができて良かったと思う。
- ・司会の方の誘導により、言いたい事が言えました。就活の不安を少しでも和らげられたら幸いです。

「内定者体験報告会」に対するキャリア支援サポーターからの声

【公務員編】

日時：2012年10月22日（月）

対象：内定者7名（報告者：5名、司会進行：1名、運営全般：1名）

- ・自分の時にはこういう機会が無かったので、不安解消のよい機会だったと思う。
- ・先輩の話は、今現在の情報が得られるため、モチベーションが上がるきっかけになると思う。質問をしている様子も、生の声が聞きたいという学生の姿勢が感じられた。
- ・大勢の前で話すと、自分の持つどの情報が有益か、個人的な話になりすぎないか、というところに気を使いました。なので、全体（報告会）→個別（相談）という両方があったのは、良かったです。
- ・会としての対象者、目的がもう少し明確だと、深い話ができるかな、と思った。
- ・緊張して、試験についての説明を飛ばしてしまったところが反省点です。参加者の方がまずどの程度、試験のことについて知識をもっているのかわからなかったもので、最初に知らない人がどのくらいいるか、手を挙げてもらえると良かったかもしれないです。
- ・参加者の方がとても熱心に聞いて下さり、嬉しかったです。役に立つことを話せたかが不安ですが、質問しに来てくれた方もいて、やって良かったと思いました。また、他の報告者の方の話聞いて、これから頑張って働いていこうと思いました。参加させていただいて、ありがとうございました。
- ・みなさん、なごやかに質問して下さって、私も答えやすかったです。ただ、緊張していたのは、私の話（国家公務員、心理職）にどこまで需要があるのか分からなくて、ありきたりのことしか答えられなかった気がして・・・すみません。個別相談になってから、リラックスできました。私自身も、大変良い機会になりました。

【民間企業文系編】

日時：2012年10月26日（金）

対象：内定者7名（報告者：5名、司会進行：1名、運営全般：1名）

- ・なかなか就活の記憶が思い出せず、うまくアドバイスできたか不安だし、未だに自分の軸が定まっていないのを再認識しました。就活生が不確かな情報によって、必要以上に不安を感じているという現実を知って、もっと自分という人間を堂々と売ってほしいなと思いました。売るのは、専攻でも、経験でも、身分でもなくて、「人格」とか「哲学」であることを、伝えていけたらいいな、と思いました。
- ・出席者が多くて、お茶大生のまじめさに感心しました。まだ早い時期ではあるので、参加者の今後のメンタルが少し心配になりました。
- ・もう少し長かった方が良かったのでは、と思いますが、色々な都合があるので、難しいですよね...。「就活なんてクソだ！」みたいな子に、どう励ましを言えば...（気持ちはすごく分かるので）。自分をよく見せるコツが分からない子が多いように思いました。自分のさじ加減だからこそ、説明が難しかったです。

- ・簡潔に話すように、とアドバイスしつつ、だらだら話してしまった。自分が先輩方にお世話になったように、少しでも後輩の役に立てたらうれしいので、できることは何でもしたいと思いました。
- ・内定者の人数もいて、時間も限られていると、自分の考えをその場で簡潔にまとめるのが結構難しかったです（自分の能力の問題）。全体で挙手して、聞いてもらうのもあったら良かったかなと思います。
- ・業種ごとにもう少し対策を引き出せばよかったと思います。業種・ES・企業研究・面接対策なども。業界別など、細かい方が理解を深められたと思います。時期にもよるけれども...
- ・民間の人の方が、公務員より数をこなしていて、失敗の数が多い為、「こういうのはしない方がいい」という話が聞けた。「こうすれば大丈夫」よりも有効だと思います。

【民間企業理系編】

日時：2012年10月29日（金）

対象：内定者7名（報告者：5名、司会進行：1名、運営全般：1名）

- ・たくさんの方が聞きに来て下さり、就活の手助けができて、よかったです。お茶大はあまりタテのつながりがなく、OG訪問ができずに困ると思うので、OGを呼んで行う懇談会をもっと多く開いたら良いと思いました。
- ・就職活動を半年ぐらい前に終えて、記憶がおぼろげになっていたが、今回の機会で、就職活動を振り返ることができてよかったと思う。
- ・概要はなんとなく用意して挑んだが、実際にはなかなか話すことができなかつた（簡潔に話し過ぎた）。懇談会の時の質問内容については、比較的、似通っていた（なぜ、研究職に決めたのか、基礎・応用の違いなど）。
- ・司会の方の誘導により、言いたい事が言えました。就活の不安を少しでも和らげられたら幸いです。理系・文系というくくり以外に、業界別の内定者報告会があっても面白いかな、と思いました。
- ・就活について、自分で振り返るきっかけとなって良かったです。
- ・「自分の聞きたい事だけ聞く」というより、幅広い業種の内定者の話を「強制的に頭に入れることができる」ため、他業種の話の大切さ、失敗談の大切さを学ぶことができる。学生さんの意識を変えることに役だっているかな、と思いました。
- ・今日の内定者の方々は、気持ちの持ちようを強調して話していた人が多かったので、やる気が出ると思った。

本学の学生間の相互支援活動（特に就職支援）に関するキャリアサポーターへの意見

- ・相談会という形で、機会があると良いと思う。
- ・2週間に一度、公務員内定の学生による相談（予約制で予約があった時のみ開催）をやってみるとよいと思います。失敗者の話というのが無かったので、どういう人が落ちるのかわからなかった。苦労した末に内定が得られた人の話も聞いてみたい。（失敗談なら、話せます！）
- ・私の科では、意外とタテのつながり、情報交流がありません。なので、こういった先輩の声を聞けるイベントや、先輩への相談コーナー、ES添削などをしていただけると、学生として助かると思います。
- ・何とか、岸野さんのお手を借りながら、学生同士が就職支援をするという組織が作れればと思っています。お手伝いする側にも、当事者意識が足りない気がします。
- ・公務員試験のこと以外にも、就活全般について質問を受けたので、就活について悩んでいる3年生が多いのかな、と感じました。今後どう発展させていくべきかは、わかりません。すみません。
- ・就活生同士で情報を交換できる場があったらいいかも、と思いました。お茶大は、結構マイノリティで、W大とかK大に比べると学生同士の情報交換の場が少ないと思います。お茶大OG懇談会は引き続き盛大に行ってほしいと思いました。
- ・活動していく中で、不安がつのもと思うので、（めんどくさいかもしれませんが）Twitterやfacebook等の利用もあるといいかもしれないな、と思いました。
- ・編入学生は内部ラインが無いので、かわいそうかも....。
- ・去年、内定者とお話ができる機会がたくさんあれば良いなと思ったので、交流できる機会が多いと思います。同じ人ばかりではなく、日雇い？で色んな人が出てくると面白いと思います。
- ・学生間の相互支援がサークルや学部の人脈によるものが大きいと思うので、人脈があまりない人に対しても、相互支援を提供できるような機会が必要だと思いました。
- ・OB・OG訪問会を強化。現段階でも、取り組みがたくさんあると思いますが、より多くの人その活動を知れるように、広告を強化したらよいと思います。
- ・今日のような就活の報告会や懇談会をなるべく多く開いたり、OG訪問などをしやすい環境を作ったら良いと思いました。
- ・縦のつながりをもつのは、まだ難しいかな、と思います。まずは横のつながりが必要だと思います。同業界を目指す学生の集まりなど....。
- ・こういった場があると、就活生にとってプラスになると思います。

おわりに

本書は、文部科学省の特別経費による教育プロジェクト「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保障」（平成 22～25 年度）の最終報告書である。

お茶の水女子大学における学生支援は、長い間、授業料減免と学生寮という二大経済的支援を主軸とし、これに学生相談業務と就職（キャリア）支援を付け加えた形で運営されてきた。大学における学生支援のこの基本的構造は、私たちが大学生時代からずっと変わらなかつたし、また今日でも大方の大学で変わることなく継続されているように思われる。

このプロジェクトは、そうした古典的學生支援業務を、学生たちと時代の変化に適応したものに再編成し、全体として学生生活の基盤の充実を図ることにより、大学の教育機能をいっそう確かなものとすることを意図したものである。

プロジェクトの成果はこれまでの各章に詳しいが、以下のような主要な成果があったと考えている。

- ① 学生生活調査と学生支援カルテシステム 学生及び保護者を対象とした、経済的状況を含む本学独自の「学生生活調査」を毎年実施することにより、個々の学生ニーズを適確に把握する体制が整備された。ここで蒐集されたデータは、授業料免除や学生寮についての情報等とともに管理され、学生支援カルテシステムとして集約され、さまざまな学生支援情報を学生に届ける（たとえば民間奨学金の募集案内を個別学生に発信する）際等に利用される。
- ② 学生寮の新設と既存学生寮の機能整理 既存の二つの学生寮に加え、教育機能を持った新タイプの学生寮である「お茶大 SCC」を新設し、合計 3 寮の機能の整理を行った。お茶大 SCC においては、学寮アドバイザーを置いて研修プログラムを実施するほか、上級生が下級生を支援するための RA 制度を新設し、運用を開始した。
- ③ 大学独自奨学金 既存の大学独自奨学金を全面的に見直し、学部初年次から大学院までをカバーするよう制度設計を行い、種類および支援額の面でも大幅な拡充を見た。とくに学部 1、2 年生を対象に新設した予約型奨学金制度（みがかずば奨学金）は、ユニークな制度として注目を集めた。
- ④ キャリア教育とキャリア支援 これまで断片的であったキャリア教育を体系化し、本学に固有の女性のリーダーシップ教育プログラムを包含する形で「キャリアデザイン科目群」を新設した。またキャリア支援の諸プログラムを拡充・整備し、大学初年次から卒業にいたる各ステージを見据えてプログラムを配置した。

本学の学生支援は、本プロジェクトの実施によって格段の充実を見、まったく新しいものへと組織的に整備されたものと自負しているが、なお課題は多い。とりわけ、発達障害を含む障害者支援の取組はまだ緒に就いたばかりであり、成熟にはまだまだ時間と資源の投下を要する。

本プロジェクトの遂行には、数多くの任期付き教職員諸氏の貢献があった。お一人お一人のお名前を記すことはしないが、感謝したい。

平成 26 年 3 月吉日

理事・副学長（教育機構長） 耳塚寛明

統合型学生支援システム構築に係る運営会議メンバー

平成 22 年度

耳塚 寛明	理事・副学長（教育機構長）
内藤 俊史	学生支援室長（プロジェクトリーダー）
岩壁 茂	大学院人間文化創成科学研究科人間科学系 准教授
望月 由起	学生支援センター 准教授
赤坂 瑠以	学生支援センター 講師
亀山 俊朗	キャリア支援センター 講師
大槻 明	リーダーシップ養成教育研究センター 講師
岸野 幸子	キャリア支援センター 特任アソシエイトフェロー

陪席

野田 優明	学生支援チーム チームリーダー
長澤 豊	学生支援チーム 学生係
谷古宇 なぎさ	学生支援センター アカデミック・アシスタント
樋 菜美子	学生支援センター アカデミック・アシスタント

平成 23 年度

耳塚 寛明	理事・副学長（教育機構長）
藤田 宗和	学生支援室長（プロジェクトリーダー）
岩壁 茂	大学院人間文化創成科学研究科人間科学系 准教授
望月 由起	学生支援センター 准教授
亀山 俊朗	キャリア支援センター 特任准教授
桂 瑠以	学生支援センター 講師
大槻 明	リーダーシップ養成教育研究センター 講師
岸野 幸子	キャリア支援センター 特任アソシエイトフェロー

陪席

清水 孝一	学生・キャリア支援チーム チームリーダー
長澤 豊	学生・キャリア支援チーム 学生支援係
谷古宇 なぎさ	学生支援センター アカデミック・アシスタント（9月迄）
三枝 博明	学生支援センター アカデミック・アシスタント
高橋 加代	学生支援センター アカデミック・アシスタント（1月迄）
高柳 磨美	学生支援センター アカデミック・アシスタント（2月以降）

平成 24 年度

耳塚 寛明	理事・副学長（教育機構長）
藤田 宗和	学生支援室長（プロジェクトリーダー）
岩壁 茂	大学院人間文化創成科学研究科人間科学系 准教授
望月 由起	学生支援センター 准教授
亀山 俊朗	キャリア支援センター 准教授
桂 瑠以	学生支援センター 講師（2月迄）
大槻 明	リーダーシップ養成教育研究センター 講師（12月迄）
岸野 幸子	キャリア支援センター アソシエイトフェロー

陪席

清水 孝一	学生・キャリア支援チーム チームリーダー
長澤 豊	学生・キャリア支援チーム 学生支援係（8月末迄）
上 悠紀	学生・キャリア支援チーム 学生支援係（9月以降）
三枝 博明	学生・キャリア支援センター アカデミック・アシスタント
高柳 磨美	学生・キャリア支援センター アカデミック・アシスタント

平成 25 年度

耳塚 寛明	理事・副学長（教育機構長）
作田 正明	学生支援室長（プロジェクトリーダー）
荒木 美奈子	大学院人間文化創成科学研究科文化科学系 准教授
岩壁 茂	大学院人間文化創成科学研究科人間科学系 准教授
望月 由起	学生・キャリア支援センター 特任准教授
亀山 俊朗	学生・キャリア支援センター 特任准教授
岸野 幸子	学生・キャリア支援センター アソシエイトフェロー
北澤 泰子	学生・キャリア支援センター 特任アソシエイトフェロー

陪席

清水 孝一	学生・キャリア支援チーム チームリーダー（7月末迄）
富山 弘	学生・キャリア支援チーム チームリーダー（8月以降）
上 悠紀	学生・キャリア支援チーム 学生支援係
三枝 博明	学生・キャリア支援センター アカデミック・アシスタント
高柳 磨美	学生・キャリア支援センター アカデミック・アシスタント

「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」事業 最終報告書

発行日：平成26年3月

発行：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
東京都文京区大塚2-1-1

T E L : 03-5978-2646 F A X : 03-5978-5894

MAIL : gakusei@cc.ocha.ac.jp